

基本計画書

基本計画									
事項		記入欄						備考	
計画の区分		学部の設置							
フリガナ設置者		コリツカ ^リ イカ ^ダ アキタ ^ウ ニヴァ ^リ テイ アキタ ^ウ ニヴァ ^リ テイ 国立大学法人 秋田大学							
フリガナ大学の名称		アキタ ^ウ ニヴァ ^リ テイ 秋田大学 (Akita University)							
大学本部の位置		秋田県秋田市手形学園町1番1号							
大学の目的		秋田大学は、知の創生を通じて地域と共に発展し、地域と共に歩むという存立の理念を掲げ、豊かな地域資源を有する北東北の基幹的な大学として、その使命である教育と研究を推進する。 この見地から本学は、独創的な成果を世界に発信しつつ、国内外の意欲的な若者を受け入れ、優れた人材を育成するため、地域や世界の諸機関との連携による柔軟な教育研究体制の構築を推進する。							
新設学部等の目的		地域社会においては、人口減少に伴う複雑な社会課題が生じているが、各種サービス、産業の生産性、県民生活の利便性等の向上を図るには、デジタル技術の普及とこれを活用できる人材育成が必要となっている。情報データ科学部を設置する目的は、情報学とデータサイエンスを体系的に学び、身に付けた情報技術の知識とデータ解析スキルを活用して諸課題の解決を図り、新たな価値を創造することができるデジタル人材を養成することである。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
	情報データ科学部 情報データ科学科 計	年	人	年次人	人	学士 (情報データ科学)	工学関係	年 月 第 年次	秋田県秋田市手形学園町1番1号
		4	100	—	400			令和7年4月 第1年次	
			100	—	400				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		総合環境理工学部 応用化学生物学科 (100) (令和6年4月 事前相談) (3年次編入学定員) (2) 環境数物科学科 (90) (令和6年4月 事前相談) (3年次編入学定員) (2) 社会システム工学科 (125) (令和6年4月 事前相談) (3年次編入学定員) (8) 教育文化学部 地域文化学科[定員減] (△ 20) (令和7年4月) 理工学部 生命科学科 (廃止) (△ 45) 物質科学科 (廃止) (△110) 数理・電気電子情報学科 (廃止) (△120) システムデザイン工学科 (廃止) (△120) 各学科共通 (3年次編入学定員) (△ 12) ※令和7年4月学生募集停止 (3年次編入学定員は令和9年4月学生募集停止)							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	情報データ科学部 情報データ科学科	講義	演習	実験・実習	計	124 単位			
		240 科目	164 科目	5 科目	409 科目				
学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)	
		教授	准教授	講師	助教	計			
新設分	情報データ科学部 情報データ科学科	8人 (9)	6人 (6)	6人 (6)	3人 (3)	23人 (24)	0人 (0)	93人 (93)	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	8 (9)	4 (4)	6 (6)	3 (3)	21 (22)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			

大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数
11人

	小計（a～b）	8 (9)	4 (4)	6 (6)	3 (3)	21 (22)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	2 (2)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	8 (9)	6 (6)	6 (6)	3 (3)	23 (24)			
総合環境理工学部 応用化学生物学科							0 (0)	150 (147)	令和6年4月事前相談
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	7 (10)	9 (9)	4 (5)	4 (4)	24 (28)			大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 7人
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	7 (10)	9 (9)	4 (5)	4 (4)	24 (28)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	7 (10)	9 (9)	4 (5)	4 (4)	24 (28)			
総合環境理工学部 環境数物数学科							0 (0)	142 (138)	令和6年4月事前相談
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 (7)	9 (11)	8 (8)	5 (5)	27 (31)			大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 7人
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	5 (7)	9 (11)	8 (8)	5 (5)	27 (31)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	5 (7)	9 (11)	8 (8)	5 (5)	27 (31)			
総合環境理工学部 社会システム工学科							0 (0)	146 (143)	令和6年4月事前相談
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	9 (12)	14 (14)	5 (5)	9 (9)	37 (40)			大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 8人
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	9 (12)	14 (14)	5 (5)	9 (9)	37 (40)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	9 (12)	14 (14)	5 (5)	9 (9)	37 (40)			
	計	29 (38)	38 (40)	23 (24)	21 (21)	111 (123)	0 (0)	— (—)	

既設分	国際資源学部 国際資源学科					18 (18)	12 (12)	2 (2)	14 (14)	46 (46)	0 (0)	39 (39)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	18 (18)	12 (12)	2 (2)	14 (14)	46 (46)						
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
	小計（a～b）	18 (18)	12 (12)	2 (2)	14 (14)	46 (46)						
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
	計（a～d）	18 (18)	12 (12)	2 (2)	14 (14)	46 (46)						
	教育文化学部 学校教育課程					11 (11)	15 (15)	10 (10)	2 (2)	38 (38)	0 (0)	62 (62)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	11 (11)	15 (15)	10 (10)	2 (2)	38 (38)						
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
	小計（a～b）	11 (11)	15 (15)	10 (10)	2 (2)	38 (38)						
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
	計（a～d）	11 (11)	15 (15)	10 (10)	2 (2)	38 (38)						
	教育文化学部 地域文化学科					14 (14)	19 (19)	8 (8)	2 (2)	43 (43)	0 (0)	22 (22)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	14 (14)	19 (19)	8 (8)	2 (2)	43 (43)						
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
	小計（a～b）	14 (14)	19 (19)	8 (8)	2 (2)	43 (43)						
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
	計（a～d）	14 (14)	19 (19)	8 (8)	2 (2)	43 (43)						
	医学部 医学科					34 (34)	19 (19)	25 (25)	73 (73)	151 (151)	0 (0)	102 (102)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	34 (34)	19 (19)	25 (25)	73 (73)	151 (151)						
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
	小計（a～b）	34 (34)	19 (19)	25 (25)	73 (73)	151 (151)						

		c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
		d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
		計（a～d）	34 (34)	19 (19)	25 (25)	73 (73)	151 (151)		
医学部 保健学科			13 (13)	11 (11)	6 (6)	20 (20)	50 (50)	0 (0)	82 (82)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの		13 (13)	11 (11)	6 (6)	20 (20)	50 (50)		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計（a～b）		13 (13)	11 (11)	6 (6)	20 (20)	50 (50)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計（a～d）		13 (13)	11 (11)	6 (6)	20 (20)	50 (50)		
計			90 (90)	76 (76)	51 (51)	111 (111)	328 (328)	0 (0)	— (—)
合 計			119 (128)	114 (116)	74 (75)	132 (132)	439 (451)	0 (0)	— (—)
職 種			専 属		その他		計		
事 務 職 員			275 (275)		173 (173)		448 (448)		
技 術 職 員			948 (948)		125 (125)		1,073 (1073)		
図 書 館 職 員			12 (12)		12 (12)		24 (24)		
そ の 他 の 職 員			0 (0)		13 (13)		13 (13)		
指 導 補 助 者			0 (0)		0 (0)		0 (0)		
計			1235 (1235)		323 (323)		1558 (1558)		
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の学校等の専用		計		
	校 舎 敷 地	330,813 m ²	— m ²		— m ²		330,813 m ²		
	そ の 他	131,123 m ²	— m ²		— m ²		131,123 m ²		
	合 計	461,936 m ²	— m ²		— m ²		461,936 m ²		
校 舎		専 用	共 用		共用する他の学校等の専用		計		
		140,645 m ² (140,645 m ²)	— m ² (— m ²)		— m ² (— m ²)		140,645 m ² (140,645 m ²)		
教 室 ・ 教 員 研 究 室		教 室	807 室		教 員 研 究 室		24 室		
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕冊	電子図書 〔うち外国書〕		学術雑誌 〔うち外国書〕種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点	学部等単位での特定不能なため、大学全体の数
	情報データ科学部 情報データ科学科	580,371 [174,418] (563,307 [172,374])	13,729 [979] (10,329 [591])		21,051 [10,752] (21,039 [10,748])	7,918 [6,352] (7,918 [6,352])	() ()	() ()	
	計	580,371 [174,418] (563,307 [172,374])	13,729 [979] (10,329 [591])		21,051 [10,752] (21,039 [10,748])	7,918 [6,352] (7,918 [6,352])	() ()	() ()	

スポーツ施設等			スポーツ施設		講堂			厚生補導施設			大学全体
			717 m ²		— m ²			9,428 m ²			
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費（運営費交付金）による	
		教員1人当り研究費等		—	—	—	—	—	—		
		共同研究費等		—	—	—	—	—	—		
		図 書 購 入 費	—	—	—	—	—	—	—		
		設 備 購 入 費	—	—	—	—	—	—	—		
	学生1人当り納付金			第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
				— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要			—								
既設大学等の状況	大 学 等 の 名 称		秋田大学								
	学 部 等 の 名 称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所 在 地	
	国際資源学部		年	人	年次人	人		倍		秋田県秋田市手形学園町1番1号	
	国際資源学科		4	120	—	480	学士(資源学)	1.09	平成26年度		
	教育文化学部							1.07		秋田県秋田市手形学園町1番1号	
	学校教育課程		4	110	—	440	学士(学校教育)	1.07	平成10年度		
	地域文化学科		4	100	—	400	学士(地域文化)	1.07	平成26年度		
	医学部							1.00		秋田県秋田市本道一丁目1番1号	
	医学科		6	124	2年次5	769	学士(医学)	1.01	昭和45年度		
	保健学科		4	106	3年次14	452	学士(保健学)	0.97	平成14年度		
							学士(看護学)				
	理工学部							1.08		秋田県秋田市手形学園町1番1号	
	生命科学科		4	45	—	180	学士(理学)	1.02	平成26年度		
	物質科学科		4	110	—	440	学士(理工学)	1.04	平成26年度		
	数理・電気電子情報学科		4	120	—	480	学士(理学)	1.08	平成26年度		
							学士(工学)				
	システムデザイン工学科		4	120	—	480	学士(工学)	1.11	平成26年度		
	各学科共通				3年次12	24					
	大学院国際資源学研究科							1.51		秋田県秋田市手形学園町1番1号	
	(博士前期課程)							1.46			
	資源地球科学専攻		2	17	—	34	修士(資源学)	1.56	平成28年度		
							修士(理学)				
	資源開発環境学専攻		2	23	—	46	修士(資源学)	1.39	平成28年度		
							修士(工学)				

	(博士後期課程)						1. 63		
	資源学専攻	3	10	—	30	博士(資源学)	1. 63	平成28年度	
						博士(理学)			
						博士(工学)			
	大学院教育学研究科						0. 94		秋田県秋田市手形学園町1番1号
	(修士課程)						1. 25		
	心理教育実践専攻	2	6	—	12	修士(教育学)	1. 25	平成28年度	
	(専門職学位課程)						0. 85		
	教職実践専攻	2	20	—	40	教育修士(専門職)	0. 85	平成28年度	
	大学院医学系研究科						1. 44		秋田県秋田市本道一丁目1番1号
	(修士課程)						0. 60		
	医科学専攻	2	5	—	10	修士(医科学)	0. 60	平成29年度	
	(博士前期課程)						1. 21		
	保健学専攻	2	12	—	24	修士(看護学)	1. 21	平成19年度	
						修士(リハビリテーション科学)			
	(博士後期課程)						1. 55		
	保健学専攻	3	3	—	9	博士(保健学)	1. 55	平成21年度	
	(博士課程)						1. 56		
	医学専攻	4	30	—	120	博士(医学)	1. 56	平成19年度	
	大学院理工学研究科						1. 14		秋田県秋田市手形学園町1番1号
	(博士前期課程)						1. 09		
	生命科学専攻	2	15	—	30	修士(理学)	1. 43	平成28年度	
	物質科学専攻	2	40	—	80	修士(理工学)	1. 08	平成28年度	
	数理・電気電子情報学専攻	2	45	—	90	修士(理学)	0. 98	平成28年度	
						修士(工学)			
	システムデザイン工学専攻	2	32	—	64	修士(工学)	1. 00	平成28年度	
	共同サステナブル工学専攻	2	18	—	36	修士(工学)	1. 28	令和4年度	
	(博士後期課程)						1. 60		
	総合理工学専攻	3	10	—	30	博士(理学)	1. 60	平成28年度	
						博士(理工学)			
						博士(工学)			
	大学院工学資源学研究科						—		秋田県秋田市手形学園町1番1号
	(博士後期課程)						—		

電気電子情報システム工学専攻	3	—	—	—	博士(工学)	—	平成14年度	平成28年度より 学生募集停止
附属施設の概要	名称：医学部附属病院 目的：患者の治療を通じて、医学の教育、研究を推進する。 所在地：秋田市本道一丁目1の1（本道キャンパス） 設置年月：昭和46年4月 規模等：土地 168,219㎡ 建物 58,212㎡ 名称：産学連携推進機構 目的：秋田大学と民間機関等との共同研究の推進、知的財産の機関管理、研究成果の知的財産化及び知的財産の社会還元を促進し、社会における技術開発の振興及び技術発展に寄与する。 所在地：秋田市手形学園町1番1号（手形キャンパス） 設置年月：平成19年11月 規模等：土地 200,250㎡ 建物 — 名称：情報統括センター 目的：キャンパス情報ネットワークを運用して、教育・研究の高度情報化を推進する。 所在地：秋田市手形学園町1番1号（手形キャンパス） 設置年月：昭和64年1月 規模等：土地 200,250㎡ 建物 994㎡ 名称：バイオサイエンス教育・研究サポートセンター 目的：先進医学や福祉など広くバイオサイエンスにおける国際的な拠点となる研究並びに人材育成を推薦する。 所在地：秋田市本道一丁目1の1（本道キャンパス） 設置年月：平成16年4月 規模等：土地 168,219㎡ 建物 7,359㎡ 名称：放射性同位元素センター 目的：放射性同位元素を適正に管理し、放射性同位元素を使用した教育・研究を推進する。 所在地：秋田市手形学園町1番1号（手形キャンパス） 設置年月：昭和47年6月 規模等：土地 200,250㎡ 建物 338㎡ 名称：環境安全センター 目的：教育、研究、診療に伴い生ずる有害物質を含む廃液等の適正な処理、その処理に関する技術開発を促進する。 所在地：秋田市本道一丁目1の1（本道キャンパス） 設置年月：平成11年4月 規模等：土地 168,219㎡ 建物 366㎡ 名称：グローバルリソース研究機構 目的：国際的視野を持つ高度資源開発人材の養成と我国の資源セキュリティ及び安定供給体制の確立に貢献すると共に、国際資源人材ネットワークを通して一層の国際交流及び国際貢献を図る。 所在地：秋田市手形学園町1番1号（手形キャンパス） 設置年月：令和5年11月 規模等：土地 200,250㎡ 建物 — 名称：地方創生センター 目的：自治体と大学との円滑な連携と、地域が抱える課題や地域活性について、大学が有する知的資源及び学生を含めた人的資源等の提供と、自治体との綿密な連携体制の確立により、課題の解決を図る等地域の一層の発展に寄与する。 所在地：秋田市手形学園町1番1号（手形キャンパス） 設置年月：平成23年4月 規模等：土地 200,250㎡ 建物 — 名称：高齢者医療先端研究センター 目的：高齢者医療等に関する体制充実を図ることにより、認知症及び地域社会学の知見を踏まえた高齢化社会の学際的研究と高齢者医療の先端的研究を推進し、地域医療の向上と長寿・健康教育研究の発展に寄与することを目的とする。 所在地：秋田市本道一丁目1の1（本道キャンパス） 設置年月：平成30年1月 規模等：土地 168,219㎡ 建物 —							

名 称：電動化システム共同研究センター 目 的：産学官共同による電動化システムの研究開発体制の整備を図り、高度人材が活躍することができる創造的将来産業を創出し、地域の持続的発展と活力ある地域社会の実現に寄与する。 所 在 地：秋田市手形学園町 1 番 1 号（手形キャンパス） 設置年月：令和3年4月 規 模 等：土地 200,250㎡ 建物 -
名 称：自殺予防総合研究センター 目 的：自殺予防対策等に関する各種プログラムの開発、各種開発プログラムを活用した総合的な事業展開、自殺予防対策等に関する各種調査・研究・分析及び支援等を実施し、自殺死亡者減少を目指す。 所 在 地：秋田市本道一丁目 1 の 1（本道キャンパス） 設置年月：令和3年4月 規 模 等：土地 168,219㎡ 建物 -
名 称：地域防災減災総合研究センター 目 的：地域の防災及び減災に係る教育研究を推進するとともに、災害の発生メカニズムに関する本学の研究成果等を活用し、地域連携による地域の防災・減災力の強化を図ることを目的とする。 所 在 地：秋田市手形学園町 1 番 1 号（手形キャンパス） 設置年月：令和4年4月 規 模 等：土地 200,250㎡ 建物 -
名 称：感染統括制御・疫学・分子病態研究センター 目 的：感染症に関する臨床と基礎研究の融合と交流レベルを高め、臨床・研究の両面での活動成果を世界に発信するとともに、感染症対応医療人材及び感染症研究者を育成し、感染症の臨床と基礎研究をリードする活動拠点とすることを目的とする。 所 在 地：秋田市本道一丁目 1 の 1（本道キャンパス） 設置年月：令和5年4月 規 模 等：土地 168,219㎡ 建物 -
名 称：A I 研究推進センター 目 的：A I 研究の推進とその研究成果の社会実装を通じて、A I 関連技術を普及させ新たなイノベーションを創出するとともに、デジタル人材が活躍することができる創造的な将来の産業を創出することにより、地域の持続的な発展と活力ある地域社会の実現に寄与することを目的とする。 所 在 地：秋田市手形学園町 1 番 1 号（手形キャンパス） 設置年月：令和6年3月 規 模 等：土地 200,250㎡ 建物 -
名 称：リカレント教育センター 目 的：リカレント教育の推進に寄与するとともに、本学の教育研究機能の充実を図ることを目的とする。 所 在 地：秋田市手形学園町 1 番 1 号（手形キャンパス） 設置年月：令和6年3月 規 模 等：土地 200,250㎡ 建物 -
名 称：保健管理センター 目 的：学生・教職員の健康管理を行い、心身の健康の保持増進を図る。 所 在 地：秋田市手形学園町 1 番 1 号（手形キャンパス） 設置年月：昭和49年4月 規 模 等：土地 200,250㎡ 建物 562㎡

国立大学法人秋田大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
秋田大学				秋田大学				
国際資源学部				国際資源学部				
国際資源学科	120	-	480	国際資源学科	120	-	480	
教育文化学部				教育文化学部				
学校教育課程	110	-	440	学校教育課程	110	-	440	
地域文化学科	100	-	400	地域文化学科	80	-	320	定員変更(△20)
医学部		2年次		医学部		2年次		
医学科	95	5	595	医学科	95	5	595	
保健学科	106	14	452	保健学科	106	14	452	
理工学部		3年次				3年次		
生命科学科	45	-	180		0	-	0	令和7年4月学生募集停止
物質科学科	110	-	440		0	-	0	令和7年4月学生募集停止
数理・電気電子情報学科	120	-	480		0	-	0	令和7年4月学生募集停止
システムデザイン工学科	120	-	480		0	-	0	令和7年4月学生募集停止
各学科共通		12	24			0	0	令和9年4月学生募集停止
				総合環境理工学部		3年次		学部の設置(事前相談)
				応用化学生物学科	100	2	404	
				環境数物科学科	90	2	364	
				社会システム工学科	125	8	516	
				情報データ科学部				学部の設置(事前相談)
				情報データ科学科	100	-	400	
計	926	5 3年次 26	3,971	計	926	5 3年次 26	3,971	
秋田大学大学院				秋田大学大学院				
国際資源学研究科				国際資源学研究科				
資源地球科学専攻(M)	17	-	34	資源地球科学専攻(M)	17	-	34	
資源開発環境学専攻(M)	23	-	46	資源開発環境学専攻(M)	23	-	46	
資源学専攻(D)	10	-	30	資源学専攻(D)	10	-	30	
教育学研究科				教育学研究科				
心理教育実践専攻(M)	6	-	12	心理教育実践専攻(M)	6	-	12	
教職実践専攻(M)	20	-	40	教職実践専攻(M)	20	-	40	
医学系研究科				医学系研究科				
医科学専攻(M)	5	-	10	医科学専攻(M)	5	-	10	
(うち、医科学専攻から先進ヘルスケア工 学院の内数とする入学定員数及び収容定員数)	(3)	-	(6) ※	(うち、医科学専攻から先進ヘルスケア工 学院の内数とする入学定員数及び収容定員数)	(3)	-	(6) ※	
保健学専攻(M)	12	-	24	保健学専攻(M)	12	-	24	
医学専攻(D)	30	-	120	医学専攻(D)	30	-	120	
保健学専攻(D)	3	-	9	保健学専攻(D)	3	-	9	
理工学研究科				理工学研究科				
生命科学専攻(M)	15	-	30	生命科学専攻(M)	15	-	30	
物質科学専攻(M)	40	-	80	物質科学専攻(M)	40	-	80	
数理・電気電子情報学専攻(M)	45	-	90	数理・電気電子情報学専攻(M)	45	-	90	
システムデザイン工学専攻(M)	32	-	64	システムデザイン工学専攻(M)	32	-	64	
(うち、システムデザイン工学専攻から先進ヘル スケア工学院の内数とする入学定員数及び収 容定員数)	(7)	-	(14) ※	(うち、システムデザイン工学専攻から先進 ヘルスケア工学院の内数とする入学定員数 及び収容定員数)	(7)	-	(14) ※	
共同サステナブル工学専攻(M)	18	-	36	共同サステナブル工学専攻(M)	18	-	36	
総合理工学専攻(D)	10	-	30	総合理工学専攻(D)	10	-	30	
先進ヘルスケア工学院(M)	(10)	-	(20) ※	先進ヘルスケア工学院(M)	(10)	-	(20) ※	
計	286	-	655	計	286	-	655	
※先進ヘルスケア工学院(M)の入学定員及び収容定員は、医学系研究科医科学専攻(M)及び理工学研究科システムデザイン工学専攻(M)の内数とする。				※先進ヘルスケア工学院(M)の入学定員及び収容定員は、医学系研究科医科学専攻(M)及び理工学研究科システムデザイン工学専攻(M)の内数とする。				

設置の前後における学位等及び基幹教員の所属の状況

届 出 時 に お け る 状 況						新 設 了 学 部 等 の 学 年 進 行 状 況					
学部等の名称	授与する学位等		異 動 先	専任教員		学部等の名称	授与する学位等		異 動 元	基幹教員	
	学位又は 称号	学位又は 学科の分野		助教 以上	うち 教授		学位又は 称号	学位又は 学科の分野		助教 以上	うち 教授
理工学部 生命科学科 (廃止)	学士(理学)	理学関係	情報データ科学部情報データ科学科	0	0	情報データ科学部 情報データ科学科	学士(情報データ科学)	工学関係	理工学部数理・電気電子情報学科	7	2
			総合環境理工学部応用化学生物学科	8	3				理工学部システムデザイン工学科	5	2
			総合環境理工学部環境数物科学科	0	0				教育文化学部地域文化学科	3	1
			総合環境理工学部社会システム工学科	0	0				地域防災減災総合研究センター	1	1
			退職	2	2				産学連携推進機構	1	0
									情報統括センター	1	0
									新学部設置準備担当	5	2
			計	10	5				計	23	8
理工学部 物質科学科 (廃止)	学士(理工学)	理学関係 工学関係	情報データ科学部情報データ科学科	0	0						
			総合環境理工学部応用化学生物学科	15	4						
			総合環境理工学部環境数物科学科	5	1						
			総合環境理工学部社会システム工学科	6	3						
			退職	3	1						
			計	29	9				計	0	0
理工学部 数理・電気電子情報学科 (廃止)	学士(理学) 学士(工学)	理学関係 工学関係	情報データ科学部情報データ科学科	7	2						
			総合環境理工学部応用化学生物学科	0	0						
			総合環境理工学部環境数物科学科	19	4						
			総合環境理工学部社会システム工学科	9	2						
			退職	4	3						
			計	39	11				計	0	0
理工学部 システムデザイン工学科 (廃止)	学士(工学)	工学関係	情報データ科学部情報データ科学科	5	2						
			総合環境理工学部応用化学生物学科	0	0						
			総合環境理工学部環境数物科学科	3	0						
			総合環境理工学部社会システム工学科	22	4						
			退職	3	3						
			計	33	9						
教育文化学部 地域文化学科	学士(地域文化)	文学関係 社会学・社会福祉学関係 家政関係 法学関係	情報データ科学部情報データ科学科	3	1						
			教育文化学部地域文化学科	39	13						
			計	42	14						

基 礎 と な る 学 部 等 の 改 編 状 況

開設又は 改編時期	改 編 内 容 等	学 位 又 は 学 科 の 分 野	手 続 きの 区 分
平成10年4月	工学資源学部 設置(鉱山学部の改組) 地球資源学科、環境物質工学科、材料工学科、 情報工学科、機械工学科、電気電子工学科、 土木環境工学科	工学関係	設置認可 (学部)
平成20年4月	工学資源学部 環境応用化学科、生命化学科 設置(環境物質工学科の改組・再編)	理学関係 工学関係	事前伺い (学科)
平成26年4月	理工学部 設置(工学資源学部の改組) 生命科学科、物質科学科、数理・電気電子情報学科、 システムデザイン工学科	理学関係 工学関係	意見伺い (学部)
令和7年4月	情報データ科学部 設置 情報データ科学科	工学関係	事前相談 (学部)

教 育 課 程 等 の 概 要

（情報データ科学部 情報データ科学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教員 以外 の教員	
教養 教育 科目	初年次ゼミⅠ	1①		1			○			8						オムニバス
	初年次ゼミⅡ	1②		1			○			8						オムニバス
	小計 2 科目	－	－	2	0	0	－			8						
主 題 別 科 目	データサイエンスリテラシー概論	1①-④		1			○								1	メディア
	教養ゼミナールⅠ	1①-④			1		○								1	
	教養ゼミナールⅡ	2①-④			2		○								1	
	法学入門Ⅰ	1①			1		○								1	
	法学入門Ⅱ	1②			1		○								1	
	日本国憲法Ⅰ	1①			1		○								1	
	日本国憲法Ⅱ	1②			1		○								1	
	現代社会と経済Ⅰ	1①			1		○					1				
	現代社会と経済Ⅱ	1②			1		○					1				
	現代社会と経済Ⅲ	1①			1		○								1	
	現代社会と経済Ⅳ	1②			1		○								1	
	現代社会と経済Ⅴ	1③			1		○								1	
	現代社会と経済Ⅵ	1④			1		○								1	
	現代社会と企業経営Ⅰ	1①			1		○								1	
	現代社会と企業経営Ⅱ	1②			1		○								1	
	現代社会と政治Ⅰ	1①			1		○								1	
	現代社会と政治Ⅱ	1②			1		○								1	
	国際政治経済Ⅰ	1①			1		○								1	
	国際政治経済Ⅱ	1②			1		○								1	
	社会と家族Ⅰ	1③			1		○								1	
	社会と家族Ⅱ	1④			1		○								1	
	倫理リテラシーⅠ	1①			1		○								1	
	倫理リテラシーⅡ	1②			1		○								1	
	男女共同参画社会論	1③			1		○								1	
	地誌学入門Ⅰ	1①			1			○							1	
	地誌学入門Ⅱ	1②			1			○							1	
	社会と地域Ⅰ	1①			1		○								1	
	社会と地域Ⅱ	1②			1		○								1	
	金融リテラシー講座Ⅰ	1①			1		○								1	
	金融リテラシー講座Ⅱ	1②			1		○								1	
	ものづくりと知的財産	1①			1		○				1					
	観光学入門Ⅰ	1③			1		○				1					
	観光学入門Ⅱ	1④			1		○				1					
	障害者と社会参加の基礎	1①			1		○								1	
	障害者と社会参加の実践	1②			1		○								1	
	心理学Ⅰ	1①			1		○								1	
	心理学Ⅱ	1②			1		○								1	
	人間関係論Ⅰ	1①			2		○								1	
	人間関係論Ⅱ	1③			2		○								1	
	日本語表現の諸相Ⅰ	1③			1		○								1	
	日本語表現の諸相Ⅱ	1④			1		○								1	
	現代社会と教育Ⅰ	1③			1		○								1	

教 育 課 程 等 の 概 要

（情報データ科学部 情報データ科学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教員 以外 の教員 （助手を除く）	
教養 教育 科目	現代社会と教育Ⅱ	1④			1		○								1	
	Japanese Culture	1①			1		○								1	
	Japanese Thought	1③			1		○								1	
	子ども家庭支援論Ⅰ	1③			1		○								1	
	子ども家庭支援論Ⅱ	1④			1		○								1	
	芸術と文化Ⅰ	1①			1		○								1	
	芸術と文化Ⅱ	1②			1		○								1	
	情報デザインⅠ	1①			1		○								1	
	情報デザインⅡ	1②			1		○								1	
	西洋社会の歴史Ⅰ	1①			1		○								1	
	西洋社会の歴史Ⅱ	1②			1		○								1	
	科学史入門Ⅰ	1①			1		○								1	
	科学史入門Ⅱ	1②			1		○								1	
	多文化コミュニケーション入門Ⅰ	1①			1			○							1	
	多文化コミュニケーション入門Ⅱ	1②			1			○							1	
	多文化コミュニケーション入門Ⅲ	1③			1			○							1	
	多文化コミュニケーション入門Ⅳ	1④			1			○							1	
	日本文化入門Ⅰ	1①			1			○							1	
	日本文化入門Ⅱ	1②			1			○							1	
	日本文化入門Ⅲ	1③			1			○							1	
	日本文化入門Ⅳ	1④			1			○							1	
	日本社会入門Ⅰ	1①			1		○								1	
	日本社会入門Ⅱ	1②			1		○								1	
	日本社会入門Ⅲ	1③			1		○								1	
	日本社会入門Ⅳ	1④			1		○								1	
	日本語教育学入門Ⅰ	1①			1		○								1	
	日本語教育学入門Ⅱ	1②			1		○								1	
	日本語教育学入門Ⅲ	1③			1		○								1	
	日本語教育学入門Ⅳ	1④			1		○								1	
	Introduction to Participatory WorkshopsⅠ	1①			1		○								1	
	Introduction to Participatory WorkshopsⅡ	1②			1		○								1	
	Introduction to Participatory WorkshopsⅢ	1③			1		○								1	
	Introduction to Participatory WorkshopsⅣ	1④			1		○								1	
	Japanese in Indonesia (1600-1945)	1③			1		○								1	
	Modern Indonesian History	1④			1		○								1	
	インドネシア語入門Ⅰ	1①			2			○							1	
	インドネシア語入門Ⅱ	1②			2			○							1	
	哲学入門Ⅰ	1③			1		○								1	
	哲学入門Ⅱ	1④			1		○								1	
	有機資源の産業利用と環境保全	1①			1		○								1	
	天体観測入門	1①			1			○							1	
	地球の環境と資源Ⅰ	1①			1		○								1	
	地球の環境と資源Ⅱ	1②			1		○								1	
	地球の環境と資源Ⅲ	1①			1		○								1	

教 育 課 程 等 の 概 要

（情報データ科学部 情報データ科学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教員 以外 の教員 （助手を除く）	
教養教育科目	主 題 別 科 目															
	ライフサイエンスⅠ	1①			1		○								1	
	ライフサイエンスⅡ	1①			1		○								1	
	化学の世界	1②			1		○								1	
	材料の世界	1②			1		○								1	
	コンピュータの科学Ⅰ	1①			1		○								1	
	コンピュータの科学Ⅱ	1②			1		○								1	
	はじめての天文学	1①			1		○								1	
	自然環境と住まいⅠ	1③			1		○								1	
	自然環境と住まいⅡ	1④			1		○								1	
	温泉科学概論Ⅰ	1③			1		○								1	
	温泉科学概論Ⅱ	1④			1		○								1	
	自然地理学入門Ⅰ	1①			1		○								1	
	自然地理学入門Ⅱ	1②			1		○								1	
	Environment and engineering	1③			1		○								1	
	食と健康Ⅰ	1①			1		○								1	
	食と健康Ⅱ	1②			1		○								1	
	グローバル・ヘルスとトラベル・メ ディスン	1②			1		○								1	
	医学と健康Ⅰ	1①			1		○								1	
	医学と健康Ⅱ	1①			1		○								1	
	医学と健康Ⅲ	1①			1		○								1	
	医学と健康Ⅳ	1②			1		○								1	
	がん医療と緩和ケア	1③			2		○								1	
	大学生と健康	1①			2		○								1	
	生命と健康Ⅰ	1③			1		○								1	
	生命と健康Ⅱ	1①			1		○								1	
	臨床医学入門Ⅰ	1①			1		○								1	
	臨床医学入門Ⅱ	1②			1		○								1	
	秋田の歴史	1①			1		○								1	
	秋田の自然と文化	1②			1		○								1	
	防災学基礎	1①			1		○			1						
	農村地理学入門Ⅰ	1①			1		○								1	
	農村地理学入門Ⅱ	1②			1		○								1	
	キャリアデザイン基礎	1②			1		○								1	
	起業力養成ゼミナールⅠ	1①			1		○				1					
	起業力養成ゼミナールⅡ	1②			1		○				1					
	起業力養成ゼミナールⅢ	1休			1		○				1					
	スタートアップ実践	1④			1		○				1					
	地域キャリアデザイン	1②			1		○				1					
	地方創生DX基礎 1	1①			1		○			1	1					共同 共同 共同
	地方創生DX基礎 2	1②			1		○			1	1					
	地方創生DX基礎実践	1休			1			○		1	1					
	秋田のくらし	1②			1		○		○						1	
	超高齢社会と健康寿命	1④			1		○								1	
	秋田の産業	1③			1		○								1	
	秋田の再生可能エネルギー	1②			1		○								1	
	日本語リテラシーⅠ	1①			1		○								1	
	日本語リテラシーⅡ	1②			1		○								1	

教 育 課 程 等 の 概 要

（情報データ科学部 情報データ科学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教員 以外 の教員	
教養 教育 科目	主題別科目	日本語リテラシーⅢ	1③		1			○							1	
		日本語リテラシーⅣ	1④		1			○							1	
		秋田大学論	1③		1		○								1	
		情報と知識・技術	1②		1		○								1	
		フィールド活動の基礎Ⅰ	1③		1		○								1	
		フィールド活動の基礎Ⅱ	1④		1		○								1	
		留学生のための課題研究Ⅰ	1③		1		○								1	
		留学生のための課題研究Ⅱ	1④		1		○								1	
		留学生のための課題研究Ⅲ	1①		1		○								1	
		留学生のための課題研究Ⅳ	1②		1		○								1	
		鉱業博物館業務体験	1～4休		1			○							1	
		学外活動体験Ⅰ	1～4休		2			○		8						
		学外活動体験Ⅱ	1～4休		2			○		8						
		学外活動体験Ⅲ	1～4休		2			○		8						
	小計 147 科目		-	-	1	156	0	-		8	2	1			62	
国 際 言 語 科 目	英語Certificate	1①-④			1			○							1	メディア
	日本語Certificate	1①-④			1			○							1	メディア
	大学英語Ⅰ	1①		1				○							1	
	大学英語Ⅱ	1②		1				○							1	
	大学英語Ⅲ	1③		1				○							1	
	大学英語Ⅳ	1④		1				○							1	
	大学英語Ⅴ	2①		1				○							1	
	大学英語Ⅵ	2②		1				○							1	
	理系英会話Ⅰ	2③			1			○							1	
	理系英会話Ⅱ	2④			1			○							1	
	ドイツ語Ⅰ	1①			1			○							1	
	ドイツ語Ⅱ	1②			1			○							1	
	ドイツ語Ⅲ	1③			1			○							1	
	ドイツ語Ⅳ	1④			1			○							1	
	ドイツ語会話Ⅰ	1休			0.5			○							1	
	ドイツ語会話Ⅱ	1休			0.5			○							1	
	実践ドイツ語会話Ⅰ	2休			0.5			○							1	
	実践ドイツ語会話Ⅱ	2休			0.5			○							1	
	実践ドイツ語会話Ⅲ	2休			0.5			○							1	
	実践ドイツ語会話Ⅳ	2休			0.5			○							1	
	フランス語Ⅰ	1①			1			○							1	
	フランス語Ⅱ	1②			1			○							1	
	フランス語Ⅲ	1③			1			○							1	
	フランス語Ⅳ	1④			1			○							1	
	フランス語会話Ⅰ	1休			0.5			○							1	
	フランス語会話Ⅱ	1休			0.5			○							1	
	実践フランス語会話Ⅰ	2休			0.5			○							1	
	実践フランス語会話Ⅱ	2休			0.5			○							1	
	実践フランス語会話Ⅲ	2休			0.5			○							1	
	実践フランス語会話Ⅳ	2休			0.5			○							1	
	ロシア語Ⅰ	1①			1			○							1	
	ロシア語Ⅱ	1②			1			○							1	
	ロシア語Ⅲ	1③			1			○							1	
	ロシア語Ⅳ	1④			1			○							1	

教 育 課 程 等 の 概 要

（情報データ科学部 情報データ科学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教 員 以 外 の 教 員 （ 助 手 を 除 く ）	
教 養 教 育 科 目	国際言語科目															
	ロシア語会話Ⅰ	1①			0.5			○							1	
	ロシア語会話Ⅱ	1②			0.5			○							1	
	実践ロシア語会話Ⅰ	2①			0.5			○							1	
	実践ロシア語会話Ⅱ	2②			0.5			○							1	
	実践ロシア語会話Ⅲ	2③			0.5			○							1	
	実践ロシア語会話Ⅳ	2④			0.5			○							1	
	中国語Ⅰ	1①			1			○							1	
	中国語Ⅱ	1②			1			○							1	
	中国語Ⅲ	1③			1			○							1	
	中国語Ⅳ	1④			1			○							1	
	中国語会話Ⅰ	1①			0.5			○							1	
	中国語会話Ⅱ	1②			0.5			○							1	
	実践中国語会話Ⅰ	2①			0.5			○							1	
	実践中国語会話Ⅱ	2②			0.5			○							1	
	実践中国語会話Ⅲ	2③			0.5			○							1	
	実践中国語会話Ⅳ	2④			0.5			○							1	
	朝鮮語Ⅰ	1①			1			○							1	
	朝鮮語Ⅱ	1②			1			○							1	
	朝鮮語Ⅲ	1③			1			○							1	
	朝鮮語Ⅳ	1④			1			○							1	
	朝鮮語会話Ⅰ	1①			0.5			○							1	
	朝鮮語会話Ⅱ	1②			0.5			○							1	
	実践朝鮮語会話Ⅰ	2①			0.5			○							1	
	実践朝鮮語会話Ⅱ	2②			0.5			○							1	
	実践朝鮮語会話Ⅲ	2③			0.5			○							1	
	実践朝鮮語会話Ⅳ	2④			0.5			○							1	
	日本語1－1	1①			2			○							1	
	日本語1－2	1②			2			○							1	
	日本語2－1	1①			2			○							1	
	日本語2－2	1②			2			○							1	
	日本語2総合1	1③			0.5			○							1	
	日本語2総合2	1④			0.5			○							1	
	日本語3－1	1①			2			○							1	
	日本語3－2	1②			2			○							1	
	日本語3総合1	1③			0.5			○							1	
	日本語3総合2	1④			0.5			○							1	
	日本語4－Ⅰ－1	1①			1			○							1	
	日本語4－Ⅰ－2	1②			1			○							1	
	日本語4－Ⅱ－1	1③			1			○							1	
	日本語4－Ⅱ－2	1④			1			○							1	
	日本語4－Ⅲ－1	1①			1			○							1	
	日本語4－Ⅲ－2	1②			1			○							1	
	日本語4－Ⅳ－1	1③			1			○							1	
	日本語4－Ⅳ－2	1④			1			○							1	
	日本語4－Ⅴ－1	1①			0.5			○							1	
	日本語4－Ⅴ－2	1②			0.5			○							1	
	日本語4－Ⅵ－1	1③			0.5			○							1	
	日本語4－Ⅵ－2	1④			0.5			○							1	
	日本語5－Ⅰ－1	1①			0.5			○							1	

教 育 課 程 等 の 概 要

（情報データ科学部 情報データ科学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	基 幹 （助手を除く） 教員以外の教員	
教養教育科目	国際言語科目	日本語5-I-2	1②		0.5			○							1	
		日本語5-II-1	1③		0.5			○							1	
		日本語5-II-2	1④		0.5			○							1	
		日本語5-III-1	1①		0.5			○							1	
		日本語5-III-2	1②		0.5			○							1	
		日本語5-IV-1	1③		0.5			○							1	
		日本語5-IV-2	1④		0.5			○							1	
		日本語5-V-1	1①		0.5			○							1	
		日本語5-V-2	1②		0.5			○							1	
		日本語5-VI-1	1③		0.5			○							1	
		日本語5-VI-2	1④		0.5			○							1	
		日本語5-VII-1	1①		0.5			○							1	
		日本語5-VII-2	1②		0.5			○							1	
		日本語5-VIII-1	1③		0.5			○							1	
		日本語5-VIII-2	1④		0.5			○							1	
		日本語5-IX-1	1①		0.5			○							1	
		日本語5-IX-2	1②		0.5			○							1	
		日本語5-X-1	1③		0.5			○							1	
		日本語5-X-2	1④		0.5			○							1	
		小計 102 科目	-	-	6	73	0	-							18	
スポーツ文化科目	スポーツ実技 I-1	1①			0.5			○							1	
	スポーツ実技 I-2	1②			0.5			○							1	
	スポーツ実技 II-1	2①			0.5			○							1	
	スポーツ実技 II-2	2②			0.5			○							1	
	スポーツ理論 1	1③			1		○								1	
	スポーツ理論 2	1④			1		○								1	
	小計 6 科目	-	-	0	4	0	-	-							1	
基礎教育科目	基礎線形代数 I	1①		1			○								1	
	基礎線形代数 II	1②		1			○								1	
	基礎線形代数 III	1③		1			○								1	
	基礎線形代数 IV	1④		1			○								1	
	基礎微分積分学 I	1①		1			○								1	
	基礎微分積分学 II	1②		1			○								1	
	基礎微分積分学 III	1③		1			○								1	
	基礎微分積分学 IV	1④		1			○								1	
	基礎統計学	1③		1			○								1	
	基礎データサイエンス学 I	1③		1				○							1	
	基礎データサイエンス学 II	1④		1				○							1	
	多変数微分積分学 I	2①			1		○								1	
	多変数微分積分学 II	2②			1		○								1	
	デジタル社会と企業経営基礎	2①			1		○			1						
	e-ビジネス基礎	2②			1		○			1						
	デジタル社会と企業リスク基礎	2③			1		○			1						
	デジタル社会と観光基礎	2③			1		○				1					
	デジタル社会と環境問題基礎	2④			1		○					1				
	デジタル社会と地域活性化基礎	2④			1		○			1	1	1				オムニバス
	小計 19 科目	-	-	11	8	0	-	-		1	1	1			7	

教 育 課 程 等 の 概 要

（情報データ科学部 情報データ科学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教員 以外 の教員	
専門 教育 科目 （共通）	基礎AI学	1②	○	1				○				1				
	データエンジニアリング基礎	2①	○	1				○		1						
	データエンジニアリング演習	2②			1			○		1						
	データ解析・可視化Ⅰ	2③	○	1			○			1						
	データ解析・可視化Ⅱ	2④			1		○			1						
	組合せ数学Ⅰ	2①			1		○						1			
	組合せ数学Ⅱ	2②			1		○						1			
	機械学習Ⅰ	2③	○	1			○						1			
	機械学習Ⅱ	2④			1		○						1			
	機械学習演習	3①			1		○						1			
	自然言語処理	3②			1		○					1				
	データ構造とアルゴリズムⅠ	1③	○	1			○						1			
	データ構造とアルゴリズムⅡ	1④	○	1			○						1			
	データ構造とアルゴリズムⅢ	2①			1		○				1					
	データ構造とアルゴリズムⅣ	2②			1		○				1					
	情報理論と符号理論	2③			1		○				1					
	データ調査・実験計画法	3①			1		○					1				
	コンピュータ支援学習	3②	○	1			○			1						
	デジタル変革	3③	○	1			○			1						
	ビッグデータとクラウドコンピューティング	3④			1		○					1				
	小計 20 科目	－	－	8	12	0	－			4	2	3	2			
コン ピ ュ ー タ サイ エ ンス 系 科 目	基礎情報学	1①	○	1				○			1					
	情報処理の技法	1①	○	1				○				1				
	Cプログラミング	1②	○	2				○				1				
	応用Cプログラミング	1③	○	1				○				1				
	Javaプログラミング	1④	○	2				○		1						
	応用Javaプログラミング	2①	○	1				○					1			
	ソフトウェア工学Ⅰ	2①			1		○			1						
	ソフトウェア工学Ⅱ	2②			1		○			1						
	コンピュータ概論	2③			1		○				1					
	コンピュータアーキテクチャ	2④			1		○				1					
	オペレーティングシステムⅠ	2③			1		○			1						
	オペレーティングシステムⅡ	2④			1		○			1						
	小計 12 科目	－	－	8	6	0	－			1	1	2	1			
ネ ッ ト ワ ー ク 系 科 目	情報倫理とプライバシー	1④	○	1			○			1						
	情報セキュリティ	2①	○	1			○				1					
	情報セキュリティ実践	2②			1		○								1	
	IoTとネットワークⅠ	2①	○	1			○						1			
	IoTとネットワークⅡ	2②			1		○			1						
	モバイルコンピューティング	2③			1			○					1			
	モバイルプログラミング	2④			1			○					1			
	ネットワークプログラミングⅠ	2③			1			○		1						
	ネットワークプログラミングⅡ	2④			1			○		1						
	IoTとデータセンシングⅠ	3③			1			○					1			
	IoTとデータセンシングⅡ	3④			1			○					1			
	小計 11 科目	－	－	3	8	0	－			3	1		2		1	

教 育 課 程 等 の 概 要

（情報データ科学部 情報データ科学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教員 以外 の教員	
専門 教育 科目 （共通）	人間 情報 コア 科目	マルチメディア演習Ⅰ	2①		1			○			1					
		マルチメディア演習Ⅱ	2②		1			○			1					
		ヒューマンコンピュータインタラク ションⅠ	2③	○	1		○			1						
		ヒューマンコンピュータインタラク ションⅡ	2④		1		○			1						
		画像AI学Ⅰ	2③		1		○			1						
		画像AI学Ⅱ	2④		1		○			1						
		CG・VR	3①		1			○		1						
		情報社会と人間	3①		1		○			1						
		福祉データサイエンス	3②		1		○					1				
		デジタル社会とロボット	3②		1		○			1						
		知能ロボット学	3③		1		○				1	2				
		小計 11 科目	－	－	1	10	0	－		4	2	3				共同
	デ ジ タ ル 社 会 P B L 科 目	デジタル社会のプラクティス	1①	○	1		○			1						
		地域エネルギー学	1②		1		○				1					
		情報データ科学概論Ⅰ	1③	○	1		○			4	2	2				オムニバス
		情報データ科学概論Ⅱ	1④	○	1		○			7	1					オムニバス
		キャリアデザイン	2①-④	○	1		○			9						
		情報学実験Ⅰ	2①-②	○	1				○	1		1	2			オムニバス
		情報学実験Ⅱ	2③-④	○	1				○	1		2	2			オムニバス
		知的財産論	2②	○	1		○				1					
		ベンチャービジネス論	2④		1		○				1					
		データサイエンスとマーケティング	3①		1		○				1					
		デジタル社会の消費者行動論	3②		1		○				1					
		地域経済とICTビジネス	3③		1		○			1	1	1				オムニバス
		プロジェクト実践	3②	○	1			○		1	1					共同
		DXプロジェクト実践	3③-④	○	1			○		9	6	6	3			
		外国文献講読	3③	○	1			○		7	3	5	3			
		インターンシップⅠ	3～4休		1			○		8						
		インターンシップⅡ	3～4休		2			○		8						
		小計 17 科目	－	－	10	8	0	－		9	6	6	3			
専門 教育 科目 （応用 分野）	卒 業 研 究 系 科 目	国際キャリアデザイン	2～4休		2			○		8						
		研究プロポーザル	4①	○	1			○		7	3	5	3			
		卒業課題研究	4①-④	○	8				○	7	3	5	3			
		小計 3 科目	－	－	9	2	0	－		8	3	5	3			
	人 間 情 報 系 科 目	数値シミュレーションⅠ	3①		1			○		1						
		数値シミュレーションⅡ	3②		1			○		1						
		テキストマイニング	3①		1			○				1				
		プロセスマイニング・オートメー ション	3②		1			○		1						
		データサイエンスとオープンデータ Ⅰ	3①		1			○		1						
		データサイエンスとオープンデータ Ⅱ	3②		1			○		1						
		応用生体計測Ⅰ	3③		1		○			1						

教 育 課 程 等 の 概 要

（情報データ科学部 情報データ科学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教員 以外 の教員	
専門 教育 科目 （応用分野）	人間 情報 系科目	応用生体計測Ⅱ	3④		1		○			1						
		視覚認知の感性と科学Ⅰ	3③		1		○			1						
		視覚認知の感性と科学Ⅱ	3④		1		○			1						
		信号解析学	3③		1		○				1					
		音響AI学	3④		1			○			1					
		小計 12 科目	－	－	0	12	0	－		3	1	1				
	知能 ロボ テキ ス系 科目	コンピュータ制御の基礎Ⅰ	3①		1		○			1						
		コンピュータ制御の基礎Ⅱ	3②		1		○			1						
		コンピュータ制御工学	3③		1		○			1						
		ロボット設計学	3④		1			○		1						
		基礎ダイナミクス	3①		1		○				1					
		ロボット運動学	3②		1		○			1						
		ロボット動力学	3③		1		○					1				
		コンピュータ支援設計学	3④		1			○				1				
		生体力学シミュレーション	3①		1		○			1						
		生体情報と医療機器	3②		1		○			1						
		生体運動計測とデータサイエンスⅠ	3③		1		○			1						
		生体運動計測とデータサイエンスⅡ	3④		1		○			1						
		小計 12 科目	－	－	0	12	0	－		2	1	2				
	防災・ エネ ルギ ー情 報系 科目	防災情報概論Ⅰ	3①		1		○			1						
		防災情報概論Ⅱ	3②		1		○					1				
		防災計画	3③		1		○			1						
		防災・減災とデータサイエンス	3④		1		○					1				
		時空間情報学	3①		1		○					1				
		時空間情報学演習	3②		1			○				1				
		都市災害シミュレーションⅠ	3③		1		○			1						
		都市災害シミュレーションⅡ	3④		1			○		1						
		エネルギーとデータサイエンスⅠ	3①		1		○				1					
		エネルギーとデータサイエンスⅡ	3②		1		○				1					
		エネルギーマネジメントⅠ	3③		1		○				1					
		エネルギーマネジメントⅡ	3④		1		○				1					
		小計 12 科目	－	－	0	12	0	－		1	1	1				
自由 科目	入門 科目	入門数学Ⅰ	1①			1	○								1	
		入門数学Ⅱ	1②			1	○								1	
		小計 2 科目	－	－	0	0	2	－							1	
	教職 科目	人間形成論Ⅳ	2①-②			2	○								2	共同
		教育原論	2①-②			2	○								1	
		教職入門Ⅱ	2①-②			2	○								2	共同
		教職概論	2①-②			2	○								1	
		教育経営論Ⅱ	2③-④			2	○								1	
		教育社会学	2休			2	○			1						
		教授・学習の心理学（学習・言語心理学）Ⅱ	2③-④			2	○								1	

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(情報データ科学部 情報データ科学科)																	
科目 区分		授業科目の名称	配当 年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教員 (助手 以外 の教員)	
自由 科目	教 職 科 目	特別な教育的ニーズの理解とその支援Ⅱ	2③-④			2	○								2	オムニバス	
		教育課程論Ⅱ	2休			1	○								1		
		総合的な学習の時間Ⅱ	2③			1	○								1		
		特別活動論Ⅱ	2③			1	○								1		
		教育方法技術論Ⅱ	2④			1	○								1		
		ICT活用教育実践論Ⅱ	2④			1	○								1		
		生徒・進路指導の理論と方法Ⅱ	3①-②			2	○								1		
		生徒・進路指導論	3①-②			2	○								1		
		教育相談の理論と方法（健康・医療心理学）Ⅱ	3①-②			2	○								1		
		教育実習事前事後指導	3休			1		○							1		
		高等学校教育実習	3～4休			2			○						1		
		教職実践演習（中・高）	3～4休			2			○						1		
		情報科教育法Ⅰ	2③-④			2	○								1		
		情報科教育法Ⅱ	3①-②			2	○								1		
小計 21 科目		-	-	0	0	36	-			1					11		
合計 409 科目			-	-	59	323	38	-			9	6	6	3	0	93	
学位又は称号			学士（情報データ科学）				学位又は学科の分野				工学関係						
卒 業 ・ 修 了 要 件 及 び 履 修 方 法								授業期間等									
卒業要件：全必修科目を含め、以下の基準により124単位以上修得していること ・ 教養教育科目 … 22単位以上（必修9 単位を含む）※1 ※1：英語Certificate、あるいは、日本語Certificateのいずれか1単位を修得すること。また、主題別科目の【地域志向・キャリア形成】に分類される科目の内、2単位以上修得すること。 ・ 基礎教育科目 … 17単位以上（必修11単位を含む） ・ 専門教育科目（共通）・専門教育科目（応用分野） … 85単位以上（必修39単位含む）※2 ※2：応用分野については、1つの科目群から10単位以上、あるいは、2つの科目群から合わせて10単位以上修得すること （履修科目の登録の上限：48単位（年間））								1 学年の学期区分				4 期					
								1 学期の授業期間				8 週					
								1 時限の授業の標準時間				90 分					

教 育 課 程 等 の 概 要																
（理工学部 数理・電気電子情報学科）																
科目 区分	授業科目の名称		配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養 教育科目	初年次ゼミ		1前	2				○		10	13	5	8			
	小計（1科目）		—	2	0	0	—			10	13	5	8			
主 題 別 科 目	現代 社会	教養ゼミナール 1	1②		1			○							兼2	前後期にそれぞれ 開講 前後期にそれぞれ 開講
		教養ゼミナール 2	1前		2			○							兼1	
		くらしと法	1前・後		2		○								兼1	
		日本国憲法	1前・後		2		○								兼1	
		ものづくりと知的財産	1①		1		○								兼1	
		現代社会と経済Ⅰ	1前		2		○								兼1	
		現代社会と経済Ⅱ－1	1①		1		○								兼1	
		現代社会と経済Ⅱ－2	1②		1		○								兼1	
		現代社会と経済Ⅲ	1③		1		○								兼1	
		現代社会と経済Ⅳ	1④		1		○								兼1	
		現代社会と企業経営Ⅰ	1①		1		○								兼1	1Q3Qにそれぞれ 開講 2Q4Qにそれぞれ 開講
		現代社会と企業経営Ⅱ	1②		1		○								兼1	
		簿記入門	1前		2		○								兼1	
		現代社会と政治Ⅰ	1①・③		1		○								兼1	
		現代社会と政治Ⅱ	1②・④		1		○								兼1	
		国際政治経済Ⅰ	1①		1		○								兼1	
		国際政治経済Ⅱ	1②		1		○								兼1	
		社会と家族Ⅰ	1③		1		○								兼1	
		社会と家族Ⅱ	1④		1		○								兼1	
		大学生活と学習	1前		2		○								兼1	
		倫理リテラシー	1前		2		○								兼1	1Q3Qにそれぞれ 開講 2Q4Qにそれぞれ 開講
		男女共同参画社会論	1③		1		○								兼1	
		社会と地域Ⅰ	1①・③		1		○								兼1	
		社会と地域Ⅱ	1②・④		1		○								兼1	
		観光学入門Ⅰ	1③		1		○								兼1	
		観光学入門Ⅱ	1④		1		○								兼1	
		地誌学入門Ⅰ	1①		1		○								兼1	
		地誌学入門Ⅱ	1②		1		○								兼1	
		金融リテラシー講座Ⅰ	1①		1		○								兼7	
		金融リテラシー講座Ⅱ	1②		1		○								兼4	
		小計（30科目）	—	0	37	0	—			0	0	0	0		兼26	
人 間 と 文 化	人間と文化	教養ゼミナール 1	1①・②・③		1			○							兼4	
		教養ゼミナール 2	1前		2			○							兼2	
		心理学Ⅰ	1前		2		○								兼1	
		人間関係論Ⅰ	1前		2		○								兼1	
		人間関係論Ⅱ	1③		2		○								兼1	
		日本の近代文学	1後		2		○								兼1	
		日本語表現の諸相	1後		2		○								兼1	
		日本の古典文学	1前		2		○								兼1	
		教育学Ⅰ	1後		2		○								兼1	
		教育学Ⅱ	1後		2		○								兼2	
		芸術と文化Ⅲ	1前		2		○								兼1	
		情報デザインⅠ	1①		1		○								兼1	
		情報デザインⅡ	1②		1		○								兼1	
		哲学入門Ⅰ	1③		1		○								兼1	
		哲学入門Ⅱ	1④		1		○								兼1	
		倫理と人間	1前		2		○								兼1	
		西洋社会の歴史Ⅰ	1①		1		○								兼1	
		西洋社会の歴史Ⅱ	1②		1		○								兼1	
		科学史・科学哲学	1前		2		○								兼1	
		科学史入門	1前		2		○								兼1	
		人権と共生	1④		1		○								兼1	
		大学生活と道徳	1②		1		○								兼1	
		多文化コミュニケーション入門Ⅰ	1前		2			○							兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	人間と文化	多文化コミュニケーション入門Ⅱ	1後	2			○							兼1	
		多文化間交流論Ⅰ	1①	1			○							兼1	
		多文化間交流論Ⅱ	1②	1			○							兼1	
		多文化間交流論Ⅲ	1③	1			○							兼1	
		多文化間交流論Ⅳ	1④	1			○							兼1	
		日本文化入門Ⅰ	1前	2			○							兼1	
		日本文化入門Ⅱ	1後	2			○							兼1	
		日本社会入門Ⅰ	1前	2			○							兼1	
		日本社会入門Ⅱ	1後	2			○							兼1	
		日本語教育学入門Ⅰ	1前	2			○							兼1	
		日本語教育学入門Ⅱ	1後	2			○							兼1	
		Introduction to Participatory WorkshopsⅠ	1前	2			○							兼1	
		Introduction to Participatory WorkshopsⅡ	1後	2			○							兼1	
		Japanese in Indonesia(1600-1945)	1③	1			○							兼1	
		Modern Indonesian History	1④	1			○							兼1	
		インドネシア語入門Ⅰ	1①	2			○							兼1	
		インドネシア語入門Ⅱ	1②	2			○							兼1	
		Japanese Culture	1①	1		○								兼1	
		Japanese Thought	1③	1		○								兼1	
		小計(42科目)	—	0	61	0	—		0	0	0	0		兼29	
	科学の探究	教養ゼミナールⅠ	1②・③	1			○					1		兼5	
		教養ゼミナールⅡ	1前	2			○							兼1	
		地球環境と化学元素	1①・③	1		○								兼1	1Q3Qにそれぞれ開講
		環境モニタリングと大気化学	1②・④	1		○								兼1	2Q4Qにそれぞれ開講
		有機資源の産業利用と環境保全	1①	1		○								兼1	
		天体観測入門	1①	1			○							兼1	
		地球の環境と資源Ⅰ	1①	1		○								兼2	
		地球の環境と資源Ⅱ	1②	1		○								兼2	
		地球の環境と資源Ⅲ	1①	1		○								兼8	オムニバス
		環境と社会	1①	1		○								兼1	
		ライフサイエンスⅠ	1①	2		○								兼1	
		ライフサイエンスⅡ	1②・③	1		○								兼1	2Q3Qにそれぞれ開講
		化学の世界	1②	1		○								兼2	
		材料の世界	1②	1		○								兼4	オムニバス
		情報工学の世界	1①	1		○								兼8	オムニバス
		コンピュータの科学Ⅰ	1①・③	1		○								兼2	1Q3Qにそれぞれ開講
		コンピュータの科学Ⅱ	1②・④	1		○								兼2	2Q4Qにそれぞれ開講
		コンピュータシミュレーション入門Ⅰ	1③	1		○								兼1	
		コンピュータシミュレーション入門Ⅱ	1④	1		○								兼1	
		星の世界Ⅰ	1①	1		○								兼1	
		星の世界Ⅱ	1②	1		○								兼1	
		自然環境と住まいⅠ	1③	1		○								兼1	
		自然環境と住まいⅡ	1④	1		○								兼1	
		温泉科学概論	1前	2		○								兼1	
		自然地理学入門Ⅰ	1①	1		○								兼1	
		自然地理学入門Ⅱ	1②	1		○								兼1	
		Introduction to Java and Mobile Applications Programming	1③	1		○								兼1	
		Environment and engineering	1③	1		○								兼1	
		情報学入門	1①	1		○								兼1	
		AⅠ学入門	1②	1		○								兼1	
		データサイエンス学入門Ⅰ	1①・③	1		○								兼1	1Q3Qにそれぞれ開講
		データサイエンス学入門Ⅱ	1②・④	1		○								兼1	2Q4Qにそれぞれ開講
		小計(32科目)	—	0	35	0	—		4	3	1	2		兼43	
	生活と保健	教養ゼミナールⅠ	1①・②・③	1			○							兼4	
		教養ゼミナールⅡ	1前	2			○							兼1	
		食と健康Ⅰ	1①	1		○								兼1	
		食と健康Ⅱ	1②	1		○								兼1	
		医学と健康Ⅰ	1①・③	1		○								兼7	オムニバス 1Q3Qにそれぞれ開講
		医学と健康Ⅱ	1①・③	1		○								兼5	オムニバス 1Q3Qにそれぞれ開講
		医学と健康Ⅲ	1前	2		○								兼7	オムニバス
		医学と健康Ⅳ－Ⅰ	1①	1		○								兼8	オムニバス

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育科目	主 題 別 科 目	生活と保健	医学と健康Ⅳ－2	1②	1		○								兼7	オムニバス	
			がん医療と緩和ケア	1③	2		○								兼7	オムニバス	
			大学生と健康	1①・③	2		○								兼6	オムニバス 1Q3Qにそれぞれ開講	
			生命と健康Ⅰ	1①	1		○								兼7	オムニバス	
			生命と健康Ⅱ	1①	1		○								兼5	オムニバス	
			臨床医学入門	1前	2		○								兼16	オムニバス	
			グローバル・ヘルスとトラベル・メディシン	1②	1		○								兼6	オムニバス	
			小計（15科目）	－	0	79	0	－			0	0	0	0		兼70	
	地 域 志 向 ・ キ ャ リ ア 形 成	教養ゼミナール1	1①・③・④	1			○								兼2	オムニバス 2Q4Qにそれぞれ開講	
		教養ゼミナール2	1前	2			○								兼1		
		秋田の歴史	1①	1		○									兼1		
		秋田の自然と文化	1②・④	1		○									兼8		
		防災学基礎Ⅰ	1①	1		○									兼1		
		防災学基礎Ⅱ	1②	1		○									兼1		
		農村地理学入門	1前	2		○									兼1		
		キャリアデザイン基礎	1②	1		○									兼1		
		キャリアデザインⅠ	1①	1		○									兼1		
		キャリアデザインⅡ	1②	1		○									兼1		
		キャリアデザイン総論	1後	2		○									兼1		
		「起業力」養成ゼミナールⅠ	1①	1		○									兼7	オムニバス	
		「起業力」養成ゼミナールⅡ	1②	1		○									兼4	オムニバス	
		「起業力」養成ゼミナールⅢ	1③	1		○									兼1	オムニバス	
		地域キャリアデザイン	1②	1		○									兼1		
		秋田の暮らし	1②	1		○									兼3		
		超高齢社会の健康寿命	1④	1		○									兼10		
		秋田の産業	1③	1		○									兼1		
		秋田の再生可能エネルギー	1②	1		○									兼1		
		秋田の産業史と経済の成り立ち	1②	1		○									兼1		
		秋田の地域資源と観光	1③	1		○									兼1		
		地方創生DX基礎Ⅰ	1①	1		○			1						兼2		
		地方創生DX基礎Ⅱ	1②	1		○			1						兼2		
		地方創生DX基礎実践	1前	1			○		1						兼2	集中	
			小計（24科目）	－	0	24	0	－			1	0	0	0		兼45	
	技 能 の 活 用	教養ゼミナール1	1②・③	1			○								兼2	オムニバス 前後期にそれぞれ開講	
		教養ゼミナール2	1前	2			○								兼1		
		日本語リテラシーⅠ	1前	2		○									兼1		
		日本語リテラシーⅡ	1後	2		○									兼3		
		コミュニケーショントレーニング	1②	1			○								兼1		
		秋田大学論	1③	1		○									兼1		
		情報と知識・技術Ⅰ	1前・後	1		○									兼1		
		情報と知識・技術Ⅱ	1②	1		○									兼1		
		フィールド活動の基礎Ⅰ	1③	1		○									兼1		
		フィールド活動の基礎Ⅱ	1④	1		○									兼1		
		留学生のための課題研究Ⅰ	1後	2		○									兼1		
		留学生のための課題研究Ⅱ	1前	2		○									兼1		
		海外短期研修	1通	2		○									兼1		
		鉱業博物館業務体験	1通	1		○									兼3		
		学外活動体験Ⅰ	1通	2		○			1								
		学外活動体験Ⅱ	1通	2		○			1								
		学外活動体験Ⅲ	1通	2		○			1								
			小計（17科目）	－	0	26	0	－			3	0	0	0		兼19	
	国 際 言 語 科 目	英語	大学英語Ⅰ	1前	2			○							兼12		
			大学英語Ⅱ	1後	2			○							兼12		
			小計(2科目)	－	0	4	0	－			0	0	0	0		兼16	
		入 門 外 国 語	ドイツ語Ⅰ	1前	2			○								兼1	前後期にそれぞれ開講
			フランス語Ⅰ	1前	2			○								兼1	
			ロシア語Ⅰ	1前	2			○								兼1	
			中国語Ⅰ	1前	2			○								兼1	
			朝鮮語Ⅰ	1前	2			○								兼1	
			日本語Ⅰ	1前・後	4			○								兼2	
			小計(6科目)	－	0	14	0	－			0	0	0	0		兼10	
	外 語 活 用 開 講	文系英会話	2前	2			○								兼1		
		理系英会話	2前	2			○								兼1		
		大学英語Ⅲ	2前	2			○								兼10		

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
教養教育科目	国際言語科目	外国語活用演習	英語特別演習	1通	2			○							兼1	前後期にそれぞれ開講 前後期にそれぞれ開講		
		ドイツ語Ⅱ	1後	2			○							兼1				
		フランス語Ⅱ	1後	2			○							兼1				
		ロシア語Ⅱ	1後	2			○							兼1				
		中国語Ⅱ	1後	2			○							兼1				
		朝鮮語Ⅱ	1後	2			○							兼1				
		日本語2	1前・後	4			○							兼2				
		日本語2 総合	1前・後	1			○							兼1				
		ドイツ語会話	1前	1			○							兼1				
		フランス語会話	1前	1			○							兼1				
		ロシア語会話	1前	1			○							兼1				
		中国語会話	1前	1			○							兼1				
		朝鮮語会話	1前	1			○							兼1				
		実践ドイツ語会話Ⅰ	2前	1			○							兼1				
		実践ドイツ語会話Ⅱ	2前	1			○							兼1				
		実践中国語会話Ⅰ	2前	1			○							兼1				
		実践中国語会話Ⅱ	2後	1			○							兼1				
		実践朝鮮語会話Ⅰ	2前	1			○							兼1				
		実践朝鮮語会話Ⅱ	2後	1			○							兼1				
		実践フランス語会話Ⅰ	2前	1			○							兼1				
		実践フランス語会話Ⅱ	2後	1			○							兼1				
		実践ロシア語会話Ⅰ	2前	1			○							兼1				
		実践ロシア語会話Ⅱ	2後	1			○							兼1				
		日本語3	1前・後	4			○							兼2				
		日本語3 総合	1前・後	1			○							兼1				
		小計(28科目)			—	0	43	0	—			0	0	0	0			兼27
		文献講読	社会心理学外国語文献演習	2前		1			○								兼1	隔年 隔年
			臨床心理学外国語文献演習	2前		1			○								兼1	
	生理心理学外国語文献講読Ⅰ		2前		1			○							兼1			
	生理心理学外国語文献講読Ⅱ		2前		1			○							兼1			
	発達心理学外国語文献演習		2後		1			○							兼1			
	認知心理学外国語文献演習		2前		1			○							兼1			
	科学教育文献購読		2前		2		○								兼1			
	小計(7科目)			—	0	8	0	—			0	0	0	0		兼5		
	日本語	日本語4ーⅠ	1前		2			○							兼2			
		日本語4ーⅡ	1後		2			○							兼2			
		日本語4ーⅢ	1前		2			○							兼1			
		日本語4ーⅣ	1後		2			○							兼1			
		日本語4ーⅤ	1前		1			○							兼1			
		日本語4ーⅥ	1後		1			○							兼1			
		日本語5ーⅠ	1前		1			○							兼1			
		日本語5ーⅡ	1後		1			○							兼1			
		日本語5ーⅢ	1前		1			○							兼1			
		日本語5ーⅣ	1後		1			○							兼1			
		日本語5ーⅤ	1前		1			○							兼1			
		日本語5ーⅥ	1後		1			○							兼1			
		日本語5ーⅦ	1前		1			○							兼1			
		日本語5ーⅧ	1後		1			○							兼1			
		日本語5ーⅨ	1前		1			○							兼1			
		日本語5ーⅩ	1後		1			○							兼1			
		小計(16科目)			—	0	20	0	—			0	0	0	0			兼4
	スポーツ科目	スポーツ実技Ⅰ	1前		1				○						兼2			
		スポーツ実技Ⅱ	2前		1				○						兼4			
		スポーツ理論1	1③		1		○								兼4			
		スポーツ理論2	1④		1		○								兼4			
		小計(4科目)			—	0	4	0	—			0	0	0	0			兼10

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎 教育 科目	基礎線形代数Ⅰ	1①	1			○			1			1		兼3	※数理科学コース必修 ※電気電子工学コース必修 ※人間情報工学コース選択
	基礎線形代数Ⅱ	1②	1			○			1			1		兼3	
	基礎微分積分学Ⅰ	1①	1			○								兼4	
	基礎微分積分学Ⅱ	1②	1			○								兼4	
	基礎線形代数Ⅲ	1③	1			○				1				兼3	
	基礎線形代数Ⅳ	1④	1			○				1				兼3	
	基礎微分積分学Ⅲ	1③	1			○								兼3	
	基礎微分積分学Ⅳ	1④	1			○								兼3	
	多変数微分積分学Ⅰ	2①	1			○			1	1				兼2	
	多変数微分積分学Ⅱ	2②	1			○			1	1				兼2	
	入門物理学Ⅰ	1前			2	○								兼2	
	入門物理学Ⅱ	1後			2	○								兼2	
	基礎力学Ⅰ	1①	1			○								兼3	
	基礎力学Ⅱ	1②	1			○								兼3	
	基礎電磁気学Ⅰ	1③	1			○								兼3	
	基礎電磁気学Ⅱ	1④	1			○								兼3	
	基礎物理学実験	1前	1					○	1	2	1	2		兼6	
	入門化学Ⅰ	1前			2	○								兼1	
	入門化学Ⅱ	1前			2	○								兼1	
	基礎化学Ⅰ	1①		1		○								兼5	
	基礎化学Ⅱ	1②		1		○								兼5	
	基礎化学Ⅲ	1③		1		○								兼1	
	基礎化学Ⅳ	1④		1		○								兼3	
	基礎化学実験	1④		1				○						兼5	
	入門生物学	1前			2	○								兼2	
	基礎生物学Ⅰ	1①		1		○								兼2	
	基礎生物学Ⅱ	1②		1		○								兼2	
	基礎生物学Ⅲ	1③		1		○								兼2	
	基礎生物学Ⅳ	1④		1		○								兼2	
	基礎生物学実験	1後			1			○						兼2	
	入門数学	1前			2	○								兼1	
	情報処理の技法	1前	2					○				1		兼8	
基礎情報学	1③	1			○						1	1			
基礎AI学	1④	1			○							1			
基礎データサイエンス学Ⅰ	2③		1		○							1	兼1		
基礎データサイエンス学Ⅱ	2④		1		○							1	兼1		
基礎地球科学	1前			2	○								兼1		
	小計(37科目)	—	19	11	15	—			4	5	7	3		兼53	

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門 教育 科目	学部 共通 科目	秋田の環境と資源	1①	1			○									兼2	数理科学コース 人間情報工学コース 数理科学コース 人間情報工学コース 数理科学コース 電気電子工学コース 数理科学コース 電気電子工学コース 兼1 兼1 兼1 兼1

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	学科 共通 科目	情報ネットワーク学Ⅰ	3①		1		○				1				兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	数理学コース 人間情報工学コース 数理学コース 人間情報工学コース 数理学コース 人間情報工学コース 数理学コース 人間情報工学コース 数理学コース 人間情報工学コース 数理学コース 人間情報工学コース 数理学コース 人間情報工学コース 数理学コース 人間情報工学コース
		情報ネットワーク学Ⅱ	3②		1		○				1					数理学コース 人間情報工学コース
		論理設計Ⅰ	3①		1		○									数理学コース 人間情報工学コース
		論理設計Ⅱ	3②		1		○									数理学コース 人間情報工学コース
		機械学習Ⅰ	3③		1		○									数理学コース 人間情報工学コース
		機械学習Ⅱ	3④		1		○									数理学コース 人間情報工学コース
		ソフトウェア工学Ⅰ	3③		1		○									数理学コース 人間情報工学コース
		ソフトウェア工学Ⅱ	3④		1		○									数理学コース 人間情報工学コース
		基礎電気回路Ⅰ	2①		1		○									兼1 数理学コース 人間情報工学コース
		基礎電気回路Ⅱ	2②		1		○									兼1 数理学コース 人間情報工学コース
		基礎電子回路Ⅰ	2③		1		○									兼1 数理学コース 人間情報工学コース
		基礎電子回路Ⅱ	2④		1		○									兼1 数理学コース 人間情報工学コース
		電子物性工学Ⅰ	3①		1		○				1					数理学コース 人間情報工学コース 電気電子工学コース
		電子物性工学Ⅱ	3②		1		○				1					数理学コース 電気電子工学コース
		電子物性工学Ⅲ	3③		1		○					1				数理学コース 電気電子工学コース
		電子物性工学Ⅳ	3④		1		○					1				数理学コース 電気電子工学コース
		集積情報回路学	4前		2		○					1				数理学コース 電気電子工学コース
		電磁波工学	3前		2		○						1			兼1 数理学コース 電気電子工学コース
		量子エレクトロニクス	4②		1		○						1			数理学コース 電気電子工学コース
		物質情報処理学	3後		2		○									兼1 数理学コース 人間情報工学コース
		機能材料学	4③		2		○									兼1 数理学コース 人間情報工学コース
		交通システム計画	3後		2		○									兼1 数理学コース 人間情報工学コース
		構造物質科学	3③		2		○									兼1 数理学コース
		計算材料科学	3④		2		○									兼1 数理学コース
		電子材料学	3①		2		○									兼1 数理学コース
		Practical Introduction to ElectronicsⅠ	2③	1			○									兼1 電気電子工学コース
		Practical Introduction to ElectronicsⅡ	2④	1			○									兼1 電気電子工学コース
		衛星通信工学	4②		1		○							1		電気電子工学コース 人間情報工学コース
		応用情報計測工学	3後		2		○					1				電気電子工学コース 人間情報工学コース
		応用生体計測Ⅰ	3③		1		○					1				電気電子工学コース 人間情報工学コース
		応用生体計測Ⅱ	3④		1		○					1				電気電子工学コース 人間情報工学コース
		電気材料学	3後		2		○					1				電気電子工学コース
		光エレクトロニクス	3後		2		○					1				電気電子工学コース
エネルギー変換材料学	3④		2		○									兼1 電気電子工学コース		
制御システム工学	3前		2		○							1		人間情報工学コース		
		小計(61科目)	—	8	67	0	—			10	13	5	8		兼16	
コース 専門 教育 科目 (数理学 コース)		集合と論理	2前	2			○						1		兼1 兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門 教育科目	(コース 数理科学専門 教育科目)	理論物理学セミナー	3後	1			○		1	2				兼1	
		早期課題研究	3前	2				○	3	4	1	2			
		数理科学実験	3前	1				○		1		1			
		外国文献講読	4前	1				○		1					
		研究プロポーザル	4通	2			○		3	4	1	2			
		卒業課題研究	4通	8				○	3	4	1	2			
		小計(33科目)	—	24	23	0	—		3	4	1	2		兼1	
	(コース 専門教育科目 (電気電子工 学コース))	電気計測システム工学	2前	2		○								兼1	
		磁気材料科学	4①	1		○					1				
		電力システム工学	3後	2		○			1						
		高電圧工学	3後	2		○				1					
		電気応用工学	4前	2		○						1			
		電気法規・施設管理	4前	2		○			1						
		電気機器学	3前	2		○			1						
		制御機器工学	3前	2		○				1					
		パワーエレクトロニクス	4前	2		○			1						
		電気製図	2後	2		○				1					
		電動機応用システム工学	4前	2		○			1						
		制御システム工学	3前	2		○				1					
		電子制御システム工学	3後	2		○				1					
		電子回路学Ⅰ	2後	2		○				1					
		電子回路学Ⅱ	3①	1		○				1					
		電子回路学Ⅲ	3②	1		○				1					
		半導体デバイス工学	3前	2		○				1					
		超高周波エレクトロニクス	4前	2		○					1				
		情報通信工学Ⅰ	3前	2		○				1					
		情報通信工学Ⅱ	3後	2		○						1			
		信号解析学	3前	2		○				1					
		高度通信システム工学	3後	1		○								兼1	
		電波法・通信関係法規	4前	1		○								兼1	
		信号処理システム工学	3後	2		○				1					
		音響エレクトロニクスⅠ	4①	1		○					1				
		音響エレクトロニクスⅡ	4②	1		○					1				
		計算機システム学	2後	2		○				1					
		電力工学	3前	2		○			1						
		電気磁気学Ⅰ	2①	2		○					1				
		電気磁気学Ⅱ	2②	2		○			1						
		電気磁気学Ⅲ	2後	2		○			1						
		電気回路学Ⅰ	2①	2		○					1				
		電気回路学Ⅱ	2②	2		○					1				
		電気回路学Ⅲ	2③	2		○				1					
		電気回路学Ⅳ	2④	2		○			1						
		応用数学Ⅰ	2後	2		○			1						
		応用数学Ⅱ	3前	2		○			1						
		創造工房実習	2前	1				○	4	6	3	3			
		電気電子工学実験Ⅰ	2後	1				○	4	6	3	3			
		電気電子工学実験Ⅱ	3前	2				○	4	6	3	3			
		電気電子工学実験Ⅲ	3後	2				○	4	6	3	3			
		計算機プログラミングⅠ	2前	1		○				1					
		計算機プログラミングⅡ	2後	1		○				1					
		早期課題研究	3前	2				○	4	6	3	3			
		研究プロジェクトゼミ	3後	1				○	4	6	3	3			
		外国文献講読	4前	1				○	4	6	3	3			
		研究プロポーザル	4通	2			○		4	6	3	3			
		卒業課題研究	4通	8				○	4	6	3	3			
		電気電子技術者の倫理	4通	1		○			4	6	3	3			
		電気電子創生特論	2・3・4通	1		○			1						
		小計(50科目)	—	36	55	0	—		4	6	3	3		兼3	

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	コース専門教育科目（人間情報工学コース）	プログラミング言語Ⅰ	2①		1		○			1							
		プログラミング言語Ⅱ	2②		1		○			1							
		データベース基礎Ⅰ	3①		1		○			1							
		データベース基礎Ⅱ	3②		1		○			1							
		ヒューマンコンピュータインタラクションⅠ	2①		1		○			1							
		ヒューマンコンピュータインタラクションⅡ	2②		1		○			1							
		情報倫理学	2③		1		○			1							
		情報管理	2③		1		○				1						
		情報理論と符号理論Ⅰ	3①		1		○				1						
		情報理論と符号理論Ⅱ	3②		1		○				1						
		情報理論と符号理論Ⅲ	3③		1		○				1						
		情報理論と符号理論Ⅳ	3④		1		○				1						
		福祉情報工学Ⅰ	3①		1		○					1					
		福祉情報工学Ⅱ	3②		1		○					1					
		画像解析学Ⅰ	3①		1		○			1							
		画像解析学Ⅱ	3②		1		○			1							
		コンピュータエレクトロニクスⅠ	3①		1		○			1							
		コンピュータエレクトロニクスⅡ	3②		1		○			1							
		組み込みシステムⅠ	3③		1		○						1				
		組み込みシステムⅡ	3④		1		○						1				
		視覚認知と感性Ⅰ	3③		1		○				1						
		視覚認知と感性Ⅱ	3④		1		○				1						
		データマイニングⅠ	3③		1		○			1							
		データマイニングⅡ	3④		1		○			1							
		基礎プログラミングⅠ	2前	1					○			1					
		基礎プログラミングⅡ	2後	1					○			1					
		応用プログラミングⅠ	3前	1					○					1			
		応用プログラミングⅡ	3後	1					○	1				1			
		情報工学実験Ⅰ-ものづくり基礎実践-	2前	1					○	3	3	1	3				
		情報工学実験Ⅱ	2後	1					○	3	3	1	3				
		情報プロジェクトゼミⅠ	2①		1			○			1						
		情報プロジェクトゼミⅡ	2②		1			○			1						
		超スマート社会におけるキャリアデザイン	2・3通	1					○	3	3	1	3				
		早期課題研究	3前		2				○	1							
		外国文献講読	3③	1					○	3	3	1	3				
		創造工房実習	3後	1					○	3	3	1	3				
		研究プロポーザル	4通	2						3	3	1	3				
		卒業課題研究	4通	8						3	3	1	3				
		小計(38科目)	—	18	29	0	—			3	3	1	3				
合計（478科目）			—	104	581	25	—			10	13	5	8		兼341		
学位又は称号		学士（理学），学士(工学)		学位又は学科の分野				理学関係，工学関係									
卒業要件及び履修方法							授業期間等										
数理科学コース 教養教育科目22単位以上(必修科目2単位，選択科目20単位以上)，基礎教育科目21単位以上(必修科目19単位，選択科目2単位以上)，専門教育科目81単位以上(必修科目31単位，選択科目50単位)，合計124単位以上修得すること。 履修科目の登録の上限：48単位(年間)(自由科目を除く) 電気電子工学コース 教養教育科目22単位以上(必修科目2単位，選択科目20単位以上)，基礎教育科目21単位以上(必修科目19単位，選択科目2単位以上)，専門教育科目81単位以上(必修科目41単位，選択科目40単位以上)，合計124単位以上修得すること。 履修科目の登録の上限：48単位(年間)(自由科目を除く) 人間情報工学コース 教養教育科目22単位以上(必修科目2単位，選択科目20単位以上)，基礎教育科目21単位以上(必修科目19単位，選択科目2単位以上)，専門教育科目81単位以上(必修科目23単位，選択科目58単位以上)，合計124単位以上修得すること。 履修科目の登録の上限：48単位(年間)(自由科目を除く) 学科共通科目：複数のコースにまたがって開講される科目 学部共通科目：複数の学科にまたがって開講される科目							1学年の学期区分				4期（一部セメスター）						
							1学期の授業期間				8週（セメスター科目は16週）						
							1時限の授業時間				90分						

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
教 養 教 育 科 目	初年次ゼミⅠ		【目的】大学生活を有意義に過ごすために、大学の仕組み、学部の概要、カリキュラム、学習計画の立て方、各種手続きなどを学ぶ。また、グループワーク、キャリア形成に関する講義などを通じて大学生としての自覚と大学で学ぶことの目的意識を明確にする。 【概要】大学の仕組み、情報データ科学部の教育方針・理念、学則、学部規則、履修方法、履修モデル、学習計画、授業に臨む姿勢、情報倫理と情報セキュリティ、安全講習、キャリア形成について理解を深める。 【オムニバス／全8回】 （6 長縄明大） 1. ガイダンス：学部紹介、諸手続きの概要など （1 水戸部一孝） 2. ガイダンス：高校と大学の違い、修学のための基礎知識 （2 景山陽一） 3. ガイダンス：カリキュラムと履修モデル、履修手続き（a・net） （3 有川正俊） 4. ガイダンス：学習計画の立て方と時間割作成 （4 石沢千佳子） 5. 情報倫理講習 （7 巖見武裕） 6. 情報セキュリティ講習 （8 水田敏彦） 7. 安全講習 （9 臼木智昭） 8. キャリア教育（外部のゲストスピーカー）	オムニバス
	初年次ゼミⅡ		【目的】人間と社会と情報を高度な情報技術・AI・データサイエンスで結び付け、人間中心のデジタル社会を構成する一員となるために、地域の社会的課題を抽出し、その解決方法について検討するため、グループワークや発表を行う。また、キャリア教育や面接を通じて、大学生活における学修態度を身につける。 【概要】想定する地域の社会的課題を解決するために必要な「人」、「都市」、「物」、「環境」、「エネルギー」などの「人間」や「社会」から取得されるデータの種類を調査するとともに、取得したデータの解析方法を検討する。さらに、グループワークの内容を発表しあい、相互の発表内容の理解を深める。 【オムニバス／全8回】 （6 長縄明大） 1. ガイダンス、図書館利用方法（学内施設の利用） （1 水戸部一孝） 2. グループワーク：クラス分けと担当教員の確認、概要説明、準備（KJ法） （2 景山陽一） 3. グループワーク：グループ毎の作業（テーマ選定の議論） （3 有川正俊） 4. グループワーク：グループ毎の作業（候補テーマの決定） （4 石沢千佳子） 5. グループワーク：グループ毎の作業（発表の準備） （7 巖見武裕） 6. グループワーク：発表会 （8 水田敏彦） 7. キャリア教育 （9 臼木智昭） 8. SDGs、英語教育	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
教養 教育 科目	データサイエンスリテラシー 概論		現代社会の急激な変化に伴い、大学生にはデータサイエンスの素養が求められるようになっており、本科目ではデータサイエンスの基本的な概念と原理に触れることを目的としている。 以下の2点を授業の到達目標とする。 1) リベラルアーツ教育の一環としてのデータサイエンスの位置づけを理解し、その基本的知識を身につける。 2) データサイエンスに関連する様々な技術について理解し、現代社会を構成する市民・国民としてふさわしい活動ができる基礎知識の習得をおこなう。 社会で起きている変化、データ・AI利活用の最新動向、社会で活用されているデータ、データ・AIの活用領域、データ・AI利活用のための技術、データ・AI利活用の現場、データ・AI利活用における留意事項、データを守る上での留意事項 について取り扱う。	メディア
	教養ゼミナール1		教養教育におけるゼミナール形式の授業科目として、少人数・学生主体型で実施する。種々のテーマを設定し、教員の指導のもと少数の学生が集まって研究し、文章表現、情報収集、プレゼンテーション、グループ討論、論文執筆等を行い、社会に出てからも必要となるスキルを身につけることを重視する。テーマ毎に受講者数を20名以下に限定することで、学問を通じて教員と学生、学生と学生がふれあうことができることが特徴である。本科目は1単位相当の授業を行う。	
	教養ゼミナール2		教養教育におけるゼミナール形式の授業科目として、少人数・学生主体型で実施する。種々のテーマを設定し、教員の指導のもと少数の学生が集まって研究し、文章表現、情報収集、プレゼンテーション、グループ討論、論文執筆等を行い、社会に出てからも必要となるスキルを身につけることを重視する。テーマ毎に受講者数を20名以下に限定することで、学問を通じて教員と学生、学生と学生がふれあうことができることが特徴である。本科目は2単位相当の授業を行う。	
	法学入門Ⅰ		講義形式において、法と法学の基礎となる内容を学び、特に日本の現代社会における法のあり方について考えることを目的とする。本科目では、法とその他の社会規範との比較を通じて、社会規範としての法の特徴や他の社会規範との関係性について考察を行う。また、重要な先例的裁判の考察を通じて明治期における西欧法の継受以降の日本社会において、外来の新たな法が定着するまでの過程やその後の歴史的な発展変化について理解できるようになることを目標とする。	
	法学入門Ⅱ		講義形式において、法と法学の基礎となる内容を学び、特に日本の現代社会における法のあり方について考えることを目的とする。本科目では、法学学修の一般的前提となる理論的事項（裁判官の判断基準としての法（法源）、紛争の法的解決プロセス（裁判およびその他の紛争解決方法）、法の解釈）について学び、国や社会の違いによる法の多様性を理解するとともに、特に日本の法制度・裁判制度の特徴を説明できるようになることを目標とする。	
	日本国憲法Ⅰ		本科目では、近代以降の立憲主義の理念とは何か？20世紀から現代にかけてはどのように理解されているのか？この理念に基づいて、基本的人権や統治のしくみはどのように解釈されるべきであるか、裁判所はどのように解釈しているか？といった問題について、日本国憲法の入門および一般教養としての解説を行う。 本科目では、憲法の歴史や原理、基本的人権保障のあり方に関する基本原則、憲法が保障する基本的人権の前半部分（幸福追求権、平等、精神的自由）の解釈論について解説する。	
	日本国憲法Ⅱ		本科目では、日本国憲法が保障する基本的人権の後半部分（人身の自由、経済的自由、社会権、参政権）について解説し、次いで民主権原理や権力分立、法の支配等の国の統治に関する基本原則、国会・内閣・裁判所といった国の機関相互の関係およびそれぞれのもつ権限や仕組みとその限界、憲法が保障する地方自治の原則や仕組み、平和主義（歴史、憲法9条の解釈と現代的展開）について、日本国憲法の入門および一般教養としての解説を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
教 養 教 育 科 目	現代社会と経済Ⅰ		新聞の経済記事や経済ニュースを理解するには、経済学の知識が欠かせない。経済学を理解することで、経済の動きを表面的な部分だけではなく、本質的なメカニズムの理解が可能となる。また、今日において、経済学は人間の行動がどのように社会に影響を及ぼすかを研究する学問であることから、自分自身や自分の周りの人たちにとって、よりよい社会を作るための指針を示してくれることに役立つ。本科目ではミクロ経済学の知見から、そうした問題を自らの頭で考えていくための土台を築く。 本科目では、現代の経済問題を考える上で以下のキーワードを中心に講義を行う。 市場均衡、余剰分析、需要の価格弾力性、課税、国際貿易、ゲーム理論 本科目は公務員志望者や中級レベルのミクロ経済学を学ぶ学生に向けた橋渡しとしての役割も果たしている。	
	現代社会と経済Ⅱ		新聞の経済記事や経済ニュースを理解するには、経済学の知識が欠かせない。経済学を理解することで、経済の動きを表面的な部分だけではなく、本質的なメカニズムの理解が可能となる。また、今日において、経済学は人間の行動がどのように社会に影響を及ぼすかを研究する学問であることから、自分自身や自分の周りの人たちにとって、よりよい社会を作るための指針を示してくれることに役立つ。本科目ではマクロ経済学の知見から、そうした問題を自らの頭で考えていくための土台を築く。 本科目では、現代の経済問題を考える上で以下のキーワードを中心に講義を行う。 国民所得、有効需要の原理、均衡国民所得、財政学、金融、国際マクロ経済学 本科目は公務員志望者や中級レベルのマクロ経済学を学ぶ学生に向けた橋渡しとしての役割も果たしている。	
	現代社会と経済Ⅲ		戦後の日本を支えた仕組みが変わりいわば自己責任の時代がやってきており、知識の有無で結果が大きく変わりうる状況となっている。今後日本人として考えておくべき問題と社会や経済の変化について学び、金融・保険・不動産等についてや企業を起こすときに、知っておくべきことを学ぶことを目的とする。 経済情報の捉え方、金融資本市場、債券市場、株式市場、投資信託の役割とその変化、証券投資のリスク・リターン、ポートフォリオ・マネジメント、外国為替相場とその変動要因について取り扱う。	
	現代社会と経済Ⅳ		戦後の日本を支えた仕組みが変わりいわば自己責任の時代がやってきており、知識の有無で結果が大きく変わりうる状況となっている。今後日本人として考えておくべき問題と社会や経済の変化について学び、金融・保険・不動産等についてや企業を起こすときに、知っておくべきことを学ぶことを目的とする。 グローバル化する世界と資本市場の果たす役割、日本の株式市場史、財務分析と企業評価、行動ファイナンス～投資家心理、産業展望と投資の考え方、ライフプランニングと資産形成、資産形成と非課税制度、企業とSDGsについて取り扱う。	
	現代社会と経済Ⅴ		本科目では、古典的なリカードモデルからクルーグマンの新しい貿易理論などに至るまで、過去2世紀の間に開発された主要な貿易理論を研究する。 まず、基本的な需給モデルを使用してウォームアップし、国際貿易の影響を理解する。次に、デヴィッド・リカードの古典的なモデルと、国際貿易を推進する比較優位の彼の原則を研究する。次に、20世紀の大部分を通じて貿易と経済開発の政策策定の中心であったヘクシャー・オリーンモデルに目を向ける。1980年代にポール・クルーグマンが発表した独占的競争に基づく貿易モデルを見て、コースを締めくくる。これは、国際貿易を理解するための新しいパラダイムになった。 コースの終わりに、学生は私たちが観察する貿易のパターンがどのように現れるか、そして貿易が貿易国の福祉にどのように影響するかを理解することができるようになる。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
教 養 教 育 科 目	現代社会と経済Ⅵ		本科目では、国際貿易の流れを規制するために政府がどのような種類の貿易政策手段を使用し、それらが国民の福祉にどのような影響を与えるかを研究する。 まず、基本的な需給モデルを使用してウォームアップし、輸入関税と割当の影響を理解する。次に、国際貿易の一般均衡モデルと貿易政策の世界的な影響をレビューする。私たちは、国際投資と多国籍企業を見て、コースを締めくくる。コースの最後に、学生はさまざまな貿易政策の影響を科学的に理解し、評価し、議論することができるようになる。	
	現代社会と企業経営Ⅰ		①授業の目的 本科目は、企業経営について基礎的な知識の習得を目指す。 ②授業の概要 本科目では、経営学の全体像を解説した後、経営戦略、経営組織、ビジネスシステム、マーケティング、組織形態等、現代社会における企業経営について理解を深める。 できるだけ多くの事例を紹介して、リアリティのある講義を行いたいと考えている。	
	現代社会と企業経営Ⅱ		経営学とは、企業の経営について学ぶ学問である。大学卒業後に会社や団体に就職したり、家業を継いだりする学生もいることだろう。そうすると企業を経営する立場から物事を考えることが必要となる。すなわち、どうしたら企業や家業がうまく成長できるのか、あるいは突然の危機を乗り越えることができるのかを常に意識しなければなりません。このような問題意識の答えを見つけるための基礎として、本科目では経営学の体系を解説した後、経営学を構成する経営戦略論や経営組織論等の基礎について豊富な事例を交えて幅広く説明する。	
	現代社会と政治Ⅰ		18歳選挙権の施行から5年が経過し、若者の政治参加が課題となる中、主権者教育の必要性はますます高まっている。本科目では、現代の民主主義体制において不可欠とされる制度や概念について、日本や他国の事例を挙げながら、理論と実態の両面から説明する。具体的には、デモクラシー、リーダーシップ、選挙、議会、政党、官僚、世論の各テーマを取り上げる。授業を通して、政治学の理論と、現代の政治の基本的な知識を身に付けることを目的とする。以下の3点を授業の到達点とする。 ①政治学の基礎的な理論と知識を習得する。 ②政治的な事象について論理的に考え、判断する力を養う。 ③歴史的事実を踏まえたうえで、現代の政治について理解する。	
	現代社会と政治Ⅱ		現代社会と政治Ⅰでは、民主主義体制における政治制度や概念をテーマとして、政治学の理論と、現代の政治にとって基本的な知識について学修してきた。本科目では、日本政治と国際政治を大きなテーマとして、具体的な歴史や事例を取り上げながら、政治学をより深く学ぶことを目的とする。以下の2点を到達点とする。 ①近代以降の日本の政治史と現代の政治過程について理解を深めるとともに、日本の地方自治の仕組みと、現代日本の福祉政策について、基本的な知識を身に付ける。 ②国際政治の基本的な原理について理解を深め、安全保障のあり方として、勢力均衡と国際機構について、それぞれ基本的な知識を身に付ける。	
	国際政治経済Ⅰ		現在の世界で起きている諸問題のつながりを解説することにより、国際社会のしくみを総合的にとらえる視座を獲得することを目的とする。国家を単位とする政治経済の分野に限らず、地域単位で発生する民族紛争や人権問題、さらには地球規模の広がりを持つ食料やエネルギーなど資源問題、環境問題など「地球課題（グローバル・イシュー）」と呼ばれる、我々が直面する問題にまつわる基礎的な知識を学びながら、国家／地域／世界といった各レベルでの実践的な問題解決に向けた素養を身につける。 授業は大きく2パートに別れる。第1パート（2-4回）では、国際政治経済の分析の枠組み、単位、方法を概説する。第2パート（4-8回）では民族問題、宗教問題など対立の原因伴っている人権問題について扱う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
教養 教育 科目	国際政治経済Ⅱ		現在の世界で起きている諸問題のつながりを解説することにより、国際社会のしくみを総合的にとらえる視座を獲得することを目的とする。国家を単位とする政治経済の分野に限らず、地域単位で発生する民族紛争や人権問題、さらには地球規模の広がりを持つ食料やエネルギーなど資源問題、環境問題など「地球課題（グローバル・イシュー）」と呼ばれる、我々が直面する問題にまつわる基礎的な知識を学びながら、国家／地域／世界といった各レベルでの実践的な問題解決に向けた素養を身につける。 授業は大きく2パートに別れる。第1パート（1-3回）では食料、エネルギーなどの資源にまつわる問題について、第2パート（4-7回）は地球環境問題、復興、科学技術といった新たな課題についてその動態を国際政治経済の視点から探る。第8回は全体のまとめとして国際政治経済から見た未来像を検討する。	
	社会と家族Ⅰ		①家族に関わる現代的諸問題について、家族とは何かを多角的に講義する。 ②家族が社会的にどのように考察できるのか、集団としての家族の構造や機能について基礎知識について講義する。 ③現代家族の特徴やそれを取りまく社会的課題について、様々な統計データ・文献資料をもとに考察し、家族と社会構造・社会制度との密接な関連について講義する。 ④家族に関する法について、家制度や民法の成立などの歴史的経緯をふまえて課題点を講義する。 ⑤近代から現代かけて、近代家族概念をもちいて現代家族の特徴や課題を明らかにする。	
	社会と家族Ⅱ		①家族に関わる現代的諸問題について、家族とは何かを多角的に講義する。 ②現代家族の特徴やそれを取りまく社会的課題について、様々な統計データ・文献資料をもとに考察し、家族と社会構造・社会制度との密接な関連について講義する。 ③家族形成の基礎となる結婚や離婚・再婚について、社会制度としてどのような現代的課題があるか講義する。 ④育児や介護などの家内労働（ケア労働）や社会労働におけるジェンダーギャップ問題を講義する。 ⑤各ライフステージにおける家族生活の特徴と課題について講義する。	
	倫理リテラシーⅠ		倫理学とは、「よい」「わるい」とはどのようなことであるかを考え、我々がより「よい」生き方をしてゆくための道筋を探る学問である。本科目では、現在までの倫理学で行われてきた議論について概観的に知るとともに、そうした知識を踏まえつつ、現代の我々が現実の問題に向き合い、それに取り組んでゆくための倫理的な思考法を身につけるための基本的な訓練を行う。 特に第1Qでは、日本において倫理学がどのような文脈において必要とされ、どのような歴史的な過程を通じて、現在のような一つの「科学」として論じられるようになったかを見る。	
	倫理リテラシーⅡ		倫理学とは、「よい」「わるい」とはどのようなことであるかを考え、我々がより「よい」生き方をしてゆくための道筋を探る学問である。本科目では、現在までの倫理学で行われてきた議論について概観的に知るとともに、そうした知識を踏まえつつ、現代の我々が現実の問題に向き合い、それに取り組んでゆくための倫理的な思考法を身につけるための基本的な訓練を行う。 特に第2Qでは、第1Qから連続する内容として、過去の倫理学において行われてきた研究や論争の結果として、「自由」や「個性」「文化」といった、現代の社会でも重要視されているような概念が学問的・一般的に用いられるようになったことを見る。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
教 養 教 育 科 目	男女共同参画社会論		本科目では、男女共同参画社会の基本的な考え方を理解するとともに、ジェンダー、マイノリティ、そして多様性の視点から、多角的に社会を捉えるようになることを目的とする。 男女共同参画についての基本的な知識を押さえるとともに、正解のない考え方に対して受講者一人ひとりが問題意識をもち、より良い男女共同参画社会について考える。具体的には、前半（第1回～第3回）は、男女共同参画に関する講義をおこなう。第4回～第7回は、一人ひとりが主体的に参画できる社会とはどういう社会か、ということについて、まずは自分で考え、その後、各意見に対して、WebClass上の「ピアレビュー」等を使い、他者の意見をふまえながら、さらに再考する。	
	地誌学入門Ⅰ		地誌学入門として、地理写真・地図・地誌に親しみ、地誌および地誌学の基本知識を学び、その基礎を習得することを目的とする。さまざまな地理写真・地図・地誌を題材として、地誌学の基礎、「地域のとらえ方」の初歩を習得する。WebClassを通じた配布プリントあるいは授業中の板書を教科書代わりとし、地理写真・地図・地誌の実物を回覧して講義は進行し、ときに簡単な課題について授業時間中に作業し、その作業用の色鉛筆の持参を求めることもある。 授業内容は、第1回：Ⅰ地理写真と写真地誌 1.地理写真とは、第2回：Ⅰ地理写真と写真地誌 2.地理写真を読む、第3回：Ⅰ地理写真と写真地誌 3.写真地誌、第4回：Ⅱ多種多様な地図と地形図整備 1.地誌と地図のある生活、第5回：Ⅱ多種多様な地図と地形図整備 2.地図の定義と種類・分類 1) 地図の定義、第6回：Ⅱ多種多様な地図と地形図整備 2.地図の定義と種類・分類 2) 地図の種類と分類、第7回：Ⅱ多種多様な地図と地形図整備 3.地形図の整備、第8回：まとめ・期末試験、の順に構成される。授業時間外では、自分なりの課題設定で実際の地理写真・地形図を読み込み、その成果をミニレポートにまとめる作業がある。	
	地誌学入門Ⅱ		地誌学入門として、地図・地誌により親しみ、地誌及び地誌学の基本的見識を得ることを基本的な目的とする。さまざまな地図・地誌・地理写真を題材として思考を多様にめぐらし、地誌学の基礎に基づく「地域のとらえ方」を習得する。WebClassを通じた配布プリントあるいは授業中の板書を教科書代わりとし、地図・地誌の実物も回覧されて講義が進行する。ときどき、簡単な課題について授業時間中に作業が求められ、その作業用の色鉛筆の持参が必要となることもある。 授業内容は、第1回：Ⅰ地図の構成と図式 1.地図の基本的構成と作成、第2回：Ⅰ地図の構成と図式 2.2万5千分の1地形図の図式 1) 地形図の整飾、第3回：Ⅰ地図の構成と図式 2.2万5千分の1地形図の図式 2) 地形図の記号、第4回：Ⅰ地図の構成と図式 2.2万5千分の1地形図の図式 3) 注記・表現の約束、第5回：Ⅱ地図の活用と地誌 1.地図の活用 2.地図の基本的読図、第6回：Ⅱ地図の活用と地誌 3.地図の総合的読図、第7回：Ⅱ地図の活用と地誌 4.地図・地理写真と地誌 5.地理情報システム利活用の基礎、第8回：まとめ・期末試験、の順に構成される。授業時間外では、自分なりの課題設定で実際の地形図・写真地誌を読み込み、その成果をミニレポートにまとめる作業がある。	
	社会と地域Ⅰ		現代における社会と地域の諸問題・諸事象を社会学的視点からとらえられるようになるために、本科目では社会学の見方と考え方を学ぶ。はじめにさまざまな社会科学の学問と、そのなかでの社会学の特徴について説明する。次に社会や地域、人間関係などのさまざまな例と、それらに関連する社会学の概念などをとりあげながら、現代の社会についての社会学の見方と考え方について学ぶ。ジェンダーについても取り上げる。またアメリカの社会学者ロバート・マートンの「中範囲理論」の考え方や社会調査など社会学の方法、統計などについても扱う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
教養 教育 科目	社会と地域Ⅱ		現代における社会と地域の諸問題・諸事象を社会学的視点からとらえられるようになるために、前半は国民国家の形成や産業革命、消費社会、都市化といった社会学が誕生した歴史的社会的背景について取りあげ、現代の社会の基盤になる社会のあり方と、それに関する社会学の見方について学ぶ。国民国家との関連で、1990年代以降のグローバル化とローカリズムについての考え方や多文化主義についても取り上げる。後半は近代都市と現代の都市の諸問題とともに、ゲオルク・ジンメル都市論やシカゴ学派の都市社会学など都市社会学の基本的な考え方や、アンリ・ルフェーヴルやミシェル・フーコー、セルトーなどの都市について考え方や空間論的転回などの都市空間についての考え方を学ぶ。	
	金融リテラシー講座Ⅰ		「貯蓄から投資の時代へ」といった言葉に象徴されるとおり、近年の日本においては金融取引に関する確かな知識とそれに基づく自己判断力、そしてそれに向き合う上での自己責任の意識が否応なく求められるようになっている。そうした最低限の金融知識や判断力、すなわち金融リテラシーについて学ぶ授業である。とりわけ、ここでは金融市場のしくみや日本の金融・財政政策、個人の資産運用に関わってくる各種のマクロ指標、様々な金融商品およびそれに関わる制度などについて学ぶ。なお本科目は「実務経験のある教員による授業科目」であり、各種の金融機関あるいは関連団体等に所属する講師による実践的な教育を行う。	
	金融リテラシー講座Ⅱ		「貯蓄から投資の時代へ」といった言葉に象徴されるとおり、近年の日本においては金融取引に関する確かな知識とそれに基づく自己判断力、そしてそれに向き合う上での自己責任の意識が否応なく求められるようになっている。そうした最低限の金融知識や判断力、すなわち金融リテラシーについて学ぶ授業である。とりわけ、ここではライフプランに関わる家計管理手法やキャリア形成や、身近な金融商品を通して考える投資との向き合い方などについて学ぶ。なお本科目は「実務経験のある教員による授業科目」であり、各種の金融機関あるいは関連団体等に所属する講師による実践的な教育を行う。	
	ものづくりと知的財産		今日の日常はスマートフォンやテレビ、ロゴ、漫画など、様々な知的創作活動によって創出されたアイデアや知的創作物に溢れており、これらの知的財産の保護と活用を奨励を目的とした法律として、知的財産権法は今日の産業、文化、経済的活動を支える重要な法律の一つと認識されている。本科目を知的財産権学習の導入の位置づけとし、法律を学びたい者や将来ものづくりを志す者の基礎的知識の習得の観点から、知的財産権という法制度を理解することを本科目の目的とする。本科目を通して、特許・実用新案・意匠・商標・著作権、その他の関連法を概説し、知的財産権及び各法の概要を理解すると共に、特に、ものづくりと各法の関係性を理解し、各法で保護されるべき知的創作物を理解することを、本科目の到達目標とする。	
	観光学入門Ⅰ		観光学の入門レベルの科目である。「観光」の定義やそれにかかわる概念を学ぶ。観光学入門Ⅰでは西洋および日本の歴史の中での観光、観光の有する意味の変遷について学ぶ。高校までの社会科で習った知識を踏まえ、各時代の観光を包括的に学ぶ。また、現代の観光形態に至った経緯についても歴史的な背景から考察する。余暇と労働の概念から観光の位置づけを行い、影響と効果についても学ぶ。	
	観光学入門Ⅱ		観光学の入門レベルの科目である。「観光」の定義やそれにかかわる概念を学ぶ。観光学入門Ⅱでは経済学や政策的な観点から観光を学ぶ。高校までの社会科で習った知識を前提に行う。前半では主に経済学的な視点から簡単な経済モデルを紹介し、実際の計算を行う。後半部分では観光に関わる政策を紹介し、どのような目的で運用されているかについて学ぶ。観光業で扱う実務的な内容だけではなく、学術的な内容についても触れることで多角的に観光を学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
教 養 教 育 科 目	障害者と社会参加の基礎		近年、障害者の社会参加の機運が高まっている。共生社会の実現に向けて、私たちが できることはどのようなことであろうか。本科目では、このような問いに答えを持っ ていただくための知識を教授する。この「障害者の社会参加の基礎」の講義では、障 害者の社会参加に関する知識のうち、知的障害、精神障害、発達障害などの各障害の 障害特性、様々な障害者の生活の実態、障害者の社会参加に関する支援制度などの基 礎的な知識を提供する。この基礎的な知識に基づき、障害者の社会参加に関心を持 ち、一人の社会人として障害者との関りを増やしていくことができることを目指して いる。	
	障害者と社会参加の実践		近年、障害者の社会参加の機運が高まっている。共生社会の実現に向けて、私たちが できることはどのようなことであろうか。本科目では、このような問いに答えを持っ ていただくための知識を教授する。この「障害者の社会参加の実践」の講義では、障 害者の社会参加に関する知識のうち、知的障害、精神障害、発達障害などの就労支援 及び障害者雇用の実践、特例子会社などの障害者雇用に関する支援制度などの実践 的な知識を提供する。この実践的な知識に基づき、障害者の社会参加に関心を持ち、一 人の社会人として障害者に対する具体的な支援などの行動を増やしていくことができ ることを目指している。	
	心理学Ⅰ		人間の心は知・情・意の機能が三位一体となることで成立するといわれる。本科目では、これら三つの機能について古典的な心理学の実験や理論を学び、それを踏まえて最近の脳科学などの知見に結びつけ、人間の心の有り様について自分なりに理解し、考察できるようになる。具体的な目標としては、第一に、認知、記憶、感情などの機能について心理学の基本的な知見、理論を説明できる、第二に、人間の心の仕組み、行動の原理について自分なりの考えを述べられる、第三に、授業で取り上げた心理学の知見や理論をもとに、自分なりの人間観を表現できる、を挙げる。主なテーマとして、「人はいかにして世界を知るのか?」、「記憶をつむぐメカニズム」、「人間の知、機械の知」などを扱う。	
	心理学Ⅱ		人間の心は知・情・意の機能が三位一体となることで成立するといわれる。本科目では、これら三つの機能について古典的な心理学の実験や理論を学び、それを踏まえて最近の脳科学などの知見に結びつけ、人間の心の有り様について自分なりに理解し、考察できるようになる。具体的な目標としては、第一に、認知、記憶、感情などの機能について心理学の基本的な知見、理論を説明できる、第二に、人間の心の仕組み、行動の原理について自分なりの考えを述べられる、第三に、授業で取り上げた心理学の知見や理論をもとに、自分なりの人間観を表現できる、を挙げる。主なテーマとして、「人間と動物の心に境界はあるのか」、「心の進化の行く先」、「自己意識をめぐる比較心理学の発展」などを扱う。	
	人間関係論Ⅰ		人間関係に関する基礎理論を知り、ペアワーク等の経験を通して、より円滑な人間関係を営むことができるようにすることを目的とする。人間関係に自信が持てない学生が、ある程度自信をもって他者とのかかわることができるようになるために必要な知識を体験的に学習する科目である。 以下を到達目標とする。 1. 人間関係に関する心理学・社会学的理論について理解する 2. 初対面の人と向き合い、相手の話を聴いて気持ちを受けとめることができるようになる 3. 悩んでいる友人に対し、適切な対応ができるようになる	
	人間関係論Ⅱ		他者との意見交換を通して様々な社会的事象に対する自分の意見を形成し、他者と共有することができるようにすることを目的とする。授業では毎回テーマを提示して、それについてグループで話し合い、意見をまとめて発表を行う。 以下を到達目標とする。 1. 人間関係に関するテーマについて、自分の考えをまとめることができる 2. 自分の考えを伝え、相手の考えを理解することができるようになる 3. 自分の意見を、対話を通して修正し、自分たちの意見へと発展することができるようになる	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
教 養 教 育 科 目	日本語表現の諸相Ⅰ		情報化社会の中であって、自分自身を的確に表現する力、発信された情報の意味を読み解く力が重要さを増している。本科目では、それらの力を確立するために、まずは“真似学”に徹することとし、日常の言語生活から表現の実例（ネーミング、キャッチコピー、歌詞、文章コンテスト、名言、小説・取説文など）を参照しつつ、そこに生かされている多様な表現技法を体得することから始める。またその活動を通して、言葉の限界と可能性、表示性と表現性、およびそれ（言葉）が果たしうる本質的機能を実践的に理解することを目的とする。	
	日本語表現の諸相Ⅱ		情報化社会の中であって、自分自身を的確に表現する力、発信された情報の意味を読み解く力が重要さを増している。しかし自身の表現スキルを伸ばすためには、単に“表現されたものを学ぶ”だけでなく、その知見を踏まえて“自らが表現する”ことが重要である。本科目では、受講者自身が読む・聞く・話す・書くの言語活動を具体的に実践することで、これら4技能の力を体系的に涵養することを目的とする。なお授業では、あわせて言葉（表現）の機能や特質などについても意見交換を行い、日本語学的な考察への橋渡しという側面も視野に入れて進めていく。	
	現代社会と教育Ⅰ		誰もが当然のように過ごしてきた学校や教育は、実は多くの不思議であふれている。例えば、勉学がなぜ必要か、疑問に思うような校則はなぜあるのか、定期的な学校行事はなぜあるのかなど。もちろん、これらの不思議はもっともらしい理由が存在することが多いが、その理由を熟考すると納得がいかないことが多いことに気づかされる。本科目では、教育学の立場から、学校や教育のいろいろな不思議を考える。学校や教育と社会の関係性について、いろいろな疑問を持ち、教育学が培ってきたそれなりの確からしい方法で、自分なりの答えを導き出せるようになることを目指す。Ⅰでは、勉強、試験、校則、部活、行事などをテーマとして取り上げる。	
	現代社会と教育Ⅱ		誰もが当然のように過ごしてきた学校や教育は、実は多くの不思議であふれている。例えば、勉学がなぜ必要か、疑問に思うような校則はなぜあるのか、定期的な学校行事はなぜあるのかなど。もちろん、これらの不思議はもっともらしい理由が存在することが多いが、その理由を熟考すると納得がいかないことが多いことに気づかされる。本科目では、教育学の立場から、学校や教育のいろいろな不思議を考える。学校や教育と社会の関係性について、いろいろな疑問を持ち、教育学が培ってきたそれなりの確からしい方法で、自分なりの答えを導き出せるようになることを目指す。Ⅱでは、友だち、恋愛、先生、いじめ、キャラ、将来などをテーマとして取り上げる。	
	Japanese Culture		本科目では、現代日本社会における主要な話題や関心事を紹介する。本科目は主に英語で行われ、全学部学生に開かれている。 本科目の主な焦点は、現代日本社会における家族のイメージと形、特に個人と家族の関係であるが、この関係が社会全体からどのように認識されているかについての考察も含まれる。 このトピックについて簡単に紹介した後、個人と家族というテーマが顕著な2つの短編文学作品を読み、議論する。テキストは、受賞作である吉本ばななの『キッチン』と村田沙耶香の『コンビニ人間』である。 毎回、ディスカッションの時間を十分にとり、受講生がその場で自分の意見や考察を述べることを期待される。	
	Japanese Thought		本科目では、日本哲学の主要なトピックの一つを紹介する。 本科目は主に英語で行われ、全学部学生に開かれている。 本科目の主な焦点は、日本思想における自然の理解、特に人間と自然・人工環境との関係である。 授業では歴史的な概要とトピックの紹介の後、江戸時代の2人の思想家、安藤昌益（1703-1762）と二宮尊徳（1787-1856）の著作から短い断片を読み、議論する。自然、人間、天道、人道といった概念や観念について考える。 毎回、ディスカッションの時間を十分にとり、受講生はそのテーマについて自分自身の意見や考察を述べることを期待される。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
教養 教育 科目	子ども家庭支援論Ⅰ		現代社会において、子育て支援、家庭支援の在り方を考えることの重要性が増している。本科目では、以下の2点を授業の目標とする。 ①現代社会における家族、特に乳幼児を育てる家族と地域社会とのかかわりや、その支援の課題を考える。 ②子育て支援におけるこれからの保育・学校教育・社会教育の関係やそれぞれの役割について理解する。 なお、本科目は保育士資格取得のための科目となっているため、受講生が多数の場合は、保育士資格希望者を優先とし、受講者数を40名以下に限定する。受講者数を限定することで、グループ毎のディスカッションやグループワークの充実を図る。保育士資格希望者は必ず、子ども家庭支援論Ⅱを合わせて受講すること。	
	子ども家庭支援論Ⅱ		現代社会において、子育て支援、家庭支援の在り方を考えることの重要性が増している。本科目では、以下の2点を授業の目標とする。 ①現代社会における家族、特に乳幼児を育てる家族と地域社会とのかかわりや、その支援の課題を、具体的なニーズに基づいて考える。 ②子育て支援におけるこれからの保育・学校教育・社会教育の関係やそれぞれの役割について、具体的な事例に基づき理解する。 なお、本科目は保育士資格取得のための科目となっているため、受講生が多数の場合は、保育士資格希望者を優先とし、受講者数を40名以下に限定する。受講者数を限定することで、グループ毎のディスカッションやグループワークの充実を図る。保育士資格希望者は必ず、子ども家庭支援論Ⅰを合わせて受講すること。	
	芸術と文化Ⅰ		西洋の具体的な美術作品を例に、基本的な美術史の流れを知ることにより一般教養としての芸術の理解を深め、西洋文化にアプローチする基礎的な方法を習得する。一講義につき一つの時代と様式について実際の作品のスライドを見ながら、様式や主題などの作品の内容を理解する。具体的には、ギリシア・ローマの古典美術から近世初期までの美術史の流れを理解する。またその知識をもとに、西洋各国、都市の文化のみならず、身近な地域の文化に対する学びのアプローチに連結させる思考を養うことを目的とする。	
	芸術と文化Ⅱ		西洋美術の歩みを概観しながら、各時代に特有の様式や作品のなりたちを各時代背景とともに学ぶ。造形文化が人間の世界に対する眼差しをあらわし、歴史とともに変化するものであることを理解する。具体的には、近世から現代までの美術史の流れを理解する。またⅡにおいては、美術作品を社会における機能を持った存在として捉えることで、西洋各国、都市の文化のみならず、身近な地域の文化に対しても発展的に捉えられる視点を養うことを目指す。	
	情報デザインⅠ		情報デザインの考え方にに基づき、世の中に存在する多様な問題を解決しようとする姿勢を身につける。情報デザインⅠでは特に、情報デザインの背景とその基本的な考え方を理解することを目的とする。本科目は情報デザインを学ぶ上での第一段階として、まず現代社会において情報デザインが求められている背景について理解するとともに、①情報の基本構造、②情報とデザインの関係性、③情報デザインの基本的な考え方について、それぞれを概観する。	
	情報デザインⅡ		情報デザインの考え方にに基づき、世の中に存在する多様な問題を解決しようとする姿勢を身につける。情報デザインⅡでは特に、「わかりやすさ」の実現をキーワードに、その具体的方法論を通して情報デザインに基づく問題解決のあり方を理解し、実現するための技法を身につける。本科目は情報デザインを学ぶ上での第二段階として、①情報デザインの基本的な方法論である「情報表現」の考え方及びその基本技法について学ぶとともに、②「わかりやすさのデザイン」を実現していくための具体的な方法論について、実際の情報デザインの展開事例と結びつけながら学習する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
教 養 教 育 科 目	西洋社会の歴史Ⅰ		国家の成立と形成から読み解く西洋社会の歴史と題して、受講生は近代社会を生み出した西ヨーロッパの歴史の展開を、民族移動、封建的主従関係、王権のあり方、戦争と講和、民としての意識等の角度から考察する。しかし、西洋社会のすべての歴史を扱うことは難しいため、中世のフランスとイングランドに焦点を当てて、これを学ぶ。両国の歴史はヨーロッパの近代及び現代において主導的な役割を果たしたのみならず、中世におけるそれぞれの王権の発達とともに両者の関係は当時の西洋社会の動向にも大きな影響を及ぼした。受講生はこの時代に書かれ、残され、保存された歴史資料（文書、記録、著作物、絵画など）をみずから読み、考察することにより、歴史像を描くことを目指す。これを通じて、受講生は西洋社会の歴史の一端を理解するとともに、歴史学の手法の初歩を身に付けることを目標とする。	
	西洋社会の歴史Ⅱ		戦争から読み解く西洋社会の歴史と題して、受講生は近代社会を生み出した西ヨーロッパの歴史の展開を、戦争の政治・社会的背景や戦前戦中、和平交渉や戦争の社会的影響という角度から考察する。しかし、西欧社会のすべての歴史を扱うことは難しいため、西洋史最大の戦争と表現されることもある英仏百年戦争（1337～1453）に焦点を当てて、これを学ぶ。百年戦争はヨーロッパの近代及び現代の歴史につながる国家形成や国民感情の醸成に大きな影響を及ぼしたとされる。特に受講生は百年戦争の時代に書かれ、残され、保存された歴史資料（文書、記録、著作物、絵画など）をみずから読み、考察することにより、歴史像を描くことを目指す。これを通じて、受講生は西洋社会の歴史の一端を理解するとともに、歴史学の手法の初歩を身に付けることを目標とする。	
	科学史入門Ⅰ		科学（自然科学）とは何か、現代の科学はどのように築きあげられてきたのかについて、その歴史や哲学を通じて学ぶことにより、科学的に探究するとはどういうことかを理解することが目的である。科学の歴史については、天文学の変遷や発展を軸として、自然観の変遷だけではなく科学と社会のあり方についても学ぶ。これらについて、講義や演習で学ぶとともに、ディスカッションを通じて学び合い、自然科学とは何かを互いに考えていく。	
	科学史入門Ⅱ		科学（自然科学）とは何か、現代の科学はどのように築きあげられてきたのかについて、その歴史や哲学を通じて学ぶことにより、科学的に探究するとはどういうことかを理解することが目的である。Ⅰの学びを踏まえて、Ⅱでは受講生が興味を持った科学者について複数の書籍や論文から調べ、互いに紹介し合うという授業とする。その中で、受講生同士で質疑応答を行うことで理解を深めるとともに、プレゼンテーションの技能を身に付ける。これを通じて、自然観の変遷だけではなく科学と社会のあり方についても学ぶとともに、自然観を身に付ける。	
	多文化コミュニケーション入門Ⅰ		本科目では、多様な背景を持つ他者（留学生や他の学部・学年の学生）が様々な場面におけるコミュニケーションの仕方について話し合い、互いの文化の特徴や違いについて考察する。そのため、受講者は様々なトピックについて、自分の思考を積極的に表現することが求められる。授業間のつながりがあるためⅠを取った上でⅡもともに取ることが望ましい。	
	多文化コミュニケーション入門Ⅱ		本科目では、各グループがコミュニケーションに関するテーマに焦点を当て、学問的なアプローチを用いて調査を実施する。そのため、各グループでテーマの決定・文献調査・質問紙調査の設計・調査の実施・結果の報告を行う。これらの一連の過程を通じてコミュニケーションに関する洞察が得られることが期待される。Ⅰを取った上で履修することが望ましい。	
	多文化コミュニケーション入門Ⅲ		本科目では、多文化コミュニケーション、コミュニケーション・スタイル、言語・非言語コミュニケーションの基礎について学ぶ。この授業の目的は、多文化コミュニケーションの基本的な概念について理解を深め、多様な背景を持つ他者（留学生や他の学部・学年の学生）の文化を理解することである。そのため、受講者はグループ活動に積極的に参加し、自分の思考を表現することが求められる。授業間のつながりがあるためⅢを取った上でⅣもともに取ることが望ましい。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
教養 教育 科目	多文化コミュニケーション入門Ⅳ		本科目では、受講者は異なる文化背景を持つ個人と協力してインタビュー活動を実施する。インタビュー対象者のアイデンティティや価値観について深い理解を得るために、質問の選定に注意を払い、それに基づいてインタビューを実施し結果を報告する。この活動の目的は、他者の文化について深い理解を得、多文化コミュニケーションのスキルを向上させることである。Ⅲを取った上で履修することが望ましい。	
	日本文化入門Ⅰ		〔日本文化入門Ⅰおよび日本文化入門Ⅱは、英語を媒介として多様な背景の他者と複数週にわたるグループ学習を行う。その質を維持する必要性から、通して履修すること〕日本語レベルの低い留学生を主な対象とした授業。秋田市内の歴史的文化的施設見学、生活の中のルールについて知る活動などを通し、秋田の地域文化、日本文化について理解したことを他者に伝えられるようになることを目指す。学んだ事柄は発表したりレポート化したりする。主に来日して間もない留学生を対象とするため、受講生それぞれの秋田市での生活に資するオリエンテーションという意義ももつ。講義・説明は主に英語で行われる。	
	日本文化入門Ⅱ		〔日本文化入門Ⅰおよび日本文化入門Ⅱは、英語を媒介にして多様な背景の他者と複数週にわたるグループ学習を行う。その質を維持する必要性から、通して履修すること〕日本語レベルの低い留学生を主な対象とした授業。秋田や日本社会で一般的だと思われるものの見方や視覚的情報について知る活動などを通し、秋田や日本の文化について理解したことを他者に伝えられるようになることを目指す。発見した内容は発表したりレポート化したりする。主に来日して間もない留学生を対象とするため、受講生それぞれの秋田市・日本での生活に資するオリエンテーションという意義ももつ。講義・説明は主に英語で行われる。	
	日本文化入門Ⅲ		〔日本文化入門Ⅲおよび日本文化入門Ⅳは、英語を媒介にして多様な背景の他者と複数週にわたるグループ学習を行う。その質を維持する必要性から、通して履修すること〕日本語レベルの低い留学生を主な対象とした授業。秋田市内の歴史的文化的施設見学、マンガの読み方などについて知る活動などを通し、秋田の地域文化、日本文化について理解したことを他者に伝えられるようになることを目指す。発見した内容は発表したりレポート化したりする。主に来日して間もない留学生を対象とするため、受講生それぞれの秋田市・日本での生活に資するオリエンテーションという意義ももつ。講義・説明は主に英語で行われる。	
	日本文化入門Ⅳ		〔日本文化入門Ⅲおよび日本文化入門Ⅳは、英語を媒介にして多様な背景の他者と複数週にわたるグループ学習を行う。その質を維持する必要性から、通して履修すること〕日本語レベルの低い留学生を主な対象とした授業。季節ごとのさまざまな行事・活動、日本・秋田での生活において共有されていると思われる情報やものの見方について知る活動などを通し、日本文化について理解したことを他者に伝えられるようになることを目指す。発見した内容は発表したりレポート化したりする。主に来日して間もない留学生を対象とするため、受講生それぞれの日本での生活に資するオリエンテーションという意義ももつ。講義・説明は主に英語で行われる。	
	日本社会入門Ⅰ		日本社会と日本研究における重要な概念を学ぶ。また、その知識を使って日本社会におけるさまざまな問題を振り返る。留学生を主な対象とし、講義は英語で行う。受講生は、講義内容に関し議論・発表などすることが求められ、学習内容を分析的に見る力と日本社会に対するそれぞれの視点を見出すことが期待される。具体的には、日本における家族やコミュニティの役割、日本と世界の関係などのトピックを取り上げる。読書、講義、ディスカッションを通して、日本文化を形成する社会規範や価値観を探究し、これらの規範や価値観が日本社会の様々な側面にどのように反映されているかを学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
教 養 教 育 科 目	日本社会入門Ⅱ		日本社会と日本研究における重要な概念を学ぶ。また、その知識を使って日本社会におけるさまざまな問題を振り返る。留学生を主な対象とし、講義は英語で行う。受講生は、講義内容に関し議論・発表などすることが求められ、学習内容を分析的に見る力と日本社会に対するそれぞれの視点を見出すことが期待される。具体的には、近代化とグローバリゼーションが日本社会に与えた影響、日本と世界の関係などのトピックを取り上げる。読書、講義、ディスカッションを通して、日本文化を形成する社会規範や価値観を探究し、これらの規範や価値観が日本社会の様々な側面にどのように反映されているかを学ぶ。	
	日本社会入門Ⅲ		このコースでは、祭りをテーマに日本社会における儀式を探究し、その歴史的発展、文化的意義、現代における儀式を総合的に理解する。具体的には、宗教的な儀式や祭りのパフォーマンスから日常的な習慣や慣習に至るまで、様々な儀式を考察することで、これらの儀式が日本社会の成り立ちにどのように貢献しているかの見識を深める。発表、ディスカッションを通し、日本社会を形成する規範や価値観を探究し、これらの規範や価値観が日本社会の様々な側面にどのように反映されているかを学ぶ。	
	日本社会入門Ⅳ		このコースでは、祭りをテーマに日本社会における儀式を探究し、その歴史的発展、文化的意義、現代における儀式を総合的に理解する。具体的には、神道や仏教の儀式から、地域の祭りやコミュニティーの集まりまで、様々な儀式を考察することで、これらの儀式が日本社会の成り立ちにどのように貢献しているかの見識を深める。発表、ディスカッションを通し、日本社会を形成する規範や価値観を探究し、これらの規範や価値観が日本社会の様々な側面にどのように反映されているかを学ぶ。	
	日本語教育学入門Ⅰ		日本語教育学の歴史的背景、日本語教育実践研究の意義と課題を考察する。また、日本語を教えること、日本語教育を研究する意味とは何かを考察し、自らの言語観、言語教育観を明らかにする。基本的には、留学生、日本人学生の協働的な言語活動とそれに基づく課題提出、発表によって授業を進める。後期の日本語教育学入門ⅢⅣと目標は同じとなっているが、扱うトピックが異なる。授業間の繋がりががあるためⅡとともに取ることが好ましい。	
	日本語教育学入門Ⅱ		日本語教育学の歴史的背景、日本語教育実践研究の意義と課題を考察する。また、日本語を教えること、日本語教育を研究する意味とは何かを考察し、自らの言語観、言語教育観を明らかにする。基本的には、留学生、日本人学生の協働的な言語活動とそれに基づく課題提出、発表によって授業を進める。後期の日本語教育学入門ⅢⅣと目標は同じとなっているが、扱うトピックが異なる。授業間の繋がりががあるためⅠを履修した上で取ることが好ましい。	
	日本語教育学入門Ⅲ		日本語教育学の歴史的背景、日本語教育実践研究の意義と課題を考察し、自らの言語観、言語教育観を明らかにする。言語教育に関連する授業観察も行い、授業内で報告・発表を行う。基本的には、留学生、日本人学生の協働的な言語活動とそれに基づく課題提出、発表によって授業を進める。前期の日本語教育学入門ⅠⅡと目標を同じくするが、扱うトピックが異なり、より実践的なテーマを考察していく。授業間の繋がりががあるためⅣとともに取ることが好ましい。	
	日本語教育学入門Ⅳ		日本語教育学の歴史的背景、日本語教育実践研究の意義と課題を考察し、自らの言語観、言語教育観を明らかにする。言語教育に関連する授業観察も行い、授業内で報告・発表を行う。基本的には、留学生、日本人学生の協働的な言語活動とそれに基づく課題提出、発表によって授業を進める。前期の日本語教育学入門ⅠⅡと目標を同じくするが、扱うトピックが異なり、より実践的なテーマを考察していく。Ⅲを履修した上で取ることが好ましい。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
教 養 教 育 科 目	Introduction to Participatory Workshops I		秋田県の観光の現状を知り、外国人観光客や国内観光客に対してどのような情報が必要かをグループで考え、発表を行う。コース期間中、学生は日本の地方都市のマーケティングプランの作成や、地元の観光スポットのソーシャルメディアキャンペーンの開発など、実際のプロジェクトに取り組む機会を得ることができる。コース終了時には、観光産業に対する確かな理解と、日本の地方都市を効果的にプロモーションするために必要なスキルを身につける。	
	Introduction to Participatory Workshops II		秋田県の観光の現状を知り、外国人観光客や国内観光客に対してどのような情報が必要かをグループで考え、発表を行う。コース期間中、学生は日本の地方都市のマーケティングプランの作成や、地元の観光スポットのソーシャルメディアキャンペーンの開発など、実際のプロジェクトに取り組む機会を得ることができる。最終的には、外国人観光客に秋田をアピールすることを目的とした旅行パンフレット、ブログ、動画、アプリケーションなどのメディアを作成する。	
	Introduction to Participatory Workshops III		本科目では、言語、画像、音などの複数のコミュニケーション・モードを通じて意味が伝達される方法を検討し、マルチモーダルなメタファー分析の概念を探究する。本科目では、また、コミュニケーションにおけるメタファーの役割や、異なる表現様式間の関係など、マルチモーダルなメタファー分析の理論的な基礎について概観する。コース全体を通じて、広告、映画、ウェブサイトなど、さまざまなマルチモーダルなテキストを実際に分析する。	
	Introduction to Participatory Workshops IV		本科目では、言語、画像、音などの複数のコミュニケーション・モードを通じて意味が伝達される方法を検討し、マルチモーダルなメタファー分析の概念を探究する。本科目では、また、コミュニケーションにおけるメタファーの役割や、異なる表現様式間の関係など、マルチモーダルなメタファー分析の理論的な基礎について概観する。学生は、イメージ、音、言語の使用を含む、これらのテキストの比喩的要素を特定し、分析することを学ぶ。また、これらの要素がどのように組み合わせられて意味を生み出し、メッセージを伝えているのかを検証することも学ぶ。	
	Japanese in Indonesia (1600-1945)		本科目は、東印度会社（VOC）・徳川時代初期（1600年代初頭）と19世紀半ばから第二次世界大戦の終わりまでのインドネシアへの日本人の関与の基本的な理解を提供するように設計されている。8週間で350年の歴史を学ぶため、歴史の詳細を理解し、海外での日本人の経験を感じるためには、読書と講義の両方が重要になる。主な焦点は、20世紀のコミュニティの成長と日本の南方への拡大である。このコミュニティには、日本のショップ、T.S. 佐竹のような写真家、ホテルオーナーの青地鷲雄、そして新ビジネスマンが登場した。第二次世界大戦と日本の降伏でこの期間を終了する。他国での日本の経験と同じではないが、これは日本の国際的な関与をより広く理解するための基礎を提供する。	
	Modern Indonesian History		本科目は、19世紀の近代オランダ植民地主義の出現に始まる、インドネシアの歴史の基本的な理解を提供するように設計されている。強調すべき点の1つは、インドネシアが構想され、実現されるようになった20世紀の政治的、文化的、社会的発展である。最後の数週間は、独立後の変化に専念し、現在のグローバル化で締めくくる。各時代は、インドネシアの偉大な小説家、プラモエディア・アナンタ・トゥールの人生や作品に関連して紹介され、この短く集中的なコースに豊かな文化的背景を提供する。本科目は英語で行われ、英語の読み物があるが、必要に応じて少し日本語が使用される場合がある。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
教 養 教 育 科 目	インドネシア語入門Ⅰ		コミュニケーション教育戦略を通じて、基本的かつ流暢な会話能力を身に付けることにより、インドネシア語と文化を紹介することを目的とする。 コミュニケーションは文脈化され、学生はインドネシア、マレーシア、シンガポール、ティモールの文化の基本的な理解を得ることができる。 目標は、学生がインドネシア語を使用できるようにし、独立して学習できるようにすることである。 インドネシア語の発音をできるようにするため、日本語の使用は制限され、すべてのインドネシア語の言葉をローマ字で書く。文法の説明は必要に応じて提供するが、インドネシア語は文法的に柔軟であり、本科目ではコミュニケーションに重点が置かれているため、これはごくわずかである。Ⅱと続けて履修すること。	
	インドネシア語入門Ⅱ		コミュニケーション教育戦略を通じて、基本的かつ流暢な会話能力を身に付けることにより、インドネシア語と文化を紹介することを目的とする。 コミュニケーションは文脈化され、生徒はインドネシア、マレーシア、シンガポール、ティモールの文化の基本的な理解を得ることができる。 目標は、学生がインドネシア語を使用できるようにし、独立して学習できるようにすることである。 インドネシア語の発音をできるようにするため、日本語の使用は制限され、すべてのインドネシア語の言葉をローマ字で書く。文法の説明は必要に応じて提供するが、インドネシア語は文法的に柔軟であり、本科目ではコミュニケーションに重点が置かれているため、これはごくわずかである。Ⅰを履修しておくこと。	
	哲学入門Ⅰ		哲学は、日本では大学ではじめて学問として学ぶものであり、高校までにはあまり触れる機会がないと思われるかもしれない。しかし、大学入試の国語の問題で、毎年例外なく哲学関連の文章が出題されているように、実は、高校での学習で扱われる文章のなかに、哲学に触れる機会は多くある。本科目では、高校の国語の教科書に掲載されている文章を素材にして、テーマごとに、哲学に入門することを目指す。大切なのは、準備された正解を当てることではなく、そこで論じられている事柄そのものについて、粘り強く、ときに批判的に考えることである。そのためには、関連する様々な知識を学ぶ必要もある。履修者には、このようなかたちでの哲学入門を、高校での学習から大学での研究への橋渡しの機会としてもらいたい。なお、「哲学入門Ⅱ」と合わせて履修すると、より体系的な学びとなる。	
	哲学入門Ⅱ		哲学は、日本では大学ではじめて学問として学ぶものであり、高校までにはあまり触れる機会がないと思われるかもしれない。しかし、大学入試の国語の問題で、毎年例外なく哲学関連の文章が出題されているように、実は、高校での学習で扱われる文章のなかに、哲学に触れる機会は多くある。本科目では、高校の国語の教科書に掲載されている文章を素材にして、テーマごとに、哲学に入門することを目指す。大切なのは、準備された正解を当てることではなく、そこで論じられている事柄そのものについて、粘り強く、ときに批判的に考えることである。そのためには、関連する様々な知識を学ぶ必要もある。履修者には、このようなかたちでの哲学入門を、高校での学習から大学での研究への橋渡しの機会としてもらいたい。なお、「哲学入門Ⅰ」と合わせて履修すると、より体系的な学びとなる。	
	有機資源の産業利用と環境保全		現代社会における生活で利用される有機化合物には非常に多様な種類がある。それらの原料は、石油、石炭、天然ガスなどの化石資源と、動植物由来の生物資源（例えば、セルロース、ゴム、油脂など）とに大別される。本科目では、これらの資源が産業規模でどのように使われているのかを学び、それに伴う環境への影響を解説する。化石資源と生物資源のそれぞれの長所と問題点について、入手や加工、取扱いの利便性のほか、エネルギー消費や廃棄物などを考慮に入れて考察し、多角的視野から評価できる力を養うことを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
教養 教育 科目	天体観測入門		天体に親しみ、惑星科学・宇宙科学の教養レベルの知識を身につける。宇宙空間のスケールの大きさを理解し、実感することが目的である。実習中は、教員と学生あるいは学生と学生間で、宇宙や星、人類に未来について語り合う。人類の宇宙における位置づけについて大局的に考察するのが本科目の究極の目的である。 授業は定時に行なう演習・観察が4回、定時以外の観察が3回程度とし、天体望遠鏡の仕組みについて理解し、天体望遠鏡を操作して、惑星や月、恒星の観察を行う。また、日中の太陽面観察も行う。	
	地球の環境と資源Ⅰ		地層記録を素材として、地球科学的自然認識方法および地球上に発生する諸現象を学ぶとともに、地球誕生以来の地球史に関する認識を深めることを目的とする。地球の誕生（太陽系／地球の形成、隕石と地球の構造）、地層の形成とその重なり、日本海の誕生とその成り立ち、過去の地球環境を復元する：さまざまな手法とその例、地球温暖化～地球の過去と未来～、プレートテクトニクス（大場）について学ぶ。学生は、本科目を通して地層が地球史のデータバンクであることを具体例にもとづいて説明できるようになり、地質学的自然現象認識方法を解説できるようになる。	
	地球の環境と資源Ⅱ		地層記録を素材として、地球科学的自然認識方法および地球上に発生する諸現象を学ぶとともに、地球誕生以来の地球史に関する認識を深めることを目的とする。岩石の年代測定、生物の進化の記録と地質時代、地球環境変動-その実態と原因-、大量絶滅を探る、ダイナミックな生物の進化、マグマの働き、火山噴火はどのように起こるかを学ぶ。学生は本科目を通して地球史が単なる漸進的变化ではなく、さまざまなイベントで構成されていることを理解でき、地震や火山噴火などの地質学的事象の発生を支配している統一的過程について説明できるようになる。	
	地球の環境と資源Ⅲ		本科目では、私たちが資源を入手し、それを利用するとき何が問題となるか、また資源の開発・消費が地球環境にどのような影響を与えるかを学習する。地球の環境と資源に関する問題は、私たちが社会の様々な分野で様々な形で活動するとき、常に何らかの形で関係してくるものであり、そのようなときにどう考えたらよいかを、本科目を通じて理解することを目標とする。特に、資源・エネルギー探査・開発に関わる環境問題を取り上げ、資源の将来、資源リサイクル、資源開発の歴史、環境・経済倫理、エネルギー資源などの分野における主要な話題について分析し、講義する。本科目では、学生が資源と地球環境についての社会的な関心を持ち、その解決手法について自らの意見を説明できるようになることを目指す。	
	ライフサイエンスⅠ		生命は生命から生殖により生じ連続していて、地球上で過去、一度も途切れたことがない。本科目では、生物学の創成から話を始め、生命の誕生に関する考え方を説明する。次に生命・細胞について概説したうえで、生命とはなにかに迫りたい。つづいて、生命の連続方法である無性生殖法と有性生殖法の理解を目指す。有性生殖法の研究成果としてのES細胞研究とiPS細胞研究、というライフサイエンス分野の最新の研究状況を概説するとともに、それらに伴い生命を取り巻く状況がどのように変化しているのかについても概説する。授業内では、学生どうしによる意見交換会も行い、ライフサイエンスに関する意識と理解を深化させる。	
	ライフサイエンスⅡ		本科目では、ライフサイエンス分野において、進化、ヒト、DNA技術、の3つのテーマを扱う。3つのテーマを扱う際に、前提となる生命の基本原則であるセントラルドグマを最初に概説する。進化では、進化を駆動させる力が必要なはずであるため、その駆動力について概説する。ここでは有名な日本人進化学者も登場する。このテーマのもと、現代人と日本人のルーツも扱う。近年急速に発展しているDNA技術では、人体製造技術への応用、再生医療への応用、生殖医療への応用、さらに最新の技術であるゲノム編集について概説し、ライフサイエンスの現状の理解を目指す。2つのテーマを貫くのがヒトというテーマである。また、授業内では、学生どうしによる意見交換会も行い、ライフサイエンスに関する意識と理解を深化させる。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
教 養 教 育 科 目	化学の世界		本科目では、化学への興味を喚起することを狙って、身近な事柄についての化学的な考え方（思考）や社会と「化学という学問」の繋がりを紹介する。 現代社会で話題になっている科学技術や身のまわりの物質について、「化学」が身近なところにある、「ものづくり」において「環境に配慮した化学」（グリーンケミストリー）が基本になっていること、また環境問題を解決していくのも「化学の力」であることを学ぶことを目的としている。 以下の3点を到達目標とする。 [1]有機・高分子化学、無機化学、プロセス化学、環境化学の身近な話題を取り上げることができる。 [2]化学的な考え方で身のまわりの物質やプロセス、システムについて説明できる。 [3]「化学物質」の正しい管理や使用方法について、いくつか例示して説明できる。	
	材料の世界		本科目は、今日の生活と暮らしの中に、深く入り込んでいる種々の金属材料の開発・活用方法について学ぶことを目的とするものである。 1. 人類社会を支える金属と材料工学の発展の歴史 人類と金属のかかわりの歴史をはじめ、人類社会にとっての金属の価値・役割について概説する。 2. 電気化学システム 人間社会とエネルギーの関わり、持続可能な社会の実現に求められる電気化学システムについて概説する。 3. 金属材料の製造 金属製錬およびそれにより製造される金属・合金の用途、素材・素形材の製造に使用される鋳造プロセスについて概説する。 4. 金属材料の加工 代表的な金属材料加工法である塑性加工などの概要とそれらのコンピュータシミュレーションの役割について概説する。	
	コンピュータの科学Ⅰ		コンピュータ科学の入門として、コンピュータ内部でのデータ表現および動作原理について理解することを目的とする。 本科目では、その基礎的な知識であるアナログからデジタルへの変換、2進数をはじめ8進数、16進数の数値の表し方からコンピュータ内部での整数（絶対値方式、補数方式）、小数（固定小数点、浮動小数点）、文字（文字コードなど）のデータの表現について学ぶ。また、アナログからデジタルに変換する、あるいはコンピュータのビット数が有限であることなどから生じる誤差についても理解する。	
	コンピュータの科学Ⅱ		コンピュータ科学の入門として、コンピュータ内部でのデータ表現および動作原理について理解することを目的とする。 コンピュータ内部で表現されたデータを処理する回路を理解するには論理回路の理解が必須となる。本科目では、論理回路の基礎とその数学的基礎であるブール代数の基本的な知識を身につけるとともに、論理回路を使って計算を行うための演算回路や順序回路の応用であるリップフロップ回路（メモリ）について理解を深める。	
	はじめての天文学		本科目は、リベラルアーツ教育の一環としての天文学の位置づけを理解し、太陽系・恒星・銀河・宇宙という各階層構造に対する基本的知識を身につけることを目的としている。天文学全般にわたっての入門的講義とするが、随所に天文学に関係する様々なエピソードを交えることにより、あまり天文学に興味のない受講生でも楽しめる内容とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目 主題別科目	自然環境と住まいⅠ		「人にやさしい住まい・建築の環境を、地域や地球にやさしい方法でつくる」ことを科学的に考える。対象とする住環境は、主に暖かさ・涼しさ、及び明るさ。住まい・ライフスタイルから今後の社会における環境との共生の仕方を考える見方・考え方を養う。「住まいの形と型」、形（姿かたち）を見て、型（仕組み・機能）を読み取ることが一貫したテーマとなる。 到達目標は、 1）世界各地や日本の気候に適した伝統的な住まいづくりの知恵・工夫や、現代的な住まい・建築における環境共生の潮流及び手法・技術の基礎を理解し、科学的・具体的に説明できる。 2）秋田の伝統民家（町家型、農家型）に見られた自然環境及び当時の社会環境に適応した住まいの形と型について理解し、具体的に説明できる。	
	自然環境と住まいⅡ		前提科目である「自然環境と住まいⅠ」で学んだ地域の自然環境に適応した省エネ・低環境負荷な住まいのつくり方に関する知識を基礎にして、まず住居模型を用いた学生参加型の実験で気候に適応する現代の環境共生型住宅の素材や形態の工夫と効果を測定と体感で確認し、その工夫の原理を自身で考え、受講者同士のグループ考察と発表、教員からの解説で理解を深める。 到達目標は、 1）模型実験を通じて、地域の気候の暑さ・寒さに対して、建物の外皮（屋根・壁・窓・床など）のつくり方で室内環境の暑さ・寒さを調整して、暖冷房への依存を低減する方法の効果を実感し、環境性能の優れた住環境を自らも選択し社会にも普及させる態度をもつ。 2）模型実験の結果の考察と解説を通じて、建物の外皮の形の工夫による環境調整の仕組み・機能を理解し、適切な用語や表現（図解等）を用いて正確かつ分かりやすく説明できる。	
	温泉科学概論Ⅰ		本科目では、温泉を「地球環境を理解するためのツール」として活用することができるようになるための知識の習得を目指す。温泉科学概論の前半部にあたる本科目では、温泉の定義や泉質による温泉の分類方法といった、温泉学の入門的な内容を学びながら、温泉利用の歴史や温泉の観光利用、あるいは温泉と行政との関わりについての近年の情勢といった、社会と温泉との関わりに関する内容についても科学的な視点を交えながら解説する。	
	温泉科学概論Ⅱ		本科目では、温泉を「地球環境を理解するためのツール」として活用することができるようになるための知識の習得を目指す。温泉科学概論Ⅱでは、温泉の調査方法や得られたデータの評価の仕方、データ解析の手法など、温泉科学の中心的な内容について学んでいく。また、温泉と健康の問題を考えるために、温泉の効能に関する科学的な研究事例を紹介したり、あるいは秋田県に湧出している温泉の分布や特徴について触れていくなど、幅広い観点から「温泉」という現象について考えることのできる知識の習得を目指す。	
	自然地理学入門Ⅰ		自然地理学は“地理学”の一分野であり、人間の主たる活動の場である地球表層（地表だけでなく大気中や地下を含む）を対象として、様々なスケールの空間（ローカル～リージョナル～グローバル）を構成する多様な自然環境のしくみや成り立ち、さらに自然環境と人間社会との相互関係を明らかにすることを目指す、総合的・学際的な学問である。本科目は、秋田から日本、世界までの様々なスケールにおいて、人間社会の基盤である地球表層の様々な自然環境の成り立ちや、自然環境の多様性をもたらすしくみに関する基礎的事項を理解することを目的とする。	
	自然地理学入門Ⅱ		自然地理学は“地理学”の一分野であり、人間の主たる活動の場である地球表層（地表だけでなく大気中や地下を含む）を対象として、様々なスケールの空間（ローカル～リージョナル～グローバル）を構成する多様な自然環境のしくみや成り立ち、さらに諸環境と人間社会との相互関係を明らかにすることを目指す、総合的・学際的な学問である。本科目は、秋田から日本、世界までの様々なスケールにおいて、自然が人間社会にもたらす多様な災害や、人間社会の活動が引き起こしてきた様々な環境問題についての基礎的事項を理解することを目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
教養 教育 科目	Environment and engineering		本科目は受講学生に、専門用語を含めて環境配慮設計ないし再生可能エネルギー分野の内容を英語で講義をうけ、理解することに親しんでもらう事を目標としている。全8回1単位の講義であり、配布資料は原則100%英語で作成し、講義は英語、日本語半々程度で実施する。内容は、環境配慮設計の基礎、日本と世界のE-wasteリサイクルに関わる状況、再生可能エネルギーの現状と課題など多岐に渡る。評価は基本的に期末に出題する環境関連技術、環境配慮設計に関するレポートにより行う。レポート作成は英語でも日本語でも良い。	
	食と健康Ⅰ		栄養素の生体内での役割や遺伝子との関係を細胞レベル・分子レベルで理解することで、食生活と健康との関わりに関する科学的知識を学ぶ。まず、総論として生命科学領域における栄養学の背景と分子栄養学の目的、細胞の構造と機能、遺伝子発現制御と細胞機能について学び、栄養学の理解に必要な基礎科学を概説する。その後、各論として三大栄養素である糖質、タンパク質、脂質の生体内での役割を学んで行く。グルコース代謝と糖尿病、アミノ酸の生体内機能、必須脂肪酸バランスと病態との関係を理解した上で、食と健康との理解を具体的に深めていく。	
	食と健康Ⅱ		栄養素の生体内での役割や遺伝子との関係を細胞レベル・分子レベルで理解することで、食生活と健康との関わりに関する科学的知識を学ぶ。まず、総論として分子栄養学の概要を理解した上で、各論として微量栄養素であるビタミンやミネラルの生体内での役割を学んで行く。ビタミンC・Eや抗酸化物質と活性酸素・フリーラジカル、ビタミンA・カロテノイドと視覚機能・遺伝子発現、ビタミンD・カルシウムと骨形成・細胞内情報伝達、必須無機元素の生体内機能について理解を深めていく。最終的に総論に戻り、肥満や生活習慣病の遺伝子と栄養との関連を学んだ上で、健康寿命の延長を目指した分子栄養学についての考え方を身に着ける。	
	グローバル・ヘルスとトラベル・メディスン		国際交流推進の潮流の中、海外渡航は健康と安全のリスクを増す側面もある。2016年に開講された本科目は、世界各国への留学に際し、予定の国／地域に健康かつ安全に渡航・滞在するための感染症をはじめとした各種疾患やトラブルの予防や症状・治療等について、自身で設定した渡航先を課題とし、信頼できる情報源を自身で調査することを通じて学生が実践的な知識を修得し、実際の留学時の対応を身に付けることを目的とする。本学からも多様な国や地域に学生が赴く機会が多く存在する。国際資源学部で海外資源フィールドワークは開発途上国を含む資源国で実施される全学生必修の野外実習で、渡航前学生は本科目で渡航前教育を、2018年に医学部附属病院に開設された渡航外来でワクチン接種等の渡航前医療を、それぞれ提供する体制を構築している。	
	医学と健康Ⅰ		本科目の目的は、様々な環境要因が呼吸器の健康に及ぼす影響を学ぶことである。生命科学と健康増進に興味を持つすべての学生を対象としている。総論として「環境要因と呼吸器の関り」「呼吸器の症候とQOL」を概説する。各論として「喫煙」「吸入抗原」「ウイルス」「細菌」を環境要因として取り上げ、それらの代表的な病態についても学ぶ。代表的な環境要因、およびそれが呼吸器に与える影響について説明できるようになることが、本科目の到達目標である。	
	医学と健康Ⅱ		COVID-19の流行に伴い、感染症・薬・ワクチンに関する知識は、一般教養として知っておくべき知識となった。また、抗体医薬の発達により、保険適応となる新しい治療薬は年々増加している。本科目では、変化していく医薬技術環境に対応するための薬学、微生物学、免疫学、感染症学、ワクチン学に関する基礎を学ぶ。具体的には、薬と健康についての話題（医学と健康概論、薬と健康、薬害）、感染症についての話題（微生物学、感染免疫学、コロナウイルス、ワクチン）について講義する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
教養 教育 科目	医学と健康Ⅲ		本科目は、「(1) 人間の生活機能と障害について理解する。」「(2) 身体的・精神的障害のある人への援助のあり方を理解する。」の2点を目的としている。 授業内容は、障害とそれにかかわる諸テーマについてであり、保健、医療、教育などさまざまな観点から、講義中心で進める。本科目の到達目標は以下である。 1) 人の生活機能とその障害について説明できる。 2) 人を取り巻く環境因子（制度・用具・態度など）について説明できる。 3) 人を援助するための対人技能や環境整備について説明できる。	
	医学と健康Ⅳ		授業の目的は、1)人間の生活機能と障害について理解すること、2)身体的・精神的障害のある人への援助のあり方を理解することの2点である。授業では、障害とそれにかかわる諸テーマについて、保健、医療、教育などさまざまな観点から講義形式を中心に進める。本科目を通して、1)人の生活機能とその障害について説明できること、2)人を取り巻く環境因子（医療や福祉制度・福祉用具・医療福祉としての態度など）について説明できること、3)人を援助するための対人技能や環境整備について説明できること、を到達することを旨とする。障害を理解しようとする学生一般に向けた基礎科目である。	
	がん医療と緩和ケア		本科目は、がん医療やがん看護に関して「実務経験のある教員による授業科目」である。「がん」という病いについての理解と、治療的行為（cure）および援助的行為（care）の理解を通し、「がん」との向き合い方、さらにはがんサバイバーの支援についても学ぶ。がんの動向、成り立ち、予防、診断、治療、ケアについて現状の理解を深め、「がん」とともにいかにより良く生きるか、「がん」とどのように向き合うかを共に考える授業である。	
	大学生と健康		高度情報化社会への移行により、経済・社会情勢が急速に変貌している。この複雑な現代社会に生きる大学生の多くは、心身共に成長期である青年期に特有の“不安定さ”に加え、社会環境の変化などのより日々多くのストレスに晒されている。よって日常生活を健康的に生き抜くためには、より多くの知識が必要となる。生活習慣病や癌を予防することは青年期から徹底する必要がある。 本科目は青年が直面している心身の健康状況に関する課題を認識し、将来の生活の支えとなることを目的として行う。内容は生活習慣病や癌などの予防方法、人格形成に関する話題、神経症や不眠症、うつ病など心の健康問題から、食事や睡眠、救急処置などといった生活上の基本的な事柄に至るまで幅広く取り上げ、心身の健康に関する基礎的な部分に関する実践的な知識を提供するように配慮している。	
	生命と健康Ⅰ		授業の目的 豊かな人生を過ごすためには心身ともに「健康」の維持が重要である。とはいえ、「健康」や「病気」とはどのような状態を指すのだろうか。また、「健康」と「病気」はどのような関係にあるのだろうか。本科目ではまず、人体の正常な構造と機能に関する概論を学び、日常生活において比較的良く耳にする代表的な病気を例に挙げながら、正常な構造や機能の傷害がどのように病気に関連しているのかを理解することを目的とする。本科目を通して、健康増進や疾病予防について自ら考えることができるようになることが望ましい。 授業の概要 人体を構成する主要な臓器について、生命科学や医学研究によってこれまで解き明かされてきた構造や機能に加え、病気の発症機序や病態生理について学ぶ。	
	生命と健康Ⅱ		健全で快適な社会生活・大学生活を行う上で必要な環境と安全性に関する基礎的な知識を学ぶ。環境リスクおよびハザードとは何か、その所在を説明するとともに、環境リスクから身を守るために必要な知識、技能、制度を、環境評価、リスクコミュニケーション、環境マネジメントシステムを中心に解説する。また、具体的な事例として実験室における化学物質の取り扱いおよび事故防止の観点からの環境管理、医療現場の有害環境因子と安全管理、および環境因子による健康への影響について解説する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
教 養 教 育 科 目	臨床医学入門Ⅰ		本科目の目的は、秋田大学の臨床医学講座から発信している医学研究や最先端の治療を通して、医学研究や医療発展の発端となった医学・医療の問題を理解し、いかにしてこれらの問題を解決し得たか医学・医療の進歩を知ることである。 秋田大学医学部附属病院に所属する講師がどのような疾患群・臓器を担当しているのか、それらの代表的な疾患の診断や治療とその問題点について学ぶ。また、秋田大学の各臨床講座が世界に発信した医学研究や最先端の治療を学び、それらの医学研究や最先端の治療が社会に与えたインパクトを考え、学生自らがその医学の分野においてどのような問題点が残っているか説明できるようになることが到達目標である。本科目では主に内科系について紹介する。 主に医学科初年時向けに教養として最先端の臨床医学を知ってもらうための科目であるが、興味のある他学部生の受講も可能である。	
	臨床医学入門Ⅱ		本科目の目的は、秋田大学の臨床医学講座から発信している医学研究や最先端の治療を通して、医学研究や医療発展の発端となった医学・医療の問題を理解し、いかにしてこれらの問題を解決し得たか医学・医療の進歩を知ることである。 秋田大学医学部附属病院に所属する講師がどのような疾患群・臓器を担当しているのか、それらの代表的な疾患の診断や治療とその問題点について学ぶ。また、秋田大学の各臨床講座が世界に発信した医学研究や最先端の治療を学び、それらの医学研究や最先端の治療が社会に与えたインパクトを考え、学生自らがその医学の分野においてどのような問題点が残っているか説明できるようになることが到達目標である。本科目では主に外科系について紹介する。 主に医学科初年時向けに教養として最先端の臨床医学を知ってもらうための科目であるが、興味のある他学部生の受講も可能である。	
	秋田の歴史		本科目は、日々生活する地域の歴史に関する理解を深め、教養として実証的な日本史を学ぶことの重要性を理解することを目的とする。そのために秋田大学生にとって生活の中心となる現在の秋田市中心部や、キャンパスの所在する手形地域の歴史を取り上げ、近世の絵図や近代の地図などの歴史資料を提示して近世から近現代まで概説する。またフィールドワークを行うなどして、受講生が史跡を実際に歩き、主体的に秋田の歴史を学び、理解できるようにする。	
	秋田の自然と文化		秋田の自然社会、文化等の背景と環境を知り、秋田の特色を学び、専門教育との位置づけと係わり、地域と連携について考えることを目的とする。授業は、秋田の天然資源、水環境、地域社会の特徴、胃がんについて理解を深める。 授業の概要は以下の通り。 1) 秋田県の黒鉱鉱床等の資源の生成機構についての講義と鉱業博物館の見学。 2) 秋田県に分布する石油・天然ガス資源の紹介と資源問題。3) 秋田県内の火山に関わる自然と文化についての講義。 4) 秋田の鉱山の歴史の紹介と先人の偉業・鉱山開発の実態の理解。5) 秋田の水環境の特徴や文化との関わり、環境問題についての講義、6) 秋田の地域社会の特徴を統計資料から明らかにし、地域活性化策について理解するための講義。7) 胃癌について、その予防、早期発見早期治療の必要性を理解するための講義。	
	防災学基礎		わが国はプレートが沈み込む変動帯に位置しており地震や火山による災害を受けやすい。また、地形が急峻で平地が少なく、湿潤多雨な気候環境下にあるため台風や豪雨による災害が発生しやすい国土となっている。防災学基礎では、日本列島に多発する災害を考える上での基礎知識として、地球科学の基礎、地震・津波災害の歴史、秋田県を事例とした地震・津波防災について解説する。また、災害が発生した場合の現状および対策方法を考え、実践的な防災知識を学ぶ。授業は、高校地学を未履修であることを前提にわかりやすく行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
教養 教育 科目	農村地理学入門Ⅰ		農村はどんな場所か、人々はどんな暮らしをしているか、農村でなぜ地域づくりが必要か。こうした農村の現状や地域づくりの基礎知識について演習形式で授業を行う。 以下を到達目標とする。 1) 農村の現状を説明できる 2) 農村の暮らしとその変化を説明できる 本科目では秋田県潟上市草木谷の「農村景観の再生」に関する地域づくりを取り上げる予定である。土日のいずれかに草木谷でフィールドワークを行う可能性もある。	
	農村地理学入門Ⅱ		農村はどんな場所か、人々はどんな暮らしをしているか、農村でなぜ地域づくりが必要か。こうした農村の現状や地域づくりの基礎知識について演習形式で授業を行う。 以下を到達目標とする。 1) 農村の地域づくりについて考えることができる 2) 地理学的視点から農村を捉えることができる 本科目では秋田県潟上市草木谷の「農村景観の再生」に関する地域づくりを取り上げる予定である。土日のいずれかに草木谷でフィールドワークを行う可能性もある。	
	キャリアデザイン基礎		本科目は、キャリアに関する諸理論を知り、概念の変遷を学んだ上で、「自分を理解すること（自己理解）」、「仕事を理解すること（仕事理解）」との関連性及び現代社会における意義を理解し、自分自身のキャリアをデザインするための姿勢と方法を身につけることを目的とする。 本科目では、キャリアの捉え方や理想的なキャリアの在り方が時代と共に変化することを概観した上で、キャリアデザインにおいて「自己理解」と「仕事理解」が基礎となることを理解し、一人ひとりが自分らしくキャリアを描いていくために、この大学生活をいかに過ごすかを考える契機を提供する。	
	起業力養成ゼミナールⅠ		近年、新規ビジネスを創造し会社を立ち上げる「起業」は地域活性の重要な手法の一つとして理解されている。私達の周りには、様々なビジネスがあり、相互に関係しながらコミュニティを形成している。一方で、起業を目指すという事は非常に難しいものと考えられている部分もある。本科目は、「起業家精神の理解」として理念と理論に着目し、秋田県内における新進気鋭の起業の専門家をゲストに招いて講義およびディスカッションを行う。	
	起業力養成ゼミナールⅡ		近年、新規ビジネスを創造し会社を立ち上げる「起業」は地域活性の重要な手法の一つとして理解されている。会社を立ち上げて新しいビジネスを作り出すということは、個人の発意に基づいた行為であるため、その理想や理念に共感してもらうためには個人の希望だけでは成立しません。本科目では起業のうち「ビジネスの創発」に着目し、社会と共創して成長できるようなビジネスモデルと何かを学習する。 ※本科目は起業力養成ゼミナールⅠを受講していることを前提に進行する。あらかじめ受講することを推奨する。	
	起業力養成ゼミナールⅢ		近年、新規ビジネスを創造し会社を立ち上げる「起業」は地域活性の重要な手法の一つとして理解されている。実践的な起業活動を行う際には、資金調達やサービスの提供法など他家に自らのビジネスをつたえ共感して貰うことが重要である。本科目では「実践的起業と経営の本質」として自ら作成したビジネスモデルが本格的な起業につながるための手法や手続きなどを理解し、実際に最先端で活躍している資金調達や起業家共に磨き上げることで、地域発愛されるビジネスモデルとは何かを学術的に学ぶ。 ※本科目は起業力養成ゼミナールⅠ・Ⅱを受講していることを前提に進行する。あらかじめ受講することを推奨する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
教 養 教 育 科 目	スタートアップ実践		新規ビジネスを創造し、社会実装するスタートアップ活動はこれからの我が国を支える新しいビジネス形態として強い期待が注がれている。一方で、スタートアップは従来の起業とはいくつか異なる点があり、起業の成長速度の理解、株式の意味、知的財産権、企業価値の客観的評価（デューデリジェンス）などを正確に把握することなどが重要となる。本科目では、スタートアップを意識した資金調達や登記、会社設立などを役割体験型授業として経験することでスタートアップが持つ社会的な意義、具体的な起業の成長を学ぶ。	
	地域キャリアデザイン		本科目は、地域コミュニティにおけるキャリアとは何かを知識として習得することを目的とする。キャリアは単に職業資格や職業経験などの事だけではなく、自分自身を取り巻く環境、生き方、考え方を含め、私という存在に最もふさわしいと納得できる選択をする事が、キャリア形成において重要である。本科目では、現在秋田で働く多様な職種の「先輩」をゲストとして迎え、そのキャリアにフォーカスし、地域コミュニティを形成する方々の様々な職種を多面的に見ることで、自分自身が歩みたい生き方や就きたい職業とは何か、自ら考え、選択するための基礎知識を習得するための学びを提供する。	
	地方創生DX基礎 1		本科目は、地方創生におけるデジタルトランスフォーメーション（DX）の基礎を理解する講義である。近年、コンピュータの処理能力向上に伴い、地域活性化の観点からデジタル技術が取り入れられるようになりつつある。一方、DXという概念は広く、基礎的な知識のみならず、具体的な事例や取り組みなどの実態を理解し活動につなげる必要がある。本科目はこのような背景において、地方創生におけるDX化とは何かを理解し、社会実装イメージを正しく把握できるように構成される。	共同
	地方創生DX基礎 2		本科目は、地方創生におけるデジタルトランスフォーメーション（DX）の基礎を理解する講義である。DXを社会実装する上で重要なポイントの一つに現在直面している課題がデジタル技術で解決できる課題であるかを見極め、適切なデータ取得および処理を行うという流れ（フロー）を理解する事は重要である。本科目は地方創生におけるDX適用を行う上でのデジタルに関する知識の取得ならびに、課題発見、課題解決を行うための手法を概説し、それを社会実装するための一連の流れを把握できるように構成される。	共同
	地方創生DX基礎実践		本科目は、地方創生におけるデジタルトランスフォーメーション（DX）の基礎を理解する講義である。DXを活用した課題解決を行う上では、取得したいデータを見定め、仮説に基づいた実装に必要な準備を行う事が重要である。本科目は秋田市内の具体的な施設を設定し、課題の把握、解決方法を自分自身で考えた上で、各種センサを用いてデータ取得を行う手法とそのデータを活用して地域課題の解決を行うための提案手法を体系的に学習する。	共同
	秋田のくらし		秋田について、食や文化、生活、祭り、自然環境と生物、レジャー、アウトドア、方言などについての複数の学問分野の講義や話を聞き、また講義内容をもとに自分で調べて体験し、レポートを作成するとともに、グループワークやプレゼンテーションを行うことで事象についての多様な見方を理解し、秋田の特色や秋田での生活の魅力、楽しさを知り、再発見することを目的とした授業。秋田に関するさまざまな数値データや地図等の多様な形のデータについても扱う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
教 養 教 育 科 目	超高齢社会と健康寿命		秋田県は今、超高齢社会であり、健康寿命をのばし、平均寿命との差を縮める「健康寿命日本一」を目標に掲げている。超高齢社会に対する秋田県の行政と各医療・福祉関連団体の取り組みと将来への方策を知り、秋田県内での働きがいを見つけることを目的とする。 本科目は、各分野の実務経験のある専門家が講義する。以下を到達目標に掲げている。 1) 「超高齢社会と健康寿命」について、秋田大学、行政および医療・福祉各分野の取り組みと今後の方策を理解し、それぞれに対して自分の意見を述べるができる。 2) 秋田県の地域ケアシステムについて理解し、意見を述べるができる。 3) 秋田県版CCRC構想について理解し、意見を述べるができる。	
	秋田の産業		本科目は県内外出身の学生に秋田県の産業概況についての基礎知識を持ってもらい、将来的には秋田県の産業振興に資する人材を育成することを目標に、その第一歩となる講義科目である。全8回1単位の科目であり、初回は担当教員よりガイダンスおよび県外出身教員の目からみた秋田県の特徴について述べる。第2回は秋田県庁産業労働部の講演者をお願いし、県内の最新の産業概況について解説を乞う。第3～8回は秋田県において事業を展開している様々な業種の企業人から業務概要や当該分野の技術動向について講義してもらう。これまで機械設計、半導体製造、金属製錬、発電事業、電子デバイス製造、システム開発の各分野から講義をお願いした。令和6年度以降も概ね同様の企業に依頼する予定である。第2～8回の各回に小レポートを課す。	
	秋田の再生可能エネルギー		本科目では、再生可能エネルギーとはどのようなものか、そして秋田県内での再生可能エネルギー導入の動きはどのようになっているかを学ぶ。カーボンニュートラル社会の実現に向けて、今後どのような取り組みが必要かを皆で議論しとりまとめ、その成果を発表する。講義は、1. 気候変動とカーボンニュートラルへの取り組み、2. 化石燃料のゆくえ、3. 再生可能エネルギー概論、4. 風力発電、5. 地熱発電、6. 秋田の再生可能エネルギー、7. グループワーク、8. 発表、の8回で構成され、各再生可能エネルギー利点・欠点を理解するとともに、議論を通して成果を発表する技術を身に付ける。	
	日本語リテラシーⅠ		本科目は、社会生活における実践的な文章読解と文章表現について、基礎的な知識と方法を身につけることを目的としている。本科目においてはあらゆる文章を「語り型」「説明型」「説得型」の3つの文種に分けて扱う。その3つの文種について、構造や表現の特徴の相互の差異を理解しながら読む力や目的や相手を考慮しながら書く力を身につけていく。この学習過程を通じて大学での学習や社会人としての職務に必要な読解力・表現力を身につける。 「日本語リテラシーⅠ」では、手紙や物語等の「語り型」と、新聞記事等の「説明型」の文種の特徴を理解し、読んだり書いたり書き換えたりする活動を通して、目標とする能力を身につける。	
	日本語リテラシーⅡ		本科目は、社会生活における実践的な文章読解と文章表現について、基礎的な知識と方法を身につけることを目的としている。本科目においてはあらゆる文章を「語り型」「説明型」「説得型」の3つの文種に分けて扱う。その3つの文種について、構造や表現の特徴の相互の差異を理解しながら読む力や目的や相手を考慮しながら書く力を身につけていく。この学習過程を通じて大学での学習や社会人としての職務に必要な読解力・表現力を身につける。 「日本語リテラシーⅡ」では、意見文や評論等の「説得型」の文種の特徴を理解し、読んだり書いたり書き換えたりする活動を通して、目標とする能力を身につける。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
教養 教育 科目	日本語リテラシーⅢ		演劇的手法を使って演習を行い、現代人に必要な会話によるコミュニケーション能力を高めることを目的とする。短い戯曲を用いて演劇の稽古を行う。その際に留意することは、登場人物の心理の変化を台詞から読み取り、自分の心理の変化として相手に投げかけること。また、相手の台詞からもう言葉によって再び心理の変化が起き、次の言葉を生み出す。この連続する作用によってドラマを浮き立たせていく。相手の話を受け止め、自分の考え・意志を相手にしっかりと伝える事ができるようになることを目標とする。	
	日本語リテラシーⅣ		「相手を認める」ことがコミュニケーションの第一歩ということを受け止めることを目的とする。スピーチの技法を学びながら、「言葉が届く」とはどういうことかを考える。 授業回毎に、読解力（ニュース原稿読み）、基本的な発声と滑舌（ういろう売り）、伝える力を解く（好きなもののプレゼンテーション）、状況を解く（ドラマ脚本に学ぶ）、発想力を鍛える（ドラマ脚本のアレンジ）、伝える力に必要なこと（聞く力、自発性と集中力）を経て、最終的にその場・相手を見極めた自己紹介を行う。 急に人前に出てのスピーチに際して、自分の思いを伝えることができるようになることを目標とする。	
	秋田大学論		秋田大学の「卒業認定・学位授与の方針」であるディプロマ・ポリシーを理解すると共に、社会からの秋田大学・秋田大学生に対する期待について学ぶ。 社会から見た秋田大学、秋田大学の在学生及び卒業生への期待、将来展望等について講義を行う。講義を通じて秋田大学の現状と特色について多面的に理解するとともに、秋田大学でどのような学生生活を過ごすか、何を学ぶか、どのような形で社会と関わっていくかについて、深い考察を促す。	
	情報と知識・技術		平均値、分散、確率、確率変数等の確率、統計に関する基本的な概念とその特性を理解するとともに、データを正確に読み、説明する為の統計的な考え方と基本的な統計手法について学習することを目的とする。 データサイエンス、人工知能をはじめ、様々な分野で必須となる統計の基礎を学ぶ。これまで確率や統計を学習する機会が少なかった学生も対象とし、単純な例題と簡単なデータをもとに、区間推定と検定の基本的な統計手法を学習する。数学を用いる難解な箇所はできるだけ平易に解説し、電卓による簡単な計算の繰り返しにより、統計概念を理解するとともに基本的な統計分析手法を習得する。	
	フィールド活動の基礎Ⅰ		自然の中で活動することは普段得られない知識を得られるとともに、様々な体験をとおして人間性を豊かにする。野外での活動は普段の生活圏と異なる様々なリスクがあるが、多くの場合、これらのリスクは基礎的な知識があれば避けることができる。本科目では気象現象に関連するリスク要因とそれが引き起こす身体症状、それらを回避するための方法や快適に行動するための知識を紹介する。 講義の目標は、野外活動に必要な基本的な知識を身につけることで、野外で安全・快適に行動することができるようになること、秋田の自然の成り立ちや素晴らしさ、重要性を理解し、学生生活や社会生活の中でどのように自然を利用するべきかを理解することができることである。	
	フィールド活動の基礎Ⅱ		自然の中で活動することは普段得られない知識を得られるとともに、様々な体験をとおして人間性を豊かにする。野外での活動は普段の生活圏と異なる様々なリスクがあるが、多くの場合、これらのリスクは基礎的な知識があれば避けることができる。本科目では秋田県の森林や高山地帯の多様な自然を紹介するとともに、野生動植物が持つリスク要因とそれらを回避するための方法、ならびに野外で快適に行動するための知識を紹介する。 講義の目標は、野外活動に必要な基本的な知識を身につけることで、野外で安全・快適に行動することができるようになること、秋田の自然の成り立ちや素晴らしさ、重要性を理解し、学生生活や社会生活の中でどのように自然を利用するべきかを理解することができることである。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
教 養 教 育 科 目	留学生のための課題研究Ⅰ		本科目では、受講生で分担して発表しながら、課題図書を読みすすめ、論文というもの の考え方や書き方を学ぶ。また、日本・秋田で実際に生活しながら気づいたこと、 興味・関心を持ったことについても毎週報告し、その中から研究テーマを見つけてい く。学期末には、研究計画を立てたり予備調査を行ったりすることで、来学期の論文 作成の準備とする。授業間の繋がりががあるため、Ⅱを履修すること。また、本科目は 日本文化研究生のために開講された授業である。	
	留学生のための課題研究Ⅱ		本科目では、受講生で分担して発表しながら、課題図書を読みすすめ、論文というも のの考え方や書き方を学ぶ。また、日本・秋田で実際に生活しながら気づいたこと、 興味・関心を持ったことについても毎週報告し、その中から研究テーマを見つけてい く。学期末には、研究計画を立てたり予備調査を行ったりすることで、来学期の論文 作成の準備とする。Ⅰを履修した上で取ること。また、本科目は日本文化研究生のた めに開講された授業である。	
	留学生のための課題研究Ⅲ		本科目では、一人ひとりの興味・関心に基づき、研究テーマを確定するとともに、調 査・考察を行い、最終的には一つの論文を書くことを目指す。具体的には、1) 日 本・秋田での自身の生活の中から研究テーマを発見する。2) 研究テーマの背景にあ る問題意識を明確化できるようになる。3) 問題意識にそって調査を実施し、考察で きようになる。4) 研究テーマ・問題意識・調査・考察結果を論文の形でまとめ、 論文の書き方および自らの関心・興味についてのさらに深い見解を得る。Ⅳも履修す ること。	
	留学生のための課題研究Ⅳ		本科目では、一人ひとりの興味・関心に基づき、研究テーマを確定するとともに、調 査・考察を行い、最終的には一つの論文を書くことを目指す。具体的には、1) 日 本・秋田での自身の生活の中から研究テーマを発見する。2) 研究テーマの背景にあ る問題意識を明確化できるようになる。3) 問題意識にそって調査を実施し、考察で きようになる。4) 研究テーマ・問題意識・調査・考察結果を論文の形でまとめ、 論文の書き方および自らの関心・興味についてのさらに深い見解を得る。Ⅲも履修す ること。	
	鉱業博物館業務体験		鉱業博物館で行っている標本の収集と管理・展示・普及活動・展示案内・広報などの 業務を体験し、大学の教育研究や社会教育における博物館のもつ意義を見出し、その 機能と役割について理解を深めることを目的とする実習である。学生たちが実習を通 して得た知識や技能を生かし、実習終了後も研究・教育・ボランティア活動などの実 践の場として博物館の活動に積極的に参加するようになることを目標とする。	
	学外活動体験Ⅰ		〔認定科目〕 留学・学外活動について所定の要件・手続きを満たしたものを学外活動体験として単 位認定する。活動期間によってⅠから順にⅡ、Ⅲと追加で認定する。 〔概要〕 留学などの学外活動を通じて、知識の獲得や技能の習得、地域の歴史・文化・産業等 の理解、キャリア教育やコミュニケーション能力育成、実践力の習得、技能の活用等 を体験することを目標とする。 (1) 留学などの学外活動により学習・経験した内容を通じて、秋田大学における学習目 的を明確に意識する。 (2) 他者とのコミュニケーションを通じて、グローバル社会とローカル社会の違いを理 解する。 (3) 自らの適性や将来の進路を考える機会とするために、留学などの学外活動では主体 的に判断する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
教養 教育 科目	学外活動体験Ⅱ		〔認定科目〕 留学・学外活動について所定の要件・手続きを満たしたものを学外活動体験として単位認定する。活動期間によってⅠから順にⅡ、Ⅲと追加で認定する。 〔概要〕 留学などの学外活動を通じて、知識の獲得や技能の習得、地域の歴史・文化・産業等の理解、キャリア教育やコミュニケーション能力育成、実践力の習得、技能の活用等を体験することを目標とする。 (1) 留学などの学外活動により学習・経験した内容を通じて、秋田大学における学習目的を明確に意識する。 (2) 他者とのコミュニケーションを通じて、グローバル社会とローカル社会の違いを理解する。 (3) 自らの適性や将来の進路を考える機会とするために、留学などの学外活動では主体的に判断する。	
	学外活動体験Ⅲ		〔認定科目〕 留学・学外活動について所定の要件・手続きを満たしたものを学外活動体験として単位認定する。活動期間によってⅠから順にⅡ、Ⅲと追加で認定する。 〔概要〕 留学などの学外活動を通じて、知識の獲得や技能の習得、地域の歴史・文化・産業等の理解、キャリア教育やコミュニケーション能力育成、実践力の習得、技能の活用等を体験することを目標とする。 (1) 留学などの学外活動により学習・経験した内容を通じて、秋田大学における学習目的を明確に意識する。 (2) 他者とのコミュニケーションを通じて、グローバル社会とローカル社会の違いを理解する。 (3) 自らの適性や将来の進路を考える機会とするために、留学などの学外活動では主体的に判断する。	
教養 教育 科目	英語Certificate		本科目は、本学国際戦略において定めた「TOEIC L&Rスコアを2年次から3年次への進級要件とする」に基づき、専門科目に進む前に全学生に確実に英語の基礎力をつけさせることを目的とする。入学後、全学生に対してTOEIC試験とはどのような試験なのか等の事前指導を行い、必修科目である大学英語と連携し、学期末にTOEIC-IPテストを受けさせる。E-learning プログラムを活用して、学生には自律的学習の習慣を身につけさせるが、教員は常にモニタリングをおこない、個々の学生のニーズに合わせて補講や面談を実施する。自律的学習を身につけることで、大学における英語学習に目的意識をもって臨む態度を育成する。	メディア
	日本語Certificate		本科目は、外国人留学生に日本語の基礎力をつけさせることを目的とする。具体的には、日本語能力試験（N2もしくはN1）に合格するために必要な運用力を身につける。E-learning プログラムを活用して、学生には自律的学習の習慣を身につけさせるが、教員が進捗状況のモニタリングをおこない、個々の学生のニーズに合わせて補講や面談を実施する。自律的学習を身につけることで、日本語能力を自ら向上する態度を育成する。	メディア
	大学英語Ⅰ		本科目は、大学の専門教育で必要とされる英語の基礎的能力を養成することを目的とし、英語の4技能（リーディング・リスニング・ライティング・スピーキング）および語彙力と文法能力を統合的に育成する「大学英語」科目の導入となるものである。習熟度別に編成されたクラスにおいて、共通教材を使いながらも授業の進め方や授業内容については各レベルに合わせた指導を行うことにより、大学生にふさわしい英語コミュニケーション力を目指して入学時よりもさらに英語力を伸張させる。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
教養 教育 科目	国際 言語 科目	大学英語Ⅱ	本科目は、「大学英語Ⅰ」に引き続き、大学の専門教育で必要とされる英語の基礎的能力を統合的に養成することを目的とした科目である。「大学英語Ⅱ」では特に、英語の文章の理解に重要な英語の論理構造に関わる知識を確実に習得することを目指す。具体的には、パラグラフ（段落）の構造の理解に基づいた、パラグラフ・リーディングおよびパラグラフ・ライティングの技術に焦点を当てて授業を展開し、英語の読解力および聴解力、そして英語の発信力を向上させる。	
		大学英語Ⅲ	本科目は、「大学英語Ⅰ・Ⅱ」に引き続き、大学の専門教育で必要とされる英語の基礎的能力を統合的に養成することを目的とした科目である。「大学英語Ⅲ」では特に、人文・社会・科学の各分野における発展的な内容の英語の文章の正確かつ効率的なリーディングに力点を置く。そのため、それぞれの分野の専門的な文章を読むために必要なアカデミックな語彙力の増強を目指すとともに、スキミングやスキミングといったリーディング技術を適切に使えるようにする。	
		大学英語Ⅳ	本科目は、「大学英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」に引き続き、大学の専門教育で必要とされる英語の基礎的能力を統合的に養成することを目的とした科目である。「大学英語Ⅳ」では特に、英語のエッセイ（論理的文書）の構造を学び、その知識を英語の長文読解およびエッセイ・ライティングに活用できるようにすることを目指す。具体的には、発展的な内容の英文をその文章構成を確認しながら読解する演習を行ったり、専門的なテーマに関するエッセイを英語で書いたりする訓練を行う。	
		大学英語Ⅴ	本科目は、大学の専門教育で必要とされる多種多様な英語能力のうち特定の技能に特化したクラスの中から、受講生自らが伸ばしたいと思うスキルに関わるものを選び、英語力をさらに発展させることを目的とした科目である。具体的には、リーディング、リスニング、ライティング、プレゼンテーション、英会話、英語検定試験（TOEICを含む）などの分野があり、各クラスではそれぞれの分野に特化した教材を用いた演習を行い、学生の英語力を向上させる。	
		大学英語Ⅵ	本科目は、「大学英語Ⅴ」に引き続き、大学の専門教育で必要とされる多種多様な英語能力のうち特定の技能に特化したクラスの中から、受講生自らが伸ばしたいと思うスキルに関わるものを選び、英語力をさらに発展させることを目的とした科目である。各分野において「大学英語Ⅴ」で扱ったものよりもさらに高度な内容の教材を用いて実践的に演習を行うことにより、学生が伸ばしたいと思う得意（または不得意）分野の英語力をさらに一層向上させる。	
		理系英会話Ⅰ	本科目は、理工系・医療系の大学生に必要とされる基礎的な英語でのコミュニケーション能力を養成することを目的としている。まずは自己紹介などを通じて英語で話すことに慣れることから始まり、徐々に大学のアカデミックな場面での会話表現に関する演習を繰り返すことにより、英語で基本的な日常会話を行うことができるスピーキング力と、自然なスピードで話されている英語を正確に聞き取って理解することができるリスニング力を身につけ、理系の大学生に必要な基本的英会話能力を習得する。	
		理系英会話Ⅱ	本科目は、「理系英会話Ⅰ」に引き続き、理工系・医療系の大学生に必要とされる英語でのコミュニケーション能力をより発展的に養成することを目的としている。日常生活の身近なトピックに関するスピーチの練習から始め、英会話能力を向上させるためには必須の作文力や語彙力の増強に関するタスクも行いながら、徐々に科学的な内容に関するプレゼンテーションおよびディスカッションを英語で行うことにより、理系の大学生にふさわしい高度な英会話能力を習得する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
教 養 教 育 科 目	ドイツ語Ⅰ		ドイツ語圏（ドイツ、オーストリア、スイス）は人文社会（文系）・自然科学（理系）の両領域の展開に大きく貢献してきた。現代でもドイツ語はEUの公式言語の一つとして、大陸欧州ではさかんに学習されている。本講義の目的は、ドイツ語の文法学習を通じて、ドイツ語圏の各地域、文化・習慣等について理解を深めていくことである。 ドイツ語Ⅰは初学者を対象とする科目であり、その達成基準は以下の通り。 ①ドイツ語の単語を音読できる ②ドイツ語で挨拶・自己紹介ができる ③動詞を使って文を作ることができる	
	ドイツ語Ⅱ		ドイツ語圏（ドイツ、オーストリア、スイス）は人文社会（文系）・自然科学（理系）の両領域の展開に大きく貢献してきた。現代でもドイツ語はEUの公式言語の一つとして、大陸欧州ではさかんに学習されている。本講義の目的は、ドイツ語の文法学習を通じて、ドイツ語圏の各地域、文化・習慣等について理解を深めていくことである。 ドイツ語Ⅱはドイツ語Ⅰの継続科目であり、その達成基準は以下の通り。 ①動詞の人称変化、冠詞・名詞の格変化といった文法上の概念を理解できる ②数字を使い、年号や日時を伝えられる	
	ドイツ語Ⅲ		ドイツ語圏（ドイツ、オーストリア、スイス）は人文社会（文系）・自然科学（理系）の両領域の展開に大きく貢献してきた。現代でもドイツ語はEUの公式言語の一つとして、大陸欧州ではさかんに学習されている。本講義の目的は、ドイツ語の文法学習を通じて、ドイツ語圏の各地域、文化・習慣等について理解を深めていくことである。 ドイツ語Ⅲはドイツ語Ⅱの継続科目であり、その達成基準は以下の通り。 ①前置詞を使うことができる ②助動詞を使い、能力や義務、希望について話すことができる	
	ドイツ語Ⅳ		ドイツ語圏（ドイツ、オーストリア、スイス）は人文社会（文系）・自然科学（理系）の両領域の展開に大きく貢献してきた。現代でもドイツ語はEUの公式言語の一つとして、大陸欧州ではさかんに学習されている。本講義の目的は、ドイツ語の文法学習を通じて、ドイツ語圏の各地域、文化・習慣等について理解を深めていくことである。 ドイツ語Ⅳはドイツ語Ⅲの継続科目であり、その達成基準は以下の通り。 ①過去・完了の表現を使い、日記をつけることができる ②辞書を使えば、関心ある専門分野の文献を読むことができる	
	ドイツ語会話Ⅰ		「ドイツ語」では、基礎文法・購読に関する技能の修得に重点が置かれている。「ドイツ語会話」は「ドイツ語」の補完科目であり、母語話者とのコミュニケーションに必要な技術の修得が目指される。ドイツ語会話Ⅰ・Ⅱは継続履修を推奨しているが、単独での受講も可能なように設計してある。ドイツ語会話Ⅰ・Ⅱでは、ドイツ語圏での短期滞在に必要な語彙・会話表現を修得する。 ドイツ語会話Ⅰの達成基準は以下の通り。 ①自己紹介ができる ②電話・学籍番号、金額等を聞いて理解し、伝えることができる ③学籍登録等の書類に必要な事項を記入できる	
	ドイツ語会話Ⅱ		「ドイツ語」では、基礎文法・購読に関する技能の修得に重点が置かれている。「ドイツ語会話」は「ドイツ語」の補完科目であり、母語話者とのコミュニケーションに必要な技術の修得が目指される。ドイツ語会話Ⅰ・Ⅱは継続履修を推奨しているが、単独での受講も可能なように設計してある。ドイツ語会話Ⅰ・Ⅱでは、ドイツ語圏での短期滞在に必要な語彙・会話表現を修得する。 ドイツ語会話Ⅱの達成基準は以下の通り。 ①アルバイトの内容について話すことができる ②趣味について話すことができる	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目 国際言語科目	実践ドイツ語会話Ⅰ		「実践ドイツ語会話」は「ドイツ語会話」の発展・応用科目である。ドイツ語会話では、話し手（＝私）とパートナー（＝あなた）による双方向のコミュニケーションに限定されていたが、実践ドイツ語会話では、他者について話す、いわゆる三人称の使用が導入される。実践ドイツ語会話Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳでは、留学を想定し、ドイツ語圏で学生生活を送るのに必要な語彙・表現を修得する。 実践ドイツ語会話Ⅰの達成基準は以下の通り。 ①家族や友人など第三者についてパートナーに紹介することができる ②形容詞の語彙を増やし、他人の性格や事物の特徴についてパートナーと議論することができる	
	実践ドイツ語会話Ⅱ		「実践ドイツ語会話」は「ドイツ語会話」の発展・応用科目である。ドイツ語会話では、話し手（＝私）とパートナー（＝あなた）による双方向のコミュニケーションに限定されていたが、実践ドイツ語会話では、他者について話す、いわゆる三人称の使用が導入される。実践ドイツ語会話Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳでは、留学を想定し、ドイツ語圏で学生生活を送るのに必要な語彙・表現を修得する。 実践ドイツ語会話Ⅱの達成基準は以下の通り。 ①授業時間割を作成できる ②クラブ・サークル活動について話すことができる	
	実践ドイツ語会話Ⅲ		「実践ドイツ語会話」は「ドイツ語会話」の発展・応用科目である。ドイツ語会話では、話し手（＝私）とパートナー（＝あなた）による双方向のコミュニケーションに限定されていたが、実践ドイツ語会話では、他者について話す、いわゆる三人称の使用が導入される。実践ドイツ語会話Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳでは、留学を想定し、ドイツ語圏で学生生活を送るのに必要な語彙・表現を修得する。 実践ドイツ語会話Ⅲの達成基準は以下の通り。 ①買い物・外食のシーンを想定し、自分の意志を述べるすることができる ②専門分野について簡潔にプレゼンすることができる	
	実践ドイツ語会話Ⅳ		「実践ドイツ語会話」は「ドイツ語会話」の発展・応用科目である。ドイツ語会話では、話し手（＝私）とパートナー（＝あなた）による双方向のコミュニケーションに限定されていたが、実践ドイツ語会話では、他者について話す、いわゆる三人称の使用が導入される。実践ドイツ語会話Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳでは、留学を想定し、ドイツ語圏で学生生活を送るのに必要な語彙・表現を修得する。 実践ドイツ語会話Ⅳの達成基準は以下の通り。 ①ドイツへの旅行計画を立て、それをドイツ語でプレゼンできる ②パートナーのプレゼンに質問・講評をすることができる	
	フランス語Ⅰ		0からのフランス語入門の授業である。初心者用のフランス語のテキストを用いて、基本的に演習形式で授業を行う。必要に応じてWebClassを通じ各種補足解説資料や練習問題などを配布する。フランス語に親しみ、フランス語の基本的な仕組みを理解することを授業の目的とする。具体的には1）フランス語の発音および単語の読み方を把握する、2）簡単な挨拶などの表現を覚える、3）名詞・代名詞の性・数の概念を把握する、4）動詞être、avoir、及び規則動詞について理解し使えるようになる、などが目標となる。学期中に数回の小テストを実施し、学習内容の確認を行う。学期の最後に期末試験を行い、成績評価を行う。	
	フランス語Ⅱ		フランス語Ⅰに引き続き、初心者用のフランス語のテキストを用いて、基本的に演習形式で授業を行う。必要に応じてWebClassを通じ各種補足解説資料や練習問題などを配布する。フランス語に親しみ、フランス語の基本的な仕組みを理解することが授業の目的である。具体的には1）フランス語の発音および単語の読み方を身につける、2）簡単な文章を辞書を用いて読むことができる、3）限定辞や形容詞の使い方を理解する、4）前置詞と冠詞の縮約を理解する、5）不規則動詞のパターンを理解し、直説法現在の活用形を覚える、ことなどが目標となる。学期中に小テストを実施し、学習内容の確認を行う。学期の最後に期末試験を行い、成績評価を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目 国際言語科目	フランス語Ⅲ		フランス語IIの内容を踏まえ、初心者用のフランス語のテキストを用いて、基本的に演習形式で授業を行う。必要に応じてWebClassを通じ各種補足解説資料や練習問題などを配布する。フランス語に親しみ、フランス語の全体的な仕組みを理解して身につけることが、授業の目的である。具体的には1) フランス語の文章を正確に発音することができる、2) 簡単な文章を辞書を用いて読むことができる、3) 簡単な会話文を聞いたり発話したりできるようになる、4) 動詞の直説法複合過去の諸規則を理解し、文章を作ることができる、といったことが目標となる。学期中に小テストを実施し、学習内容の確認を行う。学期の最後に期末試験を行い、成績評価を行う。	
	フランス語Ⅳ		フランス語IIIの内容を踏まえ、初心者用のフランス語のテキストを用いて、基本的に演習形式で授業を行う。必要に応じてWebClassを通じ各種補足解説資料や練習問題などを配布する。フランス語に親しみ、フランス語の全体的な仕組みを理解して身につけることが、授業の目的である。具体的には1) 様々な文章を正確に発音し、辞書を用いて理解することができる、2) 日常的な会話文を聞いたり発話したりできるようになる、3) 動詞の様々な時制の諸規則を理解し、文章を読むことができる、といったことが目標となる。学期中に小テストを実施し、学習内容の確認を行う。学期の最後に期末試験を行い、成績評価を行う。	
	フランス語会話Ⅰ		フランス語の会話や簡単な作文を通じて、実用的フランス語の運用能力を高めるのが本科目の目的である。授業では、正しい発音の習得の為に練習や、様々な設定における会話練習を繰り返し行う。到達目標としては、フランス語でコミュニケーションを行うために、基本的発話能力を身につけるとともに、会話練習を通じて、文法的知識を実際の発話の場で活用できるようにすることである。なお、基礎的な文法の習得の為に、「フランス語IおよびII」を本科目と併せて履修することが強く推奨される。また、フランス語会話IIともセットで履修することが望ましい。	
	フランス語会話Ⅱ		フランス語会話Iと同じく、フランス語の会話や簡単な作文を通じて、実用的なフランス語の運用能力を高めるのが本科目の目的である。授業では、2、3人の小グループによる役割を決めての会話練習や、様々な設定における会話練習を繰り返し行う。到達目標としては、フランス語でのコミュニケーションを活発に行うために、会話練習をつうじて、様々な文法的知識を活用した発話能力を身につけることである。なお、基礎的な文法の習得の為に、「フランス語IおよびII」を本科目と併せて履修することが強く推奨される。また、フランス語会話Iとセットで履修することが望ましい。	
	実践フランス語会話Ⅰ		入門段階のフランス語文法学習を終えた学生を対象として、フランス語の会話でよく用いられる構文を学び、フランス語の運用能力を高めるのが本科目の目的である。具体的内容としては、1) 2、3人の小グループによる役割を決めての会話練習。2) 基本的な会話構文から、単語を入れ替えバリエーションを増やす練習。3) オリジナル教材を使った、会話実践、シナリオ作りなど、を行う。1年次についてフランス語でコミュニケーションを行うために必要な発話能力を鍛えることや、会話練習をつうじて、文法を実際の発話の場で正しく使えるようにすることが目標となる。実践的なフランス語習得へ向けて、フランス語活用法Ⅰ、Ⅱの履修者は実践フランス語会話Ⅰ～Ⅳをセットで受講することが強く推奨される。	
	実践フランス語会話Ⅱ		実践フランス語会話Ⅰに続いて、フランス語の会話でよく用いられる構文を学び、フランス語の運用能力を高めるのが本科目の目的である。具体的内容としては、1) 2、3人の小グループによる役割を決めての会話練習。2) 基本的な会話構文から、単語を入れ替えバリエーションを増やす練習。3) オリジナル教材を使った、会話実践、シナリオ作りなど、を行う。第1Qにつづいてフランス語でコミュニケーションを行うために必要な発話能力を鍛えることや、会話練習をつうじて、文法を実際の発話の場で正しく使えるようにすることが目標となる。実践的なフランス語習得へ向けて、フランス語活用法Ⅰ、Ⅱの履修者は実践フランス語会話Ⅰ～Ⅳをセットで受講することが強く推奨される。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
教養 教育 科目	国際 言語 科目 実践フランス語会話Ⅲ		入門段階のフランス語文法学習を終えた学生を対象として、フランス語の会話でよく用いられる構文を学び、フランス語の運用能力をさらに高めるのが本科目の目的である。具体的内容としては、1) 2、3人の小グループによる役割を決めての会話練習。2) 基本的な会話構文から、単語を入れ替えバリエーションを増やす練習。3) オリジナル教材を使った、会話実践、シナリオ作りなど、を行う。第2Qにつづいてフランス語でコミュニケーションを行うために必要な発話能力をさらに鍛えることや、会話練習をつづじて、文法を実際の発話の場で正しく使えるようにすることが目標となる。実践的なフランス語習得へ向けて、フランス語活用法 I、II の履修者は実践フランス語会話I～IVをセットで受講することが強く推奨される。	
	実践フランス語会話Ⅳ		実践フランス語会話Ⅲに続いて、フランス語の会話でよく用いられる構文を学び、フランス語の運用能力をさらに高めるのが本科目の目的である。具体的内容としては、1) 2、3人の小グループによる役割を決めての会話練習。2) 基本的な会話構文から、単語を入れ替えバリエーションを増やす練習。3) オリジナル教材を使った、会話実践、シナリオ作りなど、を行う。第3Qにつづいてフランス語でコミュニケーションを行うために必要な発話能力をさらに鍛えることや、会話練習をつづじて、文法を実際の発話の場で正しく使えるようにすることが目標となる。実践的なフランス語習得へ向けて、フランス語活用法 I、II の履修者は実践フランス語会話I～IVをセットで受講することが強く推奨される。	
	ロシア語Ⅰ		ロシア語をまったく初歩から始める学生を対象とした週2回の授業である。文字と発音に集中して取り組み、ネイティブに十分理解されるレベル、ネイティブの発音がきちんと聞き取れるレベルを目指す。また、疑問文・否定文などの文の構造を理解し簡単な文を作れるようにする。さらに、形容詞・所有代名詞の変化形についても習熟することを目標とする。教科書は中島・黒田・柳町『ロシア語へのパスポート』（白水社）、辞書は米重『パスポート初級露和辞典』（白水社）を使用する。	
	ロシア語Ⅱ		ロシア語Ⅰを学習した学生を対象とした週2回の授業である。不規則動詞を含む動詞の現在形、命令形、名詞の対格の概念について学習し、基本的な挨拶や日常会話での短いやりとりができるよう、スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの4技能のバランスに配慮して教育を行う。また、同時にロシアの文化理解が進むような教材を提供して言語が使われている文化圏のあり方を把握する。教科書は中島・黒田・柳町『ロシア語へのパスポート』（白水社）、辞書は米重『パスポート初級露和辞典』（白水社）を使用する。	
	ロシア語Ⅲ		ロシア語Ⅱを学んだ学生を対象とした週2回の授業である。不規則動詞を含む動詞の未来形、過去形、名詞・代名詞の生格・与格・造格・前置格の使い方について学習し、会話や作文能力を進展できるよう、スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの4技能のバランスに配慮して教育を行う。また、引き続きロシアの文化理解が進む教材を提供する。教科書は中島・黒田・柳町『ロシア語へのパスポート』（白水社）、辞書は米重『パスポート初級露和辞典』（白水社）を使用する。	
	ロシア語Ⅳ		ロシア語Ⅲを学んだ学生を対象とした週2回の授業である。不規則動詞を含む動詞の現在形・過去形の変化、名詞・代名詞の格変化の総合的な運用ができ、動詞の体の概念を十分に理解できるよう、会話や作文能力のさらなる進展を目指して、スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの4技能のバランスに配慮して教育を行う。教科書は中島・黒田・柳町『ロシア語へのパスポート』（白水社）、辞書は米重『パスポート初級露和辞典』（白水社）を使用する。これが修了した段階で検定試験4級の能力が獲得されることを予定している。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
教養 教育 科目	ロシア語会話Ⅰ		ロシア語をまったく初めて学ぶ学生を対象とした、週1回のネイティブによる会話の授業である。文字と発音を学習し、動詞の現在形・過去形を取り入れた短い応答の文が作れるように、スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの4技能のバランスに配慮して教育を行う。また、単語力の進展を目指し、必ずしも学習していない文法範囲でも日常表現を数多く取り入れるようにする。教科書は独自に編集したテキストを使用する。	
	ロシア語会話Ⅱ		ロシア語会話Ⅰを学んだ学生を対象とした、週1回のネイティブによる会話の授業である。動詞の現在形・過去形、名詞・代名詞の格変化の概念を取り入れた応答の文が作れるように、スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの4技能のバランスに配慮して教育を行う。また、単語力の進展を目指し、必ずしも学習していない文法範囲でも日常表現を数多く取り入れるようにする。教科書は独自に編集したテキストを使用する。	
	実践ロシア語会話Ⅰ		ロシア語会話Ⅱを学んだ学生を対象とした、週1回のネイティブによる会話の授業である。ひきつづき不規則を含む動詞の現在形・過去形、名詞・代名詞の格変化の概念を学びながら、会話の長いやりとりがつづくような語学力の養成を目指して、スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの4技能のバランスに配慮して教育を行う。また、単語力の進展を目指し、日常表現を数多く取り入れるようにする。教科書は独自に編集したテキストを使用する。	
	実践ロシア語会話Ⅱ		実践ロシア語会話Ⅰを学んだ学生を対象とした、週1回のネイティブによる会話の授業である。文法としては形容詞や名詞の複数格変化をほぼ修了することを目指す。また、ロシア語での言語的思考力の涵養にも配慮して長文読解にも取り組みながら、同時に、日常会話の多様な話題に対応できるよう単語・熟語などの語彙力を広げるために、スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの4技能のバランスに配慮して教育を行う。教科書は独自に編集したテキストを使用する。	
	実践ロシア語会話Ⅲ		実践ロシア語会話Ⅱを学んだ学生を対象とした、週1回のネイティブによる会話の授業である。文法としては関係代名詞の概念までをほぼ修了することを目指す。また、ロシア語での言語的思考力の涵養にも配慮した長文読解に取り組みながら、内容に関して口頭で応答したり、作文として書けるだけの能力の育成を狙い、スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの4技能のバランスに配慮した教育を行う。教科書は独自に編集したテキストを使用する。	
	実践ロシア語会話Ⅳ		実践ロシア語会話Ⅲを学んだ学生を対象とした、週1回のネイティブによる会話の授業である。文法としては形動詞・副動詞の概念までをほぼ修了することを目指す。また、ロシア語での思考力の涵養にも配慮した長文読解に取り組みむと同時に、まとまったプレゼンテーションの基本的能力が身につくように、スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの4技能のバランスに配慮した教育を行う。教科書は独自に編集したテキストを使用する。	
	中国語Ⅰ		中国語を初めて学ぶものを対象とする授業。中国語の初歩的な文法を学び、読むこと、書くこと、聴くこと、話すことの入門的な技術を身に付ける。特に以下の諸点を目標とする。①ピンインを正確に読めることができ、初歩的な文法を用いた短い文章を正確に読むことができること。②簡体字も用いて、初歩的な文法を用いた短い文章を正確に書くことができること。③初歩的な文法を用いた短い文章を聞いて理解できること。④挨拶や自己紹介、初歩的な文法を用いた簡単なフレーズを話すことができること。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
教養 教育 科目	中国語Ⅱ		中国語Ⅰを履修したものを対象とする授業。中国語Ⅰで学んだことを基礎に、新たに基礎的な文法を学び、読むこと、書くこと、聴くこと、話すことの基礎的な技術を身に付ける。特に以下の諸点を目標とする。①基礎的な文法を用いた短い文章を正確に読むことができること。②基礎的な文法を用いた短い文章を正確に書くことができること。③基礎的な文法を用いた短い文章を聞いて理解できること。④基礎的な文法と語彙を用いて簡単な日常会話を行うことができること。	
	中国語Ⅲ		中国語Ⅱで身につけた基礎をもとに、さらに基本的な発音と語彙の能力を高め、基本文法や句法を体系的に習得する。またアクティブラーニングにより、習得した語彙や文法をもとにシチュエーションごとに能動的に使用するトレーニングを行う。最終的には、簡単な日常会話ができるレベルの語学力を身につける。また、映像資料を通じて、現代中国の社会や生活に対する基礎的な理解を深める。テキストは『日中いぶこみ交差点』（第5課～第12課）を使用する。	
	中国語Ⅳ		中国語Ⅲで身につけた基礎を活用しながら、さらに発音と語彙の能力を高め、基本文法や句法を体系的に習得する。またアクティブラーニングを取り入れ、習得した語彙や文法を用いた会話練習を行い、コミュニケーション能力の向上をはかる。最終的には、ネイティブと簡単にコミュニケーションができるレベルの語学力を身につける。また、映像資料を通じて、現代中国の時事問題や文化に対する発展的な理解を深める。テキストは『日中いぶこみ交差点』（第13課～第20課）を使用する。	
	中国語会話Ⅰ		中国語を初めて学ぶものを対象とする会話を中心的に学ぶ授業。中国語の入門的な文法、発音記号であるピンインの読み方、中国語に特有の字体である簡体字などの中国語の基礎について学び、簡単なフレーズを用いて中国語で会話ができるようになることを目指す。会話の練習では、①パーティー、②喫茶店、③昼休み、④倶楽部やジム等のように具体的な場面を設定し、それぞれの場面で使用する短い文章を暗記した上で、実践的に練習する。	
	中国語会話Ⅱ		中国語会話Ⅰや中国語Ⅰを履修し、ピンインの読み方や初歩的文法など中国語の入門的な技術を身に付けたものを対象とする会話を中心的に学ぶ授業。中国語会話Ⅰや中国語Ⅰで学んだことを基礎に、さらに新しい語彙や文法事項を学び、会話力の向上を目指す。会話の練習では、①大学のキャンパス、②街角、③パソコン使用時、④観光地などのように具体的な場面を設定し、それぞれの場面で使用する短い文章を暗記した上で、実践的に練習する。	
	実践中国語会話Ⅰ		中国語会話Ⅰ・Ⅱや中国語Ⅰ・Ⅱ以上を履修し、ピンインの読み方や基礎的文法など中国語の基礎的な技術を身に付けたものを対象とする会話を中心的に学ぶ授業。中国語会話Ⅰ・Ⅱや中国語Ⅰ～Ⅳで学んだことを基礎に、さらに新しい語彙や文法事項を学び、会話力の向上を目指す。基礎的な技術の復習も行う。会話の練習では、①名前や国籍、出身地、身分、電話番号に関する会話、②住所、家族構成、年齢、ペット、部屋に関する会話などのように具体的な場面を設定し、それぞれの場面で使用する短い文章を暗記した上で、実践的に練習する。	
	実践中国語会話Ⅱ		中国語会話Ⅰ・Ⅱや中国語Ⅰ・Ⅱ以上を履修し、ピンインの読み方や基礎的文法など中国語の基礎的な技術を身に付けたものを対象とする会話を中心的に学ぶ授業。中国語会話Ⅰ・Ⅱや中国語Ⅰ～Ⅳで学んだことを基礎に、さらに新しい語彙や文法事項を学び、会話力の向上を目指す。基礎的な技術の復習も行う。会話の練習では、①近況、身なり、天気に関する会話、②大学生活に関する会話、③趣味に関する会話などのように具体的な場面を設定し、それぞれの場面で使用する短い文章を暗記した上で、実践的に練習する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
教 養 教 育 科 目	国際 言語 科目 実践中国語会話Ⅲ		中国語会話Ⅰ・Ⅱや中国語Ⅰ・Ⅱ以上を履修し、ピンインの読み方や基礎的文法など中国語の基礎的技術を身に着けたものを対象とする会話を中心的に学ぶ授業。中国語会話Ⅰ・Ⅱや中国語Ⅰ～Ⅳで学んだことを基礎に、さらに新しい語彙や文法事項を学び、会話力の向上を目指す。会話の練習では、①何をしているかを尋ねる、②進行形を使った会話、③願望表現を用いた会話、④健康に関する会話などのように具体的な場面を設定し、それぞれの場面で使用する短い文章を暗記した上で、実践的に練習する。	
	実践中国語会話Ⅳ		中国語会話Ⅰ・Ⅱや中国語Ⅰ・Ⅱ以上を履修し、ピンインの読み方や基礎的文法など中国語の基礎的技術を身に着けたものを対象とする会話を中心的に学ぶ授業。中国語会話Ⅰ・Ⅱや中国語Ⅰ～Ⅳで学んだことを基礎に、さらに新しい語彙や文法事項を学び、会話力の向上を目指す。会話の練習では、①旅行で用いる会話、②日常生活に関する会話、③自然についての会話、④飲食に関する会話などのように具体的な場面を設定し、それぞれの場面で使用する短い文章を暗記した上で、実践的に練習する。	
	朝鮮語Ⅰ		韓国・朝鮮語の非ネイティブを対象として、朝鮮語の文字と発音、基本的な文型をまなぶ。ハングル文字の特徴の理解と、発音の体系及び発音の変化を十分に理解して、ハングル文字を読むことに不自由はなくなることを、また基本的な文法体系および助詞や用言の活用を学ぶことで、簡単な会話を行うことができるようになることをめざす。 このことを通して、英語以外の外国語に触れ言語の多様性を知るとともに、日本語との違いを理解できるようになることが目標である。	
	朝鮮語Ⅱ		「朝鮮語Ⅰ」につづき、韓国・朝鮮語の非ネイティブを対象として、朝鮮語の基本的な文型や語彙についてより深くまなぶ。文法事項としては、用言の種類と変化、過去形・尊敬形・勧誘形など、用言の使用法を中心としてより多様な文型を取り上げる。とくに動詞・形容詞・指定詞・存在詞といった用言の分類と、その三つの変化形の特徴について十分に理解させる。また、日常生活や観光旅行に必要な語彙を導入し、簡単な会話文を構成できるようになるようにする。	
	朝鮮語Ⅲ		「朝鮮語ⅠおよびⅡ」につづき、韓国・朝鮮語の非ネイティブを対象として、朝鮮語の応用的な文型や語彙についてより深くまなぶ。文法事項としては、用言の不規則変化をいくつかとりあげるとともに、用言の連体形や連用形、接続詞や接続語尾を導入して、複文などより複雑な構文の作成を可能とする。併せて、比較・許可・試み・願望・仮定・推測などの意味を持つ表現を導入することで、多様な表現が可能になるようにする。引き続き日常生活や観光旅行で使用する語彙をさらに導入して実用的な会話文を構成できるようにする。	
	朝鮮語Ⅳ		「朝鮮語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」に引き続き、韓国・朝鮮語の非ネイティブを対象として、朝鮮語の応用的な文型や語彙についてより深くまなぶ。過去連体形や、未来や推測を表す連体形の導入、理由・推測・義務・継続の意味を持つ文型の導入、伝聞による間接引用形を導入することで、より多様な表現が可能となるようにする。また、丁寧形のみならず、非丁寧形や文章語で使われる文体を導入することで、会話や文章の相手による文体の使い分けを学び、韓国・朝鮮の社会・文化・歴史についての理解をうながす。	
	朝鮮語会話Ⅰ		ハングル学習者にとって最も大切なのははじめてのハングルの母音と子音の正しい発音の仕方を学ぶことである。頭で描く発音ではなく、徹底的に発音の練習を繰り返すことによって発音のルールと自然なイントネーションを身につけることができる。さらに、シャドーイングによって読む力、リスニングの力、会話の力をつけていく。朝鮮語Ⅰでは、5回にかけて丁寧に文字と発音を学習しながらフィードバックを行ってから、文章を学ぶようにする。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
教養 教育 科目	国際 言語 科目	朝鮮語会話Ⅱ	朝鮮語会話Ⅰの続きとなる。前回学習した文字と発音の上に、さらに文章と基本文法を学習する。頭で描く発音ではなく、徹底的に発音の練習を繰り返すことによって発音のルールと自然なイントネーションを身につけることができる。さらに、シャドーイングによって読む力、リスニングの力、会話の力をつけていく。すべての文章において、発音とイントネーションのチェックを行いながら、シャドーイングを行う。学生生活動を中心とする授業を行い、学生同士のロールプレイと、買い物やフリーマーケットなどアクティブラーニングを行う。すなわち、教室の中で、学習した内容を使用する機会を設ける。	
		実践朝鮮語会話Ⅰ	この頃英語教育ではシャドーイングの効果が高く認められ、多くの教育現場で英語のシャドーイングの練習が行われている。シャドーイング効果は必ずしも英語教育に限るものではなく、外国語教育全般において大変大きな効果がみられている。リスニングの力を高めるには、まず速読力を高め、音声になれることが必要である。読んで理解できない文章は聞いても理解できない。ここでは毎回の音読をシャドーイングすることによって、読む力、リスニングの力、会話の力をつけていくことを目指す。毎回の授業ではテーマを決めて、韓国語を中心としたフリートーキングを行う。	
		実践朝鮮語会話Ⅱ	実践朝鮮語会話Ⅰの続きとなる。この頃英語教育ではシャドーイングの効果が高く認められ、多くの教育現場で英語のシャドーイングの練習が行われている。シャドーイング効果は必ずしも英語教育に限るものではなく、外国語教育全般において大変大きな効果がみられている。リスニングの力を高めるには、まず速読力を高め、音声になれることが必要である。読んで理解できない文章は聞いても理解できない。ここでは毎回の音読をシャドーイングすることによって、読む力、リスニングの力、会話の力をつけていくことを目指す。毎回の授業ではテーマを決めて、韓国語を中心としたフリートーキングを行う。	
		実践朝鮮語会話Ⅲ	授業は、韓国語の「語彙・読む・書く・話す」能力を中心に進める。ハングルで会話する際、最も大切なのは頭で描く発音ではなく、正しく徹底的に発音の練習を繰り返すことにより、発音のルールと自然なイントネーションを身につけることができる。さらに、教材を通して文章として完成させ、文章を読んで内容を理解し、会話ができるように語学能力を高める。基本的に教材の内容に沿って進めていくが、聞き取り・会話型を積極的に取り入れ、日常生活で韓国人とコミュニケーションができる能力を身につける。	
		実践朝鮮語会話Ⅳ	実践朝鮮語Ⅲの次の段階としての発展科目である。授業は、講義形式だけではなく、なるべく相互活動で話し合いの会話形で進めていく。今まで習得した韓国語の基本文型・語彙などを深化・応用させ、韓国語によるコミュニケーション能力を身に付ける。さらに韓国語の語学の面だけではなく、韓国社会・生活・習慣・文化的背景なども積極的に多く取り入れ、文化を基盤とした韓国語の運用能力を高める。教材の内容に沿った画像（映像）を補って進行する。授業の進捗状況に合わせて、予習と復習の課題を提示する。	
		日本語1－1	〔日本語1－1および1－2は連続する内容であるため、通して履修すること〕 来日間もない留学生在が、日本での日常生活を始めるために必要な初歩的な日本語能力を習得するためのクラス。主な習得目標技能は話す・聞くことだが、ひらがな・カタカナについても学ぶ。このクラスをきっかけに、新しい言語を学ぶことの喜び、またその言語を使って他者とつながることの楽しさに対する気づきを促す。	
		日本語1－2	〔日本語1－1および1－2は連続する内容であるため、通して履修すること〕 来日間もない留学生在が、日本での日常生活を始めるために必要な初歩的な日本語能力を習得するためのクラス。主な習得目標技能は話す・聞くことだが、ひらがな・カタカナについても学ぶ。このクラスをきっかけに、新しい言語を学ぶことの喜び、またその言語を使って他者とつながることの楽しさに対する気づきを促す。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
教 養 教 育 科 目	国際 言語 科目	日本語 2－1	[日本語 2－1 および 2－2 は連続する内容であるため、通して履修すること] 入門レベルの日本語学習を終えた留学生を対象に、基本的な日本語の文法学習と、話すことと聞くことの練習を中心とするクラス。基本レベルの日本語で書くことについても短い作文を通して学ぶことができる。日常会話であれば、日本語で行うことができるというレベルの日本語能力獲得をめざす。	
		日本語 2－2	[日本語 2－1 および 2－2 は連続する内容であるため、通して履修すること] 入門レベルの日本語学習を終えた留学生を対象に、基本的な日本語の文法学習と、話すことと聞くことの練習を中心とするクラス。基本レベルの日本語で書くことについても短い作文を通して学ぶことができる。日常会話であれば、日本語で行うことができるというレベルの日本語能力獲得をめざす。	
		日本語 2 総合 1	[日本語 2 総合 1 および 日本語 2 総合 1 は連続する内容であるため、通して履修すること] 入門レベルの日本語学習を終えた留学生を対象としたクラスである。このクラスでは、さまざまなトピックについてグループで話し合い、またそのために必要な日本語表現を学ぶ。これらの練習を通して、受講者は自分の考えを日本語で表現し、相手の考えを日本語で理解することができるようになる。	
		日本語 2 総合 2	[日本語 2 総合 1 および 日本語 2 総合 1 は連続する内容であるため、通して履修すること] 入門レベルの日本語学習を終えた留学生を対象としたクラスである。このクラスでは、さまざまなトピックについてグループで話し合い、またそのために必要な日本語表現を学ぶ。これらの練習を通して、受講者は自分の考えを日本語で表現し、相手の考えを日本語で理解することができるようになる。	
		日本語 3－1	[日本語 3－1 および 3－2 は連続する内容であるため、通して履修すること] 本科目では、中級前半レベルに必要な文法・表現を身に付け、四つのスキル（読む・書く・話す・聞く）を総合的に学習する。本科目を履修することによって、以下のことができるようになることを目指す。1) 読解の様々なストラテジーを学習し、文の大意と文章の構成が理解できる、2) 様々なトピックに関して短い文を書くことができる、3) 場面に応じてカジュアルな会話とフォーマルな会話ができる、4) 日常会話やスピーチを聞いて必要な情報が把握できる。	
		日本語 3－2	[日本語 3－1 および 3－2 は連続する内容であるため、通して履修すること] 本科目では、中級前半レベルに必要な文法・表現を身に付け、四つのスキル（読む・書く・話す・聞く）を総合的に学習する。本科目を履修することによって、以下のことができるようになることを目指す。1) 読解の様々なストラテジーを学習し、文の大意と文章の構成が理解できる、2) 様々なトピックに関して短い文を書くことができる、3) 場面に応じてカジュアルな会話とフォーマルな会話ができる、4) 日常会話やスピーチを聞いて必要な情報が把握できる。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
教養 教育 科目	国際 言語 科目	日本語3総合1	[日本語3総合1および日本語2総合1は連続する内容であるため、通して履修すること] このクラスでは、それぞれが、興味がある人、深く話し合いたい人を選び、なぜ、その人に興味を持ったのかをレポートにまとめまる。その考えをもとに、インタビューを行う。そして、インタビュー相手の考え方と自分の考え方との関係について考え、レポートにまとめる。インタビューの動機をまとめることによって、自身の考えを把握できるようになり、インタビューをとおして、自身の考えを深め、他者に伝えることができるようになることを目指す。	
		日本語3総合2	[日本語3総合1および日本語2総合1は連続する内容であるため、通して履修すること] このクラスでは、それぞれが、興味がある人、深く話し合いたい人を選び、なぜ、その人に興味を持ったのかをレポートにまとめまる。その考えをもとに、インタビューを行う。そして、インタビュー相手の考え方と自分の考え方との関係について考え、レポートにまとめる。インタビューの動機をまとめることによって、自身の考えを把握できるようになり、インタビューをとおして、自身の考えを深め、他者に伝えることができるようになることを目指す。	
		日本語4-I-1	[日本語4-I-1および日本語4-I-2は連続する内容であるため、通して履修すること] 中級レベルの漢字およびそれらを用いた熟語の読み書き能力を身に付ける授業。具体的には以下のような能力を身につけることを目標とする。 ・旧日本語能力試験2級レベルの漢字・熟語を読んで理解できるようになること ・それらを文脈に合わせて使い分けしたり、必要に応じて書くことができたりするようになること ・授業で学んだ漢字および熟語を学生一人一人が生活の中で使えるようになること	
		日本語4-I-2	[日本語4-I-1および日本語4-I-2は連続する内容であるため、通して履修すること] 中級レベルの口頭表現能力と漢字の読み書き能力を身に付ける授業。大学生活に必要な、日本語によるコミュニケーション能力と、読解と書くための能力の基本を身に付ける。口頭表現能力については、1) 研究室での日常会話に困らない程度の日本語の会話・聴き取りができる、2) 話す相手によってスピーチレベルをコントロールすることができる、3) 討論に参加できるような表現能力を身につけることをめざす。漢字については、旧日本語能力試験2級合格レベルの1000字を読み理解することを目標とする。	
		日本語4-II-1	[日本語4-II-1および日本語4-II-2は連続する内容であるため、通して履修すること] 中級レベルの漢字およびそれらを用いた熟語の読み書き能力を身に付ける授業。具体的には以下のような能力を身につけることを目標とする。 ・旧日本語能力試験2級レベルの漢字・熟語を読んで理解できるようになること ・それらを文脈に合わせて使い分けしたり、必要に応じて書くことができたりするようになること ・授業で学んだ漢字および熟語を学生一人一人が生活の中で使えるようになること 日本語4-I-1と目標は同じだが、扱う文法や漢字の範囲が異なる。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
教養 教育 科目	国際 言語 科目	日本語4－Ⅱ－2	〔日本語4－Ⅰ－1および日本語4－Ⅰ－2は連続する内容であるため、通して履修すること〕 中級レベルの口頭表現能力と漢字の読み書き能力を身に付ける授業。大学生生活に必要な、日本語によるコミュニケーション能力と、読解と書くための能力の基本を身に付ける。口頭表現能力については、1）研究室での日常会話に困らない程度の日本語の会話・聴き取りができる、2）話す相手によってスピーチレベルをコントロールすることができる、3）討論に参加できるような表現能力を身につけることをめざす。漢字については、旧日本語能力試験2級合格レベルの1000字を読み理解することを目標とする。 日本語4－Ⅰ－2と目標は同じだが、扱う文法や漢字の範囲が異なる。	
		日本語4－Ⅲ－1	〔日本語4－Ⅲ－1および日本語4－Ⅲ－2は連続する内容であるため、通して履修すること〕 本科目は、日本語と日本のポップカルチャーを紹介することを目的とする。文法、語彙、文型などの日本語の基礎と、日本の文化、習慣、伝統の紹介を行う。また、日本語のほかに、アニメ、マンガ、J-POP音楽、ファッションなど、日本のポップカルチャーのさまざまな側面についても学ぶ。 本科目を通して、学生は日本のポップカルチャーの歴史と進化、そして現在の社会への影響について学ぶ機会を得ることができる。また、日本のポップカルチャーの商品とその意味、メッセージ、影響を分析し解釈することを学ぶ。	
		日本語4－Ⅲ－2	〔日本語4－Ⅲ－1および日本語4－Ⅲ－2は連続する内容であるため、通して履修すること〕 本科目は、日本語と日本のポップカルチャーを紹介することを目的とする。文法、語彙、文型などの日本語の基礎と、日本の文化、習慣、伝統の紹介を行う。また、日本語のほかに、アニメ、マンガ、J-POP音楽、ファッションなど、日本のポップカルチャーのさまざまな側面についても学ぶ。 本科目を通して、学生は日本のポップカルチャーの歴史と進化、そして現在の社会への影響について学ぶ機会を得ることができる。また、日本のポップカルチャーの商品とその意味、メッセージ、影響を分析し解釈することを学ぶ。	
		日本語4－Ⅳ－1	〔日本語4－Ⅳ－1および日本語4－Ⅳ－2は連続する内容であるため、通して履修すること〕 本科目は、まとまった長さの文章を読むことに慣れ、内容を理解するためのスキルを身につけることと、論理的な文章を書くときに必要な技術の基礎を身につけることを目標とし、中級学習者を対象とする。本科目を履修することによって、以下のことができるように目指す。1）様々な内容の文章が理解できる、2）文章の構造や文法に関する知識、読解技術を使って、書かれた内容を正確に理解できる、3）中心文と指示文で構成された複数の段落を使い、論理的な短い文章が書けるようになる。	
		日本語4－Ⅳ－2	〔日本語4－Ⅳ－1および日本語4－Ⅳ－2は連続する内容であるため、通して履修すること〕 本科目は、まとまった長さの文章を読むことに慣れ、内容を理解するためのスキルを身につけることと、論理的な文章を書くときに必要な技術の基礎を身につけることを目標とし、中級学習者を対象とする。本科目を履修することによって、以下のことができるように目指す。1）様々な内容の文章が理解できる、2）文章の構造や文法に関する知識、読解技術を使って、書かれた内容を正確に理解できる、3）中心文と指示文で構成された複数の段落を使い、論理的な短い文章が書けるようになる。	

授 業 科 目 の 概 要				
(情報データ科学部 情報データ科学科)				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
教養 教育 科目	国際 言語 科目	日本語 4－V－1	[日本語 4－V－1 および日本語 4－V－2 は連続する内容であるため、通して履修すること] 本科目では、多様なトピックの文を読み、中級レベルの文型や表現を学習する。また、各トピックに関連してグループでディスカッションを行い、自分の考えを表現しクラスメートの考えを聞く練習を行う。本科目を履修することで、受講者は多様な文章の読み書きができ、中級レベルの語彙を増やすことができる。また、日本語のコミュニケーションスキルの向上も期待される。	
		日本語 4－V－2	[日本語 4－V－1 および日本語 4－V－2 は連続する内容であるため、通して履修すること] 本科目では、多様なトピックの文を読み、中級レベルの文型や表現を学習する。また、各トピックに関連してグループでディスカッションを行い、自分の考えを表現しクラスメートの考えを聞く練習を行う。本科目を履修することで、受講者は多様な文章の読み書きができ、中級レベルの語彙を増やすことができる。また、日本語のコミュニケーションスキルの向上も期待される。	
		日本語 4－VI－1	[日本語 4－VI－1 および日本語 4－VI－2 は連続する内容であるため、通して履修すること] 本科目では、生のエッセイや説明文、記事などを読むことを通して、日本語の運用力を上級レベルに引き上げることを目指す。言語活動をテーマにした文を読み、その内容に関してグループでディスカッションをする活動を行う。本科目を履修することで、抽象度の高い表現や語彙の学習と日本語でのコミュニケーションの能力の向上が期待される。	
		日本語 4－VI－2	[日本語 4－VI－1 および日本語 4－VI－2 は連続する内容であるため、通して履修すること] 本科目では、生のエッセイや説明文、記事などを読むことを通して、日本語の運用力を上級レベルに引き上げることを目指す。言語活動をテーマにした文を読み、その内容に関してグループでディスカッションをする活動を行う。本科目を履修することで、抽象度の高い表現や語彙の学習と日本語でのコミュニケーションの能力の向上が期待される。	
		日本語 5－I－1	[日本語 5－I－1 および日本語 5－I－2 は連続する内容であるため、通して履修すること] アカデミック・ライティングのための日本語読解力育成を目標とするクラス。具体的には、レポートや論文など学術的な著作とはどのようなものかを理解し、論文を書くために必要な知識、資料の集め方・分析の仕方、日本語表現などを学ぶ。また、実際に小論文なども書き、論文執筆のために必要な論理的思考方法と、日本語で文章化するための力を養う。	
		日本語 5－I－2	[日本語 5－I－1 および日本語 5－I－2 は連続する内容であるため、通して履修すること] アカデミック・ライティングのための日本語読解力育成を目標とするクラス。具体的には、レポートや論文など学術的な著作とはどのようなものかを理解し、論文を書くために必要な知識、資料の集め方・分析の仕方、日本語表現などを学ぶ。また、実際に小論文なども書き、論文執筆のために必要な論理的思考方法と、日本語で文章化するための力を養う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
教養 教育 科目	国際 言語 科目	日本語5-II-1	[日本語5-II-1および日本語5-II-2は連続する内容であるため、通して履修すること] アカデミック・ライティングのための日本語読解力育成を目標とするクラス。具体的には、レポートや論文など学術的な著作とはどのようなものかを理解し、論文を書くために必要な知識、資料の集め方・分析の仕方、日本語表現などを学ぶ。また、実際に小論文なども書き、論文執筆のために必要な論理的思考方法と、日本語で文章化するための力を養う。 日本語5-I-1も同様の目標をもつが、教科書や小論文などのテーマが異なる。	
		日本語5-II-2	[日本語5-II-1および日本語5-II-2は連続する内容であるため、通して履修すること] アカデミック・ライティングのための日本語読解力育成を目標とするクラス。具体的には、レポートや論文など学術的な著作とはどのようなものかを理解し、論文を書くために必要な知識、資料の集め方・分析の仕方、日本語表現などを学ぶ。また、実際に小論文なども書き、論文執筆のために必要な論理的思考方法と、日本語で文章化するための力を養う。 日本語5-II-2も同様の目標をもつが、教科書や小論文などのテーマが異なる。	
		日本語5-III-1	本科目は大学での勉学に必要な社会調査の基礎を学ぶことを目的とし、上級学習者を対象とする。本科目を履修することによって、以下のことができるようになることを目指す。 1) 質問紙調査に向いているテーマはどのようなものかを理解する 2) 調査目的に合った質問が作れるようになる	
		日本語5-III-2	[日本語5-III-2は、日本語5-III-1を履修した上で取ること] 本科目は、学生自らが実施したアンケート調査の結果を分析し、口頭発表する方法を身につけることを目的とする。上級学習者を対象とする。本科目を履修することによって、以下のことができるようになることを目指す。 1) 調査結果を整理し、そこから言えることを考える 2) パワーポイントを作成し、口頭発表に必要な表現を活用して発表する	
		日本語5-IV-1	本科目は上級学習者を対象として、大学での勉学や就職に必要なプレゼンテーション力を向上させることを目標とする。本科目を履修することによって、以下のことができるようになることを目指す。 ・聞き手の立場に立って朗読する ・視覚的な情報を言葉だけでわかりやすく伝える なお、本科目におけるプレゼンテーションの定義は、「日本語を使って他者に何かを伝える活動」とする。	
		日本語5-IV-2	[日本語5-IV-2は、日本語5-IV-1を履修した上で取ること] 本科目は上級学習者を対象として、大学での勉学や就職に必要なプレゼンテーション力を向上させることを目標とする。本科目を履修することによって、以下のことができるようになることを目指す。 ・多様な話題について複数回の口頭発表をする ・フォーマルなメールを書く なお、本科目におけるプレゼンテーションの定義は、「日本語を使って他者に何かを伝える活動」とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
教養 教育 科目	日本語5-V-1		〔日本語5-V-1および日本語5-V-2は連続する内容であるため、通して履修すること〕 情報や考えを効果的に伝える方法を学ぶと同時に、情報の集め方や取り入れ方を勉強する。大学生の学習に必要な日本語の語彙や表現、文の作り方を習い、お互いの考えを伝え合うことを通して、自分の文章やスピーチをよくする。本科目を通し、コミュニケーションのための日本語の力を伸ばし、日本語の文を正しく書く力をつける。また、自分が書いた文章を点検する力もつけていく。コース全体を通して、ロールプレイやグループディスカッションなどのインタラクティブな活動を通して、言語スキルを練習する機会が提供される。また、ビジネス、社交、フォーマルなど、さまざまな場面での効果的なコミュニケーション戦略についても学ぶ。	
	日本語5-V-2		〔日本語5-V-1および日本語5-V-2は連続する内容であるため、通して履修すること〕 情報や考えを効果的に伝える方法を学ぶと同時に、情報の集め方や取り入れ方を勉強する。大学生の学習に必要な日本語の語彙や表現、文の作り方を習い、お互いの考えを伝え合うことを通して、自分の文章やスピーチをよくする。本科目を通し、コミュニケーションのための日本語の力を伸ばし、日本語の文を正しく書く力をつける。また、自分が書いた文章を点検する力もつけていく。コース全体を通して、ロールプレイやグループディスカッションなどのインタラクティブな活動を通して、言語スキルを練習する機会が提供される。また、ビジネス、社交、フォーマルなど、さまざまな場面での効果的なコミュニケーション戦略についても学ぶ。	
	日本語5-VI-1		〔日本語5-VI-1および日本語5-VI-2は連続する内容であるため、通して履修すること〕 最近の時事に関する新聞記事などを理解するための日本語能力を身につけるための授業。具体的には1) 時事に関する読み物を理解するのに必要な、語彙・表現・関連知識を知る、2) 記事を読んだり、ニュース番組を視聴し、要約することが出来る。3) 現代日本の様々なトピックについて知り、日本語で意見を述べたり、レポートにまとめたりすることができるようになることをめざす。コース終了時には、日本語と時事ニュースにおける日本語の使われ方をしっかりと理解することができる。また、日本語のニュース記事を読み、分析し、日本におけるニュースの文化的背景を理解し、ニュースソースの信頼性を評価する能力を身につける。	
	日本語5-VI-2		〔日本語5-VI-1および日本語5-VI-2は連続する内容であるため、通して履修すること〕 最近の時事に関する新聞記事などを理解するための日本語能力を身につけるための授業。具体的には1) 時事に関する読み物を理解するのに必要な、語彙・表現・関連知識を知る、2) 記事を読んだり、ニュース番組を視聴し、要約することが出来る。3) 現代日本の様々なトピックについて知り、日本語で意見を述べたり、レポートにまとめたりすることができるようになることをめざす。コース終了時には、日本語と時事ニュースにおける日本語の使われ方をしっかりと理解することができる。また、日本語のニュース記事を読み、分析し、日本におけるニュースの文化的背景を理解し、ニュースソースの信頼性を評価する能力を身につける。	
	日本語5-VII-1		〔日本語5-VII-1と日本語5-VII-2は連続する内容であるため、通して履修すること〕 アカデミック・リーディングのための日本語読解力育成を目標とするクラス。具体的には、現代科学(異文化コミュニケーション)に関する入門書を読み、内容的に正確に把握する、批判的な視点を持って読むことで気づいたことを整理するなどを行う。 授業ではこれらの内容について個人または小グループ単位ですることで、各自の専門分野や興味関心にそった論文・物語等を読んでいくための読解力を身に付ける。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
教養 教育 科目	国際 言語 科目	日本語5－Ⅶ－2	〔日本語5－Ⅶ－1と日本語5－Ⅶ－2は連続する内容であるため、通して履修すること〕 アカデミック・リーディングのための日本語読解力育成を目標とするクラス。 具体的には、現代科学(異文化コミュニケーション)に関する入門書を読んで得た知識を活用し、学生自身やその友人が直面している課題の解決策を考えてレポートなどにする活動を行う。また、レポート作成を通して知識の活用の仕方が適切であるかなどをクラスメートと相互確認することにより、抽象的な事柄を日本語で考えたり話したりする活動も行う。 授業ではこれらを通し、各自の専門分野や興味関心にそった論文・物語等を読んでいくための読解力を身に付ける。	
		日本語5－Ⅶ－1	〔日本語5－Ⅶ－1と日本語5－Ⅶ－2は連続する内容であるため、通して履修すること〕 アカデミック・リーディングのための日本語読解力育成を目標とするクラス。 具体的には、現代科学(第二言語習得)に関する入門書を読み、内容を的確に把握する、批判的な視点を持って読むことで気づいたことを整理するなどを行う。 授業ではこれらの内容について個人または小グループ単位ですること、各自の専門分野や興味関心にそった論文・物語等を読んでいくための読解力を身に付ける。	
		日本語5－Ⅷ－2	〔日本語5－Ⅷ－1と日本語5－Ⅷ－2は連続する内容であるため、通して履修すること〕 アカデミック・リーディングのための日本語読解力育成を目標とするクラス。 具体的には、現代科学(第二言語習得)に関する入門書を読んで得た知識を活用し、学生自身やその友人が直面している課題の解決策を考えてレポートなどにする活動を行う。また、レポート作成を通して知識の活用の仕方が適切であるかなどをクラスメートと相互確認することにより、抽象的な事柄を日本語で考えたり話したりする活動も行う。 授業ではこれらを通し、各自の専門分野や興味関心にそった論文・物語等を読んでいくための読解力を身に付ける。	
		日本語5－Ⅸ－1	〔日本語5－Ⅸ－1および日本語5－Ⅸ－2は連続する内容であるため、通して履修すること〕 本科目では、様々な話題に相応しい話し方（詳細な説明、描写、叙述など）や語彙・表現を学ぶ。また、グループ活動やプレゼンテーションを通じて、良い話し手・聞き手としての役割や姿勢を身に付ける。本科目を履修することで、以下のことができるようになることを目指す。1）話題に適した話し方や構成を意識しながら話すことができる、2）上級者に必要な語彙や表現を身に付けることができる、3）聞き手を配慮しながら話すことができる。	
		日本語5－Ⅸ－2	〔日本語5－Ⅸ－1および日本語5－Ⅸ－2は連続する内容であるため、通して履修すること〕 本科目では、様々な話題に相応しい話し方（詳細な説明、描写、叙述など）や語彙・表現を学ぶ。また、グループ活動やプレゼンテーションを通じて、良い話し手・聞き手としての役割や姿勢を身に付ける。本科目を履修することで、以下のことができるようになることを目指す。1）話題に適した話し方や構成を意識しながら話すことができる、2）上級者に必要な語彙や表現を身に付けることができる、3）聞き手を配慮しながら話すことができる。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
教養 教育 科目	国際 言語 科目	日本語5-X-1	[日本語5-X-1および日本語5-X-2は連続する内容であるため、通して履修すること] 本科目では、日本語でレポートや論文を書くために必要な日本語表現や文法を学ぶ。本科目を履修することによって、以下のことができることが期待される。1) レポートや論文に相応しい表現を使うことができる、2) レポートや論文によく使われる文法項目を正しく運用することができる、3) 読み手を配慮しながら書くことができる。	
		日本語5-X-2	[日本語5-X-1および日本語5-X-2は連続する内容であるため、通して履修すること] 本科目では、日本語でレポートや論文を書くために必要な日本語表現や文法を学ぶ。本科目を履修することによって、以下のことができることが期待される。1) レポートや論文に相応しい表現を使うことができる、2) レポートや論文によく使われる文法項目を正しく運用することができる、3) 読み手を配慮しながら書くことができる。	
教養 教育 科目	ス ポ ー ツ 文 化 科 目	スポーツ実技Ⅰ-1	生涯にわたってスポーツ文化を享受するために必要な知識、運動技能を身につけ、スポーツ実践能力を養い高めることを目的とする。スポーツ種目を受講生が主体的に選択し、その種目の知識と基礎的な運動技能を習得し、ゲームについて学習する。 実施予定種目：バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球、サッカー、ソフトボール、テニスなど。 実施内容：基礎的な技能の習得とルールを理解、ゲームなかで基礎的な技能を深める。	
		スポーツ実技Ⅰ-2	生涯にわたってスポーツ文化を享受するために必要な知識、運動技能を身につけ、スポーツ実践能力を養い高めることを目的とする。スポーツ種目を受講生が主体的に選択し、その種目の知識と基礎的な運動技能を習得し、ゲームについて学習する。 実施予定種目：バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球、サッカー、ソフトボール、テニスなど。 実施内容：基礎的な技能を活用した戦術の理解、ゲームのなかで基礎的な戦術を高める。	
		スポーツ実技Ⅱ-1	生涯にわたってスポーツ文化を享受するために必要な知識、運動技能を身につけ、スポーツ実践能力を養い高めることを目的とする。スポーツ種目を受講生が主体的に選択し、その種目の知識と発展的な運動技能を習得し、ゲームについて学習する。 実施予定種目：バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球、サッカー、ソフトボール、テニスなど。 実施内容：発展的な技能の習得とルールを理解、ゲームなかで発展的な技能を深める。	
		スポーツ実技Ⅱ-2	生涯にわたってスポーツ文化を享受するために必要な知識、運動技能を身につけ、スポーツ実践能力を養い高めることを目的とする。スポーツ種目を受講生が主体的に選択し、その種目の知識と発展的な運動技能を習得し、ゲームについて学習する。 実施予定種目：バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球、サッカー、ソフトボール、テニスなど。 実施内容：発展的な技能を活用した戦術の理解、ゲームのなかで発展的な戦術を高める。	

授業科目の概要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目 スポーツ文化科目	スポーツ理論1		スポーツのトレーニング法、技能向上に関する基礎理論を学ぶ。スポーツに関する基礎的な理論を学ぶ。 特にトレーニングおよび技術練習法について講義する。 実施内容：体力トレーニングの意義と原則、筋力のトレーニング方法、持久力のトレーニング方法、技術練習法(1)（時間や内容の配分・構成）、技術練習法(2)（指導の手段、戦術的方略）、技能の発揮(1)（不安やあがりへの対処）、技能の発揮(2)（動機づけ）。 キーワード：運動発達、スポーツの技能、運動の指導法、トレーニング法、運動の学習。	
	スポーツ理論2		スポーツに関する基礎的な理論を学ぶ。スポーツの価値や身体運動の理論について関心を持つ。 特にスポーツと健康や体力との関わりについて講義する。 実施内容：スポーツと健康・体力との関わり、運動による肥満の予防・改善、エネルギーの摂取量および消費量の推定、運動による身体諸機能の向上1、運動による身体諸機能の向上2、健康増進のためのトレーニング法1、健康増進のためのトレーニング法2。 キーワード：健康関連体力、運動生理、人口動態統計。	
基礎教育科目	基礎線形代数Ⅰ		1次式について中学・高等学校で学んだ代数的な取り扱いを発展させ、理系専門科目やデータサイエンスで必須となるn次元での1次関係式について学ぶ。連立1次方程式について、係数行列の行変形による解法、解空間が保存されることの集合を用いた確認、解の3態とパラメータによる表示など代数的な処理法を学ぶ。さらに連立させる1次式を図形の方程式と捉え、解の状態を幾何学的に理解し、代数と幾何のつながりを意識させる。ついで行列の和と積を導入し、演算に習熟したのち、単位元の存在、非可換性や非正則行列の存在など実数の積との異同を実感させる。最後に逆行列の計算アルゴリズムを学び、連立1次方程式を行列を係数とする1次方程式と見た場合に逆行列の存在の持つ意味を理解させる。	
	基礎線形代数Ⅱ		高等学校で学んだベクトルの取り扱いを発展させ、理系専門科目やデータサイエンスで必須となるベクトル空間とその線形性、および、ベクトルの直交性や内積などの計量的な扱いについて学ぶ。3次元空間内の直線や平面のパラメータ表示について、例を通して理解を深めた後、ベクトルの張る空間とその線形性を学ぶ。2、3次元ベクトルの内積とその直交投影としての利用に習熟した後、ベクトルの直交分解や2次元平面内の直線、3次元空間内の平面の方程式の導出などの応用を通して内積と直交投影に対する理解を深める。最後にベクトルの線形独立性を学び、代数関係式の意味を理解させる。	
	基礎線形代数Ⅲ		基礎線形代数Ⅰ、Ⅱに続き、理系専門科目やデータサイエンスで多用される基底と線形変換について学ぶ。概念を掴み将来の活用に備えることを目標に、定義と典型例、基本的な性質、基本的な処理法を学び、図形と結びつけて視覚的に理解することにより定着を図る。基礎線形代数Ⅱで導入したベクトルによる線形空間の生成に続き、基底と座標、基底の取り換えと座標の変化則を学んだのち、平面上の直線や三角形が線形変換により辺の直線性を保ちながら様々な変形や潰れ方をするを例を通して理解する。平面の折り返し変換を例に、適切な基底の選択による行列表示、基底の取り換えと変換の行列表示の変化などを理解し、基礎線形代数Ⅳの行列式、固有空間の理解に繋げる。	
	基礎線形代数Ⅳ		基礎線形代数Ⅰ、Ⅱ、Ⅲに続き、理系専門科目やデータサイエンスで多用される行列式と固有空間について学ぶ。概念を掴み将来の活用に備えることを目標に、定義と典型例、基本的な性質と基本的な計算法を学び、図形と結びつけて視覚的に理解し、定着を図る。Euclid空間の間の線形変換の固有な性質を把握することを目標とし、行列式と行変形およびラプラス展開による計算、可逆性の判定、符号付き体積や拡大率としての解釈、ベクトルの外積、固有値と固有空間の定義と計算、固有空間による変換の状況の幾何学的な把握法、対角化の方法と対角化による変換の幾何学的な把握法を学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎教育科目	基礎微分積分学Ⅰ		高等学校で学んだ関数と極限について掘り下げて学び、初等関数の基本的な取り扱い、比の極限を利用した多項式的増大、指数的増大、対数的増大の違いの明確な認識と判断手法などを、自然・社会現象の理解や記述に欠かせない素養として身につける。また極限値の利用として導関数を定義し、基本的な関数の微分を計算する。講義を通して、関数や極限が現象の理解に不可欠ことを様々な例を通して紹介するとともに、例を試して定義の理解を深める、定義をもとに簡単な原理や性質を自分で確認する姿勢を養う。コースの最初にべき関数、三角関数、指数関数、対数関数の定義やグラフなど、高等学校の学習事項についての確認と復習を行い、その後の学習に繋げる。	
	基礎微分積分学Ⅱ		基礎微積分学Ⅰに続き、自然・社会現象や情報通信をはじめとする科学技術の理解や記述に欠かせない微分について、高等学校で学んだことを再整理し、さらに掘り下げて学ぶ。微分公式、グラフの作図などの基本的な技術の理解に加え、接線の傾き、速度、断面積など様々な量が導関数で表されることが、微分の線形性、微分公式や凹凸原理を、数式記号を用いて適切に説明できるようになることを目標とする。また、チェインルールを用いた速度や面積の間接的計測、最適化問題を取り上げ、場面に合わせて適切に変数を設定し、微分概念を応用する力と、その一連の流れを記述する力を養う。	
	基礎微分積分学Ⅲ		基礎微積分学Ⅰ、Ⅱに続き、自然・社会現象や情報通信をはじめとする科学技術の理解や記述に欠かせない積分について、高等学校で学んだことを再整理し、さらに掘り下げて学ぶ。区分求積法による定積分の定義、微分と積分の関係に重点を置き、いずれも原理を掴み、数式記号を用いて適切に説明できること、簡単な具体例が着実に処理できることを目指す。これらの項目に付随して、不定積分、置換積分法や部分積分法の原理の理解と計算、球体の体積や重心などの具体的な計算を取り上げる。最後に広義積分について簡単に紹介する。	
	基礎微分積分学Ⅳ		基礎微積分学Ⅲに続き、自然・社会現象や情報通信をはじめとする科学技術の理解や記述に欠かせないテイラー展開と微分方程式について学ぶ。関数を多項式で近似する意義と近似の局所性、微分方程式による現象のモデル化に重点を置き、付随する事項として、有限近似式による極値とグラフの凹凸の観察、テイラー級数、分離型、同次型、1階線形型、2階線形斉次型など基本的な常微分方程式の解法と計算、付加条件による解の決定を取り上げる。テイラー展開における係数の決定や、比の極限値を用いた剰余項の収束条件の理解、具体的な微分方程式の解法などで基礎微分積分学Ⅰ～Ⅲで学んだ概念を応用し、既習事項とのつながりを意識させるとともに、近似値の計算や数理モデル構築などを通して、微積分学の応用を意識させる。	
	基礎統計学		データサイエンスを理解するために必要となる統計学の基礎的な素養を身に付けることを目的とする。扱う内容としては、まず、離散型及び連続型の確率変数と確率分布について説明し、それらの平均や分散という概念を理解する。とくに、二項分布と正規分布の性質について理解を深め、それらに関連する分布についても扱う。さらに、統計的推測の基礎となる中心極限定理について説明する。これらの内容を土台にして、区間推定及び仮説検定について具体的な手法を習得する。	
	基礎データサイエンス学Ⅰ		現在、科学技術分野のみならず社会のデジタル化や産業の構造変化に伴い、大量のデータを分析し、課題解決や新たな価値の創出を行うデータサイエンスの重要度は増してきている。 本科目では、データサイエンスの基礎的な回帰分析・判別分析・次元削減(要約)について学ぶ。表計算ソフトウェア(Excel)で様々な種類のデータを分析・視覚化する技術とプレゼンテーション(PowerPoint)で伝える技術についても習得することを目的とする。 なお、本科目は「データサイエンス学Ⅱ」と続く内容となるため、あわせて履修すること。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎教育科目	基礎データサイエンス学Ⅱ		現在、科学技術分野のみならず社会のデジタル化や産業の構造変化に伴い、大量のデータを分析し、課題解決や新たな価値の創出を行うデータサイエンスの重要度は増してきている。 本科目では、データサイエンスの基礎的な回帰分析・判別分析・次元削減(要約)について学ぶ。表計算ソフトウェア(Excel)で様々な種類のデータを分析・視覚化する技術とプレゼンテーション(PowerPoint)で伝える技術についても習得することを目的とする。 なお、本科目は「データサイエンス学Ⅰ」から続く内容となるため、あわせて履修すること。	
	多変数微積分学Ⅰ		理系専門科目やデータサイエンスにおいて必要となる多変数関数とその微分について、基礎微積分学Ⅰ～Ⅳおよび線形代数学Ⅰ、Ⅱで学んだことを必要に応じて復習しながら講義する。とくに2変数関数の取り扱いに習熟することを目指し、2変数関数のグラフ表示、等位線表示、極小、極大、サドルのグラフと等位線表示に習熟すること、偏微分、方向微分、勾配ベクトルとその基本性質、接平面とその記述方法を学ぶ。どの項目においても原理を理解し、典型例を通して概略をつかむこと、簡単な場合に着実に計算できることを目標とする。コースの最初に、1変数微積分と線形代数に関する基礎知識の確認を行い、その後の学習に繋げる。	
	多変数微積分学Ⅱ		多変数微積分学Ⅰに続き、理系専門科目やデータサイエンスにおいて必要となる多変数関数の微分と重積分について学ぶ。微分について、チェインルールと条件つき極値問題への応用、ラグランジュの未定係数法、テイラー展開、ヘシアンによる極値判定を、1変数関数の場合と対比させながら学ぶ。積分について、重積分の定義、逐次積分、変数変換による積分計算を学ぶ。各項目が事象やデータの解析に用いられる道具となることが理解できるように説明し、どの項目においても原理を理解すること、概略をつかむこと、簡単な場合に着実に計算できることを目標とする。	
	デジタル社会と企業経営基礎		本科目では、デジタル技術の活用により、既存のビジネスプロセスの変革、ビジネスプロセス能力の向上、収益構造の向上など、デジタル社会において求められる企業経営の基礎を学ぶ。具体的には、ICTを活用したビジネスモデルの実現や、ビジネスプロセスのデジタル化など、企業が経営成果を高めるために必要な条件や、デジタル技術の効果的な活用事例をもとに、経営資源の活用や組織的な取り組みについて考察する。	
	e-ビジネス基礎		本科目では、インターネットを活用したビジネスモデル（e-ビジネス）の仕組みやシステム構築の手法について学ぶ。AIやビッグデータに代表されるデジタル技術の進展やデジタルトランスフォーメーション（DX）が、ビジネスプロセスやe-ビジネス、デジタルマーケティングに大きな影響を与えている事例を紹介しながら、デジタル社会におけるe-ビジネスの動向や課題について解説していく。	
	デジタル社会と企業リスク基礎		ほとんどの企業において、ビジネスリスク（事業リスク）は不可避的なものであり、その影響を抑制するマネジメントが注目されている。国際競争の激化、地政学的リスク、災害リスクなど、想定されるリスクは近年複雑化・高度化しており、そのマネジメント（リスクマネジメント）は重要な経営課題となっている。そこで本科目では、リスクマネジメントの歴史を概観した上で、デジタル社会におけるビジネスリスクの事例を紹介しながら、リスクマネジメントの基礎を学んでいく。	
	デジタル社会と観光基礎		コロナ禍による観光需要の変化や、オーバーツーリズムなど、近年の日本の観光地が抱える課題の解決に向けて、デジタル技術を活用して観光事業者と地域が連携して課題解決に取り組むことが求められている。そこで本科目では、観光学の理論や分析で用いられる手法について学ぶとともに、観光産業の特徴やその歴史、観光に関連する諸問題について理解を深めた上で、観光客の流動情報などのデータ分析・活用手、新たなビジネスモデルの創出による好事例などについて包括的に学んでいく。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎教育科目	デジタル社会と環境問題基礎		近年、デジタル技術を活用し、脱炭素社会を目指す取り組みを通じて経済社会システムを変革させることで、持続可能な成長を目指すグリーントランスフォーメーション（GX）の取り組みが注目されている。そこで本科目では、デジタル社会において求められる環境問題に関する基礎知識を学ぶ。具体的には、地球規模の環境問題に関する現状とその解決に向けた課題、デジタル技術の活用とGXとの関係、環境負荷の削減を図る環境政策などについて学んでいく。	
	デジタル社会と地域活性化基礎		近年、地域課題の解決に向けたデジタル技術の活用事例を紹介し、地域活性化に向けた方策について学んでいく。特にデジタル社会においては、その技術的な応用範囲が拡大しつつあり、企業や行政、市民生活など多岐にわたり地域経済・産業面での貢献が期待されている。そこで、本科目では、ビジネス、観光、環境問題などの社会科学の視点から、地域経済・産業とデジタル技術との関係や地域活性化への活用方策について学んでいく。 【オムニバス／全8回】 （9 臼木智昭） 第1回：ガイダンス・デジタル社会と地域経営 （13 高橋環太郎） 第2回：観光デジタルトランスフォーメーションと地域観光 第3回：観光データの分析・活用と地域観光 第4回：地域経済データの分析・活用と地域観光 （19 熊丸博隆） 第5回：デジタルトランスフォーメーションと地域経済・産業 第6回：グリーントランスフォーメーションと地域経済・産業 第7回：環境問題のデータ分析・活用と地域経済・産業 （9 臼木智昭） 第8回：まとめと期末課題	オムニバス
専門教育科目（共通）	基礎AI学	○	授業の目的 本科目では、機械学習およびニューラルネットワークの基本から始め、手書き数字認識を例に実際にニューラルネットワークを実行・経験する。ニューラルネットワークがどのような仕組みで手書き数字を認識するのか、どのようにしてニューラルネットワークが活用・応用されるのか、それら基本的な仕組みをコンピュータ演習と講義を通じて学ぶことを目的とする。また、実社会で実装されているAIを用いたサービスを講義内で取り上げ、どのようにAI技術が活用されているのかを理解するとともに、技術を活用する責任と倫理観について学ぶことを目的とする。 授業の概要 コンピュータ演習を含んだ形式でニューラルネットワークに関する講義を行う。演習課題とレポートの提出を求め、到達度を確認する。	
	データエンジニアリング基礎	○	IT社会およびインターネットにおけるデータエンジニアリング（データ工学）、特にデータベース管理システム（DBMS）の役割と基本概念を学習する。具体的には、データベース管理システム、データモデル、関係データベースについて学ぶ。特に、データベースの設計において重要な正規化に関する関係モデル理論について深く理解する。さらに、データベース問合せ言語SQLとウェブサーバープログラミング言語PHPを用いた演習を通して、データベースの基本操作とウェブデータベースサービスの実現方法を体得する。	
	データエンジニアリング演習		IT社会およびインターネットにおけるデータエンジニアリング、特に、データベース管理システムの役割と基本概念を学習する。具体的には、データベース管理システム、データモデル、関係データベースの基本概念を理解する。本演習では、データベース問合せ言語SQLとウェブサーバープログラミング言語PHPを用いた演習を通して、データベースの基本操作とウェブデータベースサービスの実現方法を体得する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目（共通）	データ解析・可視化Ⅰ	○	本科目は、数理・データサイエンス・AI教育における応用基礎レベルの「データの分析と可視化」を含む。本科目では、生体情報処理、ロボット制御、経済分析における研究・開発の橋渡しとして、数値計算とプログラミングのプラットフォームであるMATLABの利用方法を学び、各種グラフでデータを可視化すると共に、統計処理によるデータの特徴量と比較・照合する過程を通して、目的に応じた可視化手法およびデータ分析手法を学び、データが持つ意味を直感的に理解する素養を養う。	
	データ解析・可視化Ⅱ		本科目では、生体情報処理、ロボット制御、経済分析におけるエキスパートレベルの研究・開発の橋渡しとして、数値計算とプログラミングのプラットフォームであるMATLABを活用し、データの可視化手法および分析手法を学習すると共に、各種時系列データの解析およびグラフ化を通して目的に応じた前処理手法および可視化手法を学び、各種データのモデル化および分析手法の学習を通してデータから意味合いを導出する素養を養う。	
	組合せ数学Ⅰ		純粋数学の各分野への応用に限らず、計算機科学、最適化問題、オペレーションリサーチ、アルゴリズム解析、グラフ理論、離散確率などに多くの応用を持つ組合せ論の基礎を学習する。有限な構造の数え上げ手法の基本的事項を理解し、それを現実的な問題に応用する能力を身につける。順列と組合せに関する和法則、積法則、二項定理、二項係数、順列、組合せの基本事項を、演習を通して身につける。さらに、漸化式への応用を紹介する。包除原理を使ったものの数え上げ手法を理解し、乱列や位置に制限がある場合の順列の数え方について演習を通して身につける。	
	組合せ数学Ⅱ		純粋数学の各分野への応用に限らず、計算機科学、最適化問題、オペレーションリサーチ、アルゴリズム解析、グラフ理論、離散確率などに多くの応用を持つ組合せ論の基礎を学習する。有限な構造の数え上げ手法の基本的事項を理解し、それを現実的な問題に応用する能力を身につける。順列と組合せに関する和法則、積法則、二項定理、二項係数、順列、組合せの基本事項を、演習を通して身につける。さらに、漸化式への応用を紹介する。包除原理を使ったものの数え上げ手法を理解し、乱列や位置に制限がある場合の順列の数え方について演習を通して身につける。	
	機械学習Ⅰ	○	本科目は、機械学習の基本的な理論と実践を学ぶための入門科目である。Pythonプログラミングの基本文法や基本構成を学んだ後、機械学習用のモジュールとライブラリについても学ぶ。さらに、機械学習の基礎概念を学び、実際のデータセットを使用して機械学習アルゴリズムを実装する。機械学習の基本的な手法を理解し、実際の世界の問題に機械学習を適用するための基礎を身につけることを目的とする。	
	機械学習Ⅱ		本科目は、機械学習の基本を理解し、Pythonプログラミングのスキルを習得した学生を対象として、より多くの機械学習モデルの理論と応用について学ぶ科目である。実際のデータセットを用いて機械学習モデルを構築し、性能を評価・改善する方法を身につける。リアルワールドの課題に対する機械学習ソリューションを構築する能力を習得することを目的とする。	
	機械学習演習		機械学習ⅠとⅡを履修し、機械学習における基礎理論と実装方法を理解した学生を対象として、最先端のディープラーニングの技術を学ぶ。様々なタスクを解決するためのアーキテクチャデザイン能力を身につけることを目的とする。さらに、演習を通じて様々な具体例を体験し、実務的なタスクへ向けたより高度な機械学習の応用能力を向上させることを目指す。	
	自然言語処理		人の言葉をコンピュータで処理する枠組みである自然言語処理について、基礎技術から応用技術までを学ぶ。具体的には、自然言語処理の概要、単語のベクトル表現と意味的類似度推定、文のベクトル表現とテキスト分類について学ぶ。次に、形態素解析、構文解析、機械翻訳（統計翻訳、用例ベース機械翻訳、ニューラル機械翻訳）について学ぶ。さらに、応用事例として、対話システム全般、言語理解、対話のモデルについても学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目（共通）	データ構造とアルゴリズムⅠ	○	ソフトウェア設計・開発や、データサイエンス、人工知能等の基礎として、基本的なアルゴリズムとデータ構造を学び、コンピュータでの情報処理の仕組みを理解でき、情報社会の諸問題を解決するための論理的思考、プログラミング思考能力を身につけ、今後の情報処理・プログラミング関連の授業に挑むための準備をする。具体的には、計算量、オーダー記法の概念と演算を通して、解決したい問題の規模とアルゴリズムの計算量評価を理解できる。演習を通して、リスト、行列、表、スタック、キュー、グラフ、木などの基本データ構造および、再帰処理、分割統治、動的計画などのアルゴリズムをコンピュータ上で具現化できる。	
	データ構造とアルゴリズムⅡ	○	ソフトウェア設計・開発や、データサイエンス、人工知能等の基礎として、基本的なアルゴリズムとデータ構造を学び、コンピュータでの情報処理の仕組みを理解でき、情報社会の諸問題を解決するための論理的思考、プログラミング思考能力を身につけ、今後の情報処理・プログラミング関連の授業に挑むための準備をする。具体的には、文字列照合、探索、ソートなどの問題に対して、典型的なアルゴリズムの原理を学習し、演習を通して、KMP法、BM法、二分探索、ハッシュ法、木探索、マージソート、ヒープソート、クイックソートなどのアルゴリズムをコンピュータ上で具現化できる。	
	データ構造とアルゴリズムⅢ		ソフトウェア設計・開発や、データサイエンス、人工知能等の基礎として、基本的なアルゴリズムとデータ構造を学び、コンピュータでの情報処理の技法を理解でき、情報社会の諸問題を解決するための論理的思考、プログラミング思考能力を身につけ、今後の情報処理・プログラミング関連の授業に挑むための準備をする。具体的には、最短経路、ゲーム理論、探索などの問題に対して、典型的な情報処理のアルゴリズムの原理を学習し、グラフ、ネットワーク、二分決定木などのデータ構造および、基礎的な情報処理技法、組合せ最適化手法を説明できる。	
	データ構造とアルゴリズムⅣ		ソフトウェア設計・開発や、データサイエンス、人工知能等の基礎として、基本的なアルゴリズムとデータ構造を学び、コンピュータでの情報処理の技法を理解でき、情報社会の諸問題を解決するための論理的思考、プログラミング思考能力を身につけ、今後の情報処理・プログラミング関連の授業に挑むための準備をする。具体的には、シミュレーション、データ圧縮などの問題に対して、典型的な情報処理のアルゴリズムの原理を学習し、モンテカルロアルゴリズム、遺伝的アルゴリズム、ハフマン法、辞書圧縮法などの基礎的な情報処理技法、組合せ最適化手法を説明できる。	
	情報理論と符号理論		情報・通信の基礎となる情報理論および符号理論の基礎を学ぶ。具体的には、情報理論の歴史や応用について概説した後、符号化の概念や代表的な符号化方式について学ぶ。また、線形な誤り検出符号、誤り訂正符号に関する代表例とその原理・動作について学ぶ。さらに、巡回符号による誤り検出符号、誤り訂正符号について学び、符号化・復号化を理解する。	
	データ調査・実験計画法		一元配置、二元配置などの多元配置の計画や、乱塊法、ラテン方格法、直交配列表による計画、分割法など、実験計画法の理論と考え方を習得することを目的とする。仮説検証や要因統制について理解し、心理学実験や生産現場における品質改善などの具体的な問題に対して、適切な実験計画を立案できるスキルを身につける。また、社会調査を例題として、調査計画、標本抽出の方法、質問紙の作成、尺度の作成と信頼性、妥当性の検討、データ解析までの流れを理解する。	
	コンピュータ支援学習	○	情報技術の発展に伴い、教育の形態は大きく変革している。また、情報という教科を、初等中等高等教育において、必修科目とようになってきている。本科目では、コンピュータ支援教育の意義、歴史、基本原理および未来の発展の可能性に関して、実例を交えて学ぶ。さらに、将来のコンピュータ支援教育のあるべき形に関して、各人が考えてみんなで議論する機会を設ける。このような授業内容を通して、近未来の教育DXに貢献できる人材の素養を身に付ける機会を設ける。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目（共通）	デジタル変革	○	企業・組織・社会のデジタル化が進んでおり、デジタル変革（DX）と呼ばれる。DXの歴史、代表事例、基本的な考え方を理解する。また、代表的なデジタル要素技術（IoT、5G、AI、デジタルツインなど）とDXの関係性を学ぶ。さらに、未来のわれわれの社会へどのようにしてDXを導入すべきかに関して、人間中心の観点から技術と倫理の関係を深く考える。	
	ビッグデータとクラウドコンピューティング		巨大IT企業がクラウドコンピューティングを実現し、ビッグデータを構築・獲得し、世界的デジタル経済市場において、少数の巨大IT企業だけが極端に優位に立っている現状がある。このように、この2つの革新的ITプラットフォーム技術（クラウドコンピューティング、ビッグデータ）の発展と普及が、われわれ社会を大きく変革させている。これらの革新的ITプラットフォーム技術の歴史、意義、基本原理、基本技術、問題点、さまざまな事例を理解する。また、現在の問題点・課題に対する解決方法・将来の発展方向に関して、国際社会、地域社会において、これらの革新的ITプラットフォームが今後どのようにして人間中心の枠組みとして再定義、再設計されるようになるかに関する、未来的視点を持つことができる人材育成を目的として、知識と技術の習得の機会を設ける。	
専門教育科目（共通）	基礎情報学	○	授業の目的 本科目では、データ解析に向けた統計学や人工知能（AI）等に関する技術を身に着けるために必要とされる基礎的なプログラミング技能を習得することを目的とする。 授業の概要 Pythonプログラミングを通じて、プログラミングの基礎知識、データ表現、データ解析技術、データ可視化手法について学習する。コンピュータによる演習を行い、到達目標を達成できるような演習課題とレポートの提出を求め、到達度を確認する。	
	情報処理の技法	○	現代の社会は、高度に発達した情報処理・情報通信技術によって支えられている。このようなデジタル社会の一員として適切に振る舞い、活動を行っていくためには、情報とその技術について理解を深めるとともに、それらが社会にどのような影響を与えているかを認識することが重要である。本講義では以下2点を軸に、情報処理に関する基礎的な知識やスキルを身につける。 ● 情報処理および情報交換を行うために、コンピュータやソフトウェアの基本的な使用方法を習得する。 ● 情報化社会と関わるために、情報処理や情報セキュリティに関する知識を身につける。	
	Cプログラミング	○	授業の目的 本科目では、データ解析に必要な基礎的なプログラミングの技能を習得することを目的とする。具体的には、C言語におけるデータ操作、演算、制御などの基礎的なプログラミング技術について、コンピュータ演習を通じて学ぶことを目的とする。 授業の概要 コンピュータ演習を含んだ形式でC言語を用いたプログラミングに関する講義を行う。演習課題やレポート課題の提出を求め、到達度を確認しながら進めていく。	
	応用Cプログラミング	○	C言語はメモリ管理やハードウェア制御が可能なことから、スマートフォンアプリなどの汎用的なアプリケーションソフトウェアだけでなく、ハードウェアの管理を必要とするOSや組み込みソフトウェア、また、高い実行速度性能が要求される開発などにも利用されている。非常に高い汎用性を持つプログラミング言語である。本科目では、C言語を用いたプログラミング演習を中心に進め、データ構造とアルゴリズムについて理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
専門 教育 科目 （共通）	Javaプログラミング	○	プログラミング言語Javaを用いたソフトウェアコーディングの基本的な技術を学ぶ。 (1) Java実行環境の仕組みを理解する。 (2) Java言語によるプログラミングの基本を理解する。 (3) Java言語の文法による、データ型、演算子、制御文、メソッドの書き方を理解する。 (4) オブジェクト指向プログラミングの基本を理解する。 (5) オブジェクト、クラス、継承、ポリモーフィズム、抽象メソッド、インタフェースの使い方を理解する。	
	応用Javaプログラミング	○	さまざまなアルゴリズムについて、Java言語を用いて実装することにより、ソフトウェア開発に必要な要素を学ぶ。他人が作成したソースコードを読み解くソースコードリーディング、ソフトウェア開発において再利用性の高いコーディングに不可欠なデザインパターン、仕様変更柔軟に対応できるように冗長なソースコードを最適なソースコードへ変更するリファクタリングについて学ぶ。	
	ソフトウェア工学Ⅰ		ソフトウェア工学では、ソフトウェア開発ライフサイクルを構成する各工程で用いられる知識を学ぶ。また、その知識に基づいて高品質なソフトウェアを開発するための技術、成果物の品質及びプロセスを評価するための技術を学ぶことを目的とする。 (1) コンピュータソフトウェアの生産性と品質の向上を目標とするソフトウェア工学の基本的な内容を理解する。 (2) ソフトウェア開発のプロセスと管理、保守、およびツールに関する知識体系について理解を深める。 (3) 具体的なソフトウェアの開発プロセスを例題により理解する。	
	ソフトウェア工学Ⅱ		応用ソフトウェア工学では、ソフトウェア開発ライフサイクルを構成する各工程で用いられる知識をより実践的に学ぶ。また、その知識に基づいて高品質なソフトウェアを開発するための技術、成果物の品質及びプロセスを評価するための技術をより具体的に学ぶことを目的とする。 (1) ソフトウェア開発で使われるツールや開発環境について理解する。 (2) ユースケースなどを用いた機能要求の記述や、要求抽出、データを記述する技術など、要求分析法について理解する。 (3) デザインパターンなど、ソフトウェア設計法について理解する。 (4) コーディング規約、例外処理などソフトウェア実装法について理解する。	
	コンピュータ概論		コンピュータアーキテクチャとはコンピュータの基本構造や設計思想である。本科目ではコンピュータで利用する「情報」の基本的要素と、そのデータ表現について学習することにより、コンピュータにおけるソフトウェアの基本を修得することを目的とする。	
	コンピュータアーキテクチャ		コンピュータアーキテクチャとはコンピュータの基本設計や設計思想である。コンピュータの基本的処理であるデータの計算、加工、蓄積を実現するための基礎回路の原理を学習することにより、コンピュータを情報処理の道具として使うために必要なハードウェアの基本を修得する。さらに、それらのデータを共有し活用するために必要な情報通信技術の基礎を習得する。	
	オペレーティングシステムⅠ		コンピュータにおいて、ハードウェアを抽象化し、コンピュータ利用者間の資源の共有を管理するためのオペレーティングシステム(OS)の基本的な知識を学ぶ。 (1) オペレーティングシステム(OS)の構成、役割を理解する。 (2) 具体的なOSの種類・特徴を理解する。 (3) カーネルモードとユーザモードの概念、デバイスの構成や割り込み方式を理解する。 (4) プログラムの開発環境と実行方式の基本を理解する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目（共通）	オペレーティングシステムⅡ		コンピュータにおいて、ハードウェアを抽象化し、コンピュータ利用者間の資源の共有を管理するためのオペレーティングシステム(OS)の基本的な知識を学ぶ。 (1) マルチプログラミングと並行実行の基本を理解する。 (2) プロセスの構造、同期、通信、コンテキスト切り替え等の実現方式を理解する。 (3) OSによるメモリ管理の基本を理解する。 (4) OSによるスケジューリングの機構とそのアルゴリズムを理解する。	
	情報倫理とプライバシー	○	デジタル社会において、技術自体の進歩に加えて関連する法律を理解することが重要である。また、思いがけないことから被害者にも加害者にもなってしまうことがあり得る。このため、その価値基準として情報倫理に関する理解を深めるとともに、ケーススタディを学び、今後生じる新たな課題に対応するための基礎力とする。 (1) 情報化社会で適切な活動を行うために、基礎となる考え方を習得する。 (2) 情報化社会と関わるために、情報の特性を理解する。 (3) 個人情報とプライバシーの基礎を理解できる。 (4) 情報化社会における諸問題を理解するために、実例を知る。 (5) 倫理的に行動するために、主体的かつ論理的に判断する。	
	情報セキュリティ	○	現代の情報社会において、適切な情報セキュリティの確保は前提条件となってきた。本科目では、情報セキュリティに関する基礎知識の習得を目的とし、実際に起こっている情報セキュリティ事故の近年の傾向や情報セキュリティの基本、情報セキュリティにおけるリスクマネジメントの考え方について学ぶ。また、情報セキュリティ対策技術の種類と特徴、セキュリティポリシー、情報セキュリティ関連の法律についても学び、IoTやAIなどの新技術によって生まれる新たな脅威について考える。	
	情報セキュリティ実践		近年、情報化社会の発展とともに、コンピュータはインターネットに接続するのが通常の利用形態になっている。インターネットにはだれでも接続することができ、情報の収集や発信および商取引の利便性は著しく向上した。一方で、悪意のある人間もインターネットに容易に接続することができ、コンピュータシステムと保存されているデータは窃取、改ざん、破壊の脅威にさらされている。コンピュータシステムのセキュリティはいろいろな技術や考え方で成り立っており、それらが有機的に連携して初めてコンピュータシステムのセキュリティが担保される。セキュリティを担保する様々な技術や考え方と、それらがどのように連携してセキュリティを担保するか学ぶ。ネットワークやオペレーティングシステム(OS)などのIT技術についての知識が必要であるので、それについても併せて解説する。	
専門教育科目（共通）	IoTとネットワークⅠ	○	ネットワークは電話網、インターネット網、そしてIoTネットワークに変化・発展しつつある。このネットワークや通信に関する基礎から全体像を理解するための講義である。実務経験のある教員が担当する。 実務経験の内容：1984年～2005年、通信ネットワーク関連企業の研究所に在籍し、ネットワーク技術・システム・サービスの研究開発の業務に携わった。複数レイヤにかかわる技術、複数技術が総合されて全体のシステムが構成・設計されることを理解する実践的な教育を行う。	
	IoTとネットワークⅡ		ネットワークは電話網、インターネット網、そしてIoTネットワークに変化・発展しつつある。このネットワークや通信に関する基礎から全体像を理解するための講義である。実務経験のある教員が担当する。 実務経験の内容：1984年～2005年、通信ネットワーク関連企業の研究所に在籍し、ネットワーク技術・システム・サービスの研究開発の業務に携わった。複数レイヤにかかわる技術、複数技術が総合されて全体のシステムが構成・設計されることを理解する実践的な教育を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目（共通）	モバイルコンピューティング		本科目は、オブジェクト指向のJavaプログラミング言語を使用したモバイルアプリケーションの開発方法を紹介する。学生は、基本的なAndroidアプリケーションを開発するだけでなく、ソースコードの記述、コメント、ドキュメントの読み取り、プレゼンテーションに関する英語のスキルを習得することを目的としている。学生は本科目を通じて、スマートフォンやタブレット向けのAndroid APPプログラムを設計、コーディング、テスト、デバッグできるようになる。	
	モバイルプログラミング		本科目は、オブジェクト指向のJavaプログラミング言語を使用したモバイルアプリケーションの開発方法を紹介する。学生は、基本的なAndroidアプリケーションを開発するだけでなく、ソースコードの記述、コメント、ドキュメントの読み取り、プレゼンテーションに関する英語のスキルを習得することを目的としている。学生は本科目を通じて、スマートフォンやタブレット向けのAndroid APPプログラムを設計、コーディング、テスト、デバッグできるようになる。	
	ネットワークプログラミング I		インターネットで使用されているネットワークと通信の基本的な知識を学ぶ。またプログラミング等を交えてネットワーク技術を実践的に学ぶ。 (1) インターネットのアーキテクチャとその基本構成について理解する。 (2) OSI参照モデルの概念とネットワーク階層の役割を理解する。 (3) ネットワークを構成する機器と役割を理解する。 (4) パケット通信と経路制御方式について理解する。 (5) ネットワークアドレス、ポート番号、ドメインネームシステムの役割を理解する。	
	ネットワークプログラミング II		インターネットで使用されているネットワークと通信の基本的な知識を学ぶ。またプログラミング等を交えてネットワーク技術を実践的に学ぶ。 (1) インターネットのアーキテクチャとその基本構成について理解する。 (2) インターネットで使用されるTCP/IPの主要なプロトコル群について理解する。 (3) データ配送の信頼性、エラー制御（再送、タイマー設定）、フロー制御（受領確認、スライディングウィンドウ）について理解する。 (4) アプリケーション層の役割と具体的なプロトコルについて理解する。 (5) 分散アプリケーション、ソケットAPIについて理解する。	
	IoTとデータセンシング I		さまざまなモノがインターネット経由で通信し、コミュニケーションをするIoT（Internet of Things）では、ハードウェアとソフトウェアが連携して動作する組み込み技術、現実世界のさまざまな物理量（温度、湿度、重さなど）をサイバー空間へ取り込むためのセンシング技術、そしてコミュニケーションのための通信技術などの様々な技術が応用されている。このようなIoTシステムについて、これまでの経緯とIoTが登場した背景を学ぶことで理解を深める。 本科目では、IoTにおけるハードウェアについて、実際にセンサを使った実習を行い、理解を深める。	
	IoTとデータセンシング II		さまざまなモノがインターネット経由で通信し、コミュニケーションをするIoT（Internet of Things）では、ハードウェアとソフトウェアが連携して動作する組み込み技術、現実世界のさまざまな物理量（温度、湿度、重さなど）をサイバー空間へ取り込むためのセンシング技術、そしてコミュニケーションのための通信技術などの様々な技術が応用されている。このようなIoTシステムについて、実際にマイコン、センサ、アクチュエータを用いたIoTシステムの構築を体験し、IoTについての理解を深める。	
人間情報コア科目	マルチメディア演習 I		本科目では、マルチメディアを通じて表現するために必要な技能と知識を習得すること、および情報システム開発者に求められるプロジェクト管理の基本事項を理解することを目的とする。具体的には、文字、画像（静止画像）、動画、音声など、形式の異なるデジタルデータを用いて、複数人で構成されるグループで一つのコンテンツを制作する活動計画を立案する。次に、グループでコンテンツ制作活動を行い、実行結果を踏まえて活動計画を見直し、改良方法を考える。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目（共通）	マルチメディア演習Ⅱ		本科目では、マルチメディアを通じて表現を行なうために必要な技能と知識を習得すること、および情報システム開発者に求められるプロジェクト管理の基本事項を理解することを目的とする。具体的には、文字、画像（静止画像）、動画、音声など、形式の異なるデジタルデータを用いて一つのコンテンツを制作するための活動計画に基づき、グループ内で進捗状況を共有しながらコンテンツ製作活動を行う。さらに、製作したコンテンツを紹介するプレゼンテーションを行い、コンテンツ製作活動を通して得られた成果を発表する。	
	ヒューマンコンピュータインタラクションⅠ	○	全ての世代で利用しやすいコンピュータ、デジタルデバイドを解消できるインターフェースとはどのようなものだろうか？本科目では、ヒトとコンピュータのインターフェースおよびインタラクションに着目し、ヒトの知覚・認知機能の特性を踏まえ、人間が使用するための対話型コンピュータシステムのデザイン、評価、実装に関連し、それら周辺の主要な現象について基本となる知識と技術を学び、HCIをデザインするための思考力を養成する。	
	ヒューマンコンピュータインタラクションⅡ		人間が使用するための対話型コンピュータシステムのデザイン、評価、実装に関連し、それら周辺の主要な現象について基本となる知識と技術を記憶し、HCIをデザインするための思考力を養成する。	
	画像AI学Ⅰ		本科目は、コンピュータでデジタル画像を扱うために、画像処理の原理および各処理について学ぶ。具体的には、ユーザである人間の視覚メカニズムに関する概説を行い、画像の入出力、画像のデジタル化とその特徴、表色系について学ぶ。また、画像処理と機械学習の活用例について学ぶ。次に、2値画像処理として、概要、閾値処理、2値画像の連結性と距離、膨張・収縮処理、細線化、形状分析、符号化などの処理を学ぶ。さらに、多値画像処理として、濃度変換、ノイズ除去、平滑化、特徴抽出などの処理を学ぶ。	
	画像AI学Ⅱ		本科目は、コンピュータでデジタル画像を扱うために、幾何補正、領域分割、テキスト解析、パターン認識（機械学習、教師あり学習・教師なし学習、クラスタリング、SVM）、3次元画像処理について学ぶ。また、画像処理・機械学習を用いたブラクティスとして、文字認識、リモートセンシング、情景画像処理、ヒューマンセンシング、医用画像、産業応用などの解析事例を取り上げ、様々な分野において、画像処理と機械学習が利活用される状況を理解する。	
	CG・VR		コンピュータグラフィックス(CG)はいまやすっかり世の中に浸透し、アニメやゲームだけでなく、工業製品のデザイン、医療データの可視化など幅広い分野で活用されている。ディスプレイやスマートフォンで表示したり、印刷物として利用することはもちろん、近年のHMD等のイマーシブテクノロジーの急速な進歩により、VRやMR等の立体映像として製造業や観光業でも利用されるようになってきた。 本科目では、CGの基本となる座標変換、3次元図形を2次元画像に変換する処理、形状表現の基本から3次元形状表現までを学ぶ。	
	情報社会と人間		情報のライフサイクルと社会活動の関わりを理解するため、身近な情報システムで扱われている情報が、システム内でどのように整理され、検索できるようになっているのかを学ぶ。具体的には、はじめに、図書館の所蔵検索システムやインターネットを例に、情報の分類手法、Web検索エンジンの構成について学ぶ。次に、個々の独立した情報システムがネットワークで繋がることによって一つの情報システムとして稼働している例として、病院情報システムを取り上げ、その概要と役割、病院内で働く人々の関わりなどを学ぶ。 本科目は実務経験のある教員による授業科目である。ソフトウェア開発会社に在籍して放射線部門システムの開発業務に携わった経験を活かし、病院情報システムの概要を解説する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目（共通）	福祉データサイエンス		世界的にも類を見ないほど急速に高齢化が進んだ本邦において、工学技術を如何にして社会福祉に役立てるかは重要な課題である。また近年では、さまざまなデータサイエンスの手法が導入され、発展も著しい。本科目では、福祉に関わる概念や基本的人権を踏まえ、工学技術を福祉に応用する際に重要となる人間の身体特性と障害、及び、情報機器の設計思想について、多くの分野に分散した知識の断片を集約し体系化することで理解を深める。	
	デジタル社会とロボット		デジタル社会において、ロボットには人の代わりにサービスを提供する等の役割が求められており、これを実現するためには、活用場面に合わせたロボットの構造や機構、センサ、アクチュエータ、コンピュータ等を選定しなければならない。本科目では、ロボットが活用される場面についていくつか事例を紹介し、ロボットの構成要素やロボットを制御するために必要な内容等を概説する。	
	知能ロボット学		デジタル社会において、ロボットは様々な場面で活用されるが、ロボットには変化するタスクに柔軟に対応し、適切な動作をすることが求められる。本科目では、ロボットの知能を実現するための方法について解説し、ロボットの運動制御や人間との協調制御等における知能の実現、その基本的なアルゴリズムや実現する方法等について学習することを目的とする。	共同
デジタル社会PBL科目	デジタル社会のプラクティス	○	インターネットを基盤として、AI（人工知能）やロボット、IoT（Internet of Things）などのデジタル技術を活用し、「必要なもの・サービスを、必要な人に、必要な時に、必要なだけ提供し、社会の様々なニーズにきめ細かく対応でき、あらゆる人が質の高い サービスを受けられ、年齢、性別、地域、言語といった様々な違いを乗り越え、活き活きと快適に暮らすことができる社会（超スマート社会）」の実現が望まれている。本科目では、様々な分野の概念や手法を統合して新しい価値を創出する総合的能力を習得するために、超スマート社会を構成する事例を理解する。	
	地域エネルギー学		持続可能な地域社会を実現するためには、地域の化石燃料依存を低減することが重要となる。そのためには、再生可能エネルギーの導入や省エネルギーの推進などが求められるが、その効果を知るためには現状のエネルギー需給を理解する必要がある。本科目では、都道府県別エネルギー消費統計等の各省庁が公開している統計データを用いて、エネルギーフローを分析する。得られたフローを元に、再生可能エネルギーや省エネルギーの導入効果について議論をかわし、持続可能な社会の実現に求められる技術や仕組みについて理解を深めることを目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
専門 教育 科目 （共通）	情報データ科学概論Ⅰ	○	情報データ科学部では、デジタル社会で活躍するために、専門分野と情報・データ解析に関する知識、並びにそれを活用する実践力が習得できるカリキュラム編成を行っている。そこで本科目では、情報学・データサイエンスを応用する研究分野について理解を深めるよう、各教員がオムニバスにより行う講義を通じて、それぞれの専門分野の概要、特徴、並びに魅力について学ぶ。 【オムニバス／全8回】 (2 景山陽一) 1. ガイダンス、情報データ科学部の理念、全体概要 (1 水戸部一孝) 2. メタバース (7 巖見武裕) 3. 福祉・介護ロボティクス (8 水田敏彦) 4. 地震防災 (13 高橋環太郎) 5. 観光情報 (23 横山洋之) 6. 情報ネットワーク (17 南斉俊祐) 7. ロボットテクノロジー (18 門廻充侍) 8. 防災情報	オムニバス
	情報データ科学概論Ⅱ	○	本科目は、「情報データ科学概論Ⅰ」に続く科目である。情報データ科学部では高度情報社会で活躍するために、情報学・データサイエンスを学び、それを実践的に活用できるカリキュラム編成を行っている。そこで本科目では、情報データ科学概論Ⅰに続き、情報学・データサイエンスを応用する研究分野について理解を深めるよう、各教員がオムニバスにより行う講義を通じて、それぞれの専門分野の概要、特徴、並びに魅力について学ぶ。 【オムニバス／全8回】 (9 臼木智昭) 1. 経営・経済情報 (2 景山陽一) 2. 機械学習・センシング (6 長縄明大) 3. 医療・ヘルスケア (12 古林敬頭) 4. エネルギー (5 藤原克哉) 5. ソフトウェア (3 有川正俊) 6. フィジカル・サイバー空間融合 (4 石沢千佳子) 7. 情報セキュリティ (2 景山陽一、6 長縄明大、8 水田敏彦、9 臼木智昭) 8. グループディスカッション	オムニバス
	キャリアデザイン	○	自分自身がおかれた環境、考え方、価値観などを含め、自分自身を理解すること、さらにはデジタル社会における職業を理解し、自分自身のキャリアをデザインすることが重要である。本科目では、進路選択に関する卒業生・上級生などの体験、企業などにおける技術開発のあり方や開発戦略、ベンチャービジネスの実状やスタートアップなどに関し、学内外で開催される講演会・講習会・研修会などに参加して職業意識を高める。また、人間を中心としたデジタル社会が要請する事項を理解する力や、職業選択のための思考・判断力を養う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
専門 教育 科目 （共通）	デジタル 社会 P B L 科目	情報学実験 I	○ 情報通信技術（ICT）の基礎知識を習得し、さらに理解を深めることを目的とし、パーソナルコンピュータ（PC）の組み立てから運用に至るまでの一連の作業工程におけるハードウェアとソフトウェアの導入・設定を実践する。具体的には、自ら組み立てたPCへ基本ソフトウェア（OS）をインストールし、ネットワークへ接続するための設定を行い、ファイルサーバの構築やWebシステムの開発環境の構築を行う。また、プログラミングを行うための環境構築も行い、プログラムを作成する。さらに、自らがデザインしたWebサイトを作成し、その運用・管理の方法について考える。 【オムニバス／全 15 回】 （20 内海富博） 1回目：ガイダンス、PCの構成部品と組み立て、BIOSの役割と動作確認 2回目：Linuxのインストール 3回目：Linuxへの仮想環境構築 4回目：仮想環境へのWindowsインストール （21 鄒敏） 5回目：Linuxのネットワーク設定、アップデート 6回目：Windowsのネットワーク設定、アップデート 7回目：ファイルサーバの構築、遠隔操作 8回目：LAMP環境構築 （15 白井光） 9回目：Pythonプログラム開発環境の構築とプログラム作成 10回目：Javaプログラム開発環境の構築とプログラム作成 （4 石沢千佳子） 11回目：HTMLの基礎 12回目：CSSの基礎 13回目：Webサイト作成の基礎 14回目：まとめのプレゼンテーション1（1/2の受講生によるプレゼンテーション） 15回目：まとめのプレゼンテーション2（残りの1/2の受講生によるプレゼンテーション）	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
専門 教育 科目 （共通）	デジタル社会PBL科目 情報学実験Ⅱ	○	本授業では、情報技術に関する専門知識を習得し、さらに理解を深めることを目的とし、次の内容について、自作のプログラムや解析ツールを用いて、様々な条件下で実験を行う。 (1) 高度なコンテンツを生成する際の基本事項となるCGの製作や画像処理の基本的な手法 (2) 組み込みシステムのハードウェア制御の手法 (3) 機械学習による学習と予測の手法 (4) ネットワークの通信パケットの解析 (5) 電子・情報機器を構成しているハードウェアの動作解析 【オムニバス／全 15 回】 (4 石沢千佳子) 1回目：ガイダンス (15 白井光) 2回目：テーマ1「画像処理の基礎」 基本的な画像処理の実行 3回目：テーマ1「画像処理の基礎」 鮮鋭化処理プログラムの作成 (4 石沢千佳子) 4回目：テーマ2「Blenderを用いたCG製作」 Blenderの基本操作 5回目：テーマ2「Blenderを用いたCG製作」 モデリング (20 内海富博) 6回目：テーマ3「ライントレースを中心とした組み込みシステム」 基本的な走行制御 7回目：テーマ3「ライントレースを中心とした組み込みシステム」 複雑なレーンの走行制御 (21 鄒敏) 8回目：テーマ4「機械学習の基礎」 線形回帰モデルの構築 9回目：テーマ4「機械学習の基礎」 気象データを用いた学習と予測 (20 内海富博) 10回目：テーマ5「LANアナライザを用いたパケット解析」 LANアナライザの操作方法 11回目：テーマ5「LANアナライザを用いたパケット解析」 ネットワーク監視 (4 石沢千佳子) 12回目：テーマ6「CPUの基本動作」 減算・乗算・繰り返し処理の実行 13回目：テーマ6「CPUの基本動作」 ハードウェアの制御 (14 中島佐和子) 14回目：テーマ7「アセンブラの基礎」 アセンブラプログラムの作成 15回目：テーマ7「アセンブラの基礎」 様々な計算処理	オムニバス
	知的財産論	○	授業目的 本科目は、我が国の知的財産権制度とその活用を理解することを目的とする。 授業概要 講義の導入として、そもそも知的財産とは何か、知的財産の潮流、私たちの生活に知的財産という概念が何故必要であるかについて概説する。その後、知的財産権法を構成する各要素、すなわち特許（発明）、実用新案（簡易発明）、意匠（デザイン）、商標（ブランド）、著作権、およびその他の法令等について説明し、これらの法的な意味の理解、私たちの生活と知的財産権の関連性、知的財産権の活用戦略（IPランドスケープ）について説明する。	
	ベンチャービジネス論		本科目は、ベンチャー企業を起業するほか、既存の企業や行政組織において新規ビジネスを実現することで、デジタル社会において新規ビジネスを開拓するための考え方を学ぶ。具体的には、起業に必要な経済・経営・会計の実践的で具体的な知識を中心に、ベンチャービジネスのためのスキルや豊富な知識の習得を目指す。またデジタル分野やデジタルトランスフォーメーション関連のビジネス分野での起業経験のあるゲストを招へいし、実践的な知識を深める予定である。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
専門 教育 科目 （共通）	データサイエンスとマーケティング		本科目では、データサイエンスに関する知識や分析手法の基礎を踏まえて、それらのマーケティング分野への拡張について、実際のビジネスでの活用事例を通じて学んでいく。特にデータサイエンスの知見をデジタルマーケティングに応用することで、業績の拡大や経営の安定化につなげる取り組みについて紹介する。また、これらの知識やスキルを利用して、現実の企業のマーケティング活動を分析し、経営課題の解決に向けた提案を行うことができるようになることを目指す。	
	デジタル社会の消費者行動論		本科目では、消費者がどのような心理的な状態を経て情報を探索し、モノやサービスを評価・購入し、消費しているのかについて理解を深める。具体的には、企業のデジタルマーケティングの事例を通じて、消費者の購買行動に働きかけるデジタルツール、WebやSNSなどの活用などの現状と課題を検討し、eコマースなどのデジタル社会における消費者の行動を規定する様々な要因について学んでいく。	
	地域経済とICTビジネス		デジタル社会の到来により、地域経済の各分野では様々なデジタル技術が取り入れられ業務の効率化が進んでいるものの、デジタル人材の不足や経営資源の制約などから、デジタル化の地域間格差が拡大するといった課題も懸念されている。本科目では経営学、観光学、環境経済学などの社会科学の視点から、デジタル社会におけるICTビジネスと地域経済との関係を展望し、その発展の可能性を学んでいく。 【オムニバス／全8回】 （9 白木智昭） 第1回：ガイダンス 地域におけるICTビジネスの可能性 （13 高橋環太郎） 第2回：地域観光のデジタルマーケティング 第3回：地域観光におけるICTビジネスの活用方策 （19 熊丸博隆） 第4回：地域環境問題とグリーントランスフォーメーション 第5回：地域環境問題の解決に向けたICTビジネスの活用方策 （9 白木智昭） 第6回：地域における企業経営とデジタルトランスフォーメーション 第7回：地域企業のデジタル化とICTビジネスの活用方策 第8回：まとめと期末課題	オムニバス
	プロジェクト実践	○	本科目では、技術者に求められるプロジェクトマネジメントの基礎を経験・修得することを目的とし、主に秋田県の地域が抱える課題に対して、オープンデータなどを活用し複数人から構成されるグループにより主体的なプロジェクト活動を行う。具体的には、プロジェクトの課題やスケジュール、役割などの計画案を設定し、グループ内での役割を分担する。なお、1つのグループ内には応用分野が異なる学生が配置され、異なる専門の学生が意見交換できるように編成する。さらに、グループワークを通じて課題の解決方法を検討する。この計画案に基づいて、実践的活動を行う。プロジェクト活動の進捗などに関する中間発表を行い、ディスカッションを通じて得られた内容を基に、後半のグループワークを遂行する。講義の最後には、プロジェクト活動により得られた成果を発表し、ディスカッションを通じて、グループ間の知の共有を行う。	共同
	DXプロジェクト実践	○	情報・データ解析に関する知識、それを活用する実践力、並びに柔軟な発想力を育成するため、これまでに学習した専門分野に関する知識や技術を利用・応用し、地域の課題の解決にむけたテーマの実習を行う。具体的には、各テーマの実習を行う前に、実社会における情報システム・ソフトウェアの構築手法や業界の動向など学ぶ。次に、地域に関係する企業等と連携し、地域の課題解決にむけたテーマについてグループワークを行う。なお、1つのグループ内には応用分野が異なる学生が配置され、異なる専門の学生が意見交換できるように編成する。最後に、検討した内容について発表・ディスカッションを実施し、知の共有を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目（共通）	外国文献講読	○	情報データ科学部の各応用分野において、推進されている専門分野に関する論文情報の収集方法を学び、選定した英語原著論文を講読する。次に、その論文の内容を正しく理解するとともに、科学技術論文の英語表現、学術用語について基礎的な知識を修得する。さらに、論文の内容を整理してプレゼンテーションを行う。これらの経験を通じて、本科目では論文の構成や展開、結果の提示方法、要約方法、プレゼンテーション手法などを習得する。	
	インターンシップⅠ		卒業後の職場として想定される企業などで実施されるインターンシップを通じて、これまでに学習した基礎理論を実践の場で経験し、科学・技術に対する社会の要請を理解する能力を高める。また、理論や方法に基づく技能や社会に適用する実践力・応用力、コミュニケーション力を実体験から学ぶことを目的とする。本科目の単位は、5日間（30時間）以上の汎用的能力活用型の就業体験を行い、受け入れ先からの評価、レポートの提出およびプレゼンテーション報告会の内容を評価して認定する。	
	インターンシップⅡ		卒業後の職場として想定される企業などで実施されるインターンシップを通じて、これまでに学習した基礎理論を実践の場で経験し、科学・技術に対する社会の要請を理解する能力を高める。また、理論や方法に基づく技能や社会に適用する実践力・応用力、コミュニケーション力を実体験から学ぶことを目的とする。本科目の単位は、2週間（60時間）以上の専門活用型就業体験を行い、受け入れ先からの評価、レポートの提出ならびにプレゼンテーション報告会の内容を評価して認定する。	
卒業研究系科目	国際キャリアデザイン		本科目は、ICT（情報通信技術）や数理・データサイエンス・AIに関する知識や技術などを基礎とし、グローバル社会で活躍できる人材になるために、海外における活動を通じてキャリアデザインを行う。具体的には、(1)留学により学習・経験した内容を通じて、大学における学習目的を明確に意識する。(2)他者とのコミュニケーションを通じて、グローバル社会を理解する。(3)留学を自らの適性や将来の進路を考える機会とするために、主体的に判断する。(4)異なるコミュニティにおいて倫理的に活動する。	
	研究プロポーザル	○	本科目では、「卒業課題研究」における研究課題の設定を行うため、関連する内容の調査や技術の習得を行う。また、秋田大学研究倫理規程を遵守し、研究者の一人として取り組むことを認識する。次に、研究課題の実施に向けた計画の策定とプロポーザルを行う。同時に、プレゼンテーション用の機器やソフトウェアの使い方も習得する。実施した内容に関しては、整理して発表とディスカッションを行い、その内容を「卒業課題研究」における取り組みとする。	
	卒業課題研究	○	設定した研究テーマについて自ら積極的に研究し、卒業論文の提出と発表およびディスカッションを行う。本科目は、情報データ科学部における各応用分野に関連する学問分野の進歩に貢献するとともに、参考資料の収集方法、課題への取組み方、関連機器の操作、データの取扱いと整理、論文のまとめ方、発表の仕方などの技術を総合的かつ体験的に修得する。また、具体的な課題に取り組む過程を通じて、技術者としての倫理的責任を理解する。	
専門教育科目（応用分野）	数値シミュレーションⅠ		(1) 数値の表記法に関して理解し、コンピュータ内部での数値表現を学ぶ。 (2) 丸め誤差や数値演算実行時の誤差の発生に関し学ぶ。 (3) デジタル数値表現の行列計算を用いた、連立方程式の解、逆行列の算出方法を学ぶ。 (4) データ点の補間、最小2乗法ならびに数値による微分、積分等の方法を学ぶ。	
	数値シミュレーションⅡ		(1) 方程式の近似解と補間を学ぶ。 (2) 数値シミュレーションのためのモデリングを学ぶ。 (3) 常微分方程式、偏微分方程式に基づく物理シミュレーションを学ぶ。 (4) セルオートマトンを使ったシミュレーションを学ぶ。 (5) 乱数を使った確率的シミュレーションを学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門 教育 科目 （応用分野）	テキストマイニング		テキストマイニングとは、テキストデータを対象として意味のある情報を抽出することである。インターネットや様々なサービスにおいて多くのテキストデータが蓄積される中で、それらの情報から如何にして有益な情報を取得して、さまざまな社会的・技術的課題を解決するかは重要なスキルとなる。本科目では、テキストマイニングに関する基礎知識を得ると同時に、Pythonなどのプログラミング言語を用いて言語解析や統計処理などを実践し、テキストマイニングに関する理解を深める。	
	プロセスマイニング・オートメーション		デジタルトランスフォーメーション（DX）におけるプロセスマイニングの手法と、ノーコード・ローコードによるプロセス自動化（RPA）について学ぶ。業務改革において、現状分析が最初のプロセスであるが、これを担当者へのヒアリングなどで実施する手法では、コストや時間がかかるとともに、主観的になり正確さに欠ける課題がある。プロセスマイニングは、使用中の情報システムのイベントログから分析することで、業務プロセスの可視化やデータに基づいた現状分析を実現する。これにより、データ主導の根拠を持った業務改善につなげることができる。情報システム化されていない非定型業務の自動化では、ノーコード・ローコードによるプロセス自動化（RPA）が有効である。本科目では、これらの知識や技術体系について実践的に学んでいく。	
	データサイエンスとオープンデータⅠ		高度情報化社会では、あらゆるところで日々大量のデータが生成され、公共の利益に資するように、オープンデータとして公開されている。本科目では、オープンデータのような大規模データの中から知識を抽出する手法であるデータサイエンスおよびデータマイニングの基礎知識・技術を学習する。データ処理に強いR言語を使って、データサイエンスおよびデータマイニングの基本的アルゴリズムを具体的に理解するために、実際のオープンデータを用いて演習課題に取り組む。具体的には、データクレンジング、データ処理、統計解析処理、情報可視化、データストーリーテリング作成までの、データサイエンス・ライフサイクルの上流から下流までのプロセスを理解した演習を通して、データサイエンスとオープンデータの知識と技術を習得する。	
	データサイエンスとオープンデータⅡ		高度情報化社会では、あらゆるところで日々大量のデータが生成され、公共の利益に資するように、オープンデータとして公開されている。本科目では、オープンデータのような大規模データの中から知識を抽出する手法であるデータサイエンスおよびデータマイニングの基礎知識・技術を学習する。データ処理に強いR言語を使って、データサイエンスおよびデータマイニングの基本的アルゴリズムを具体的に理解するために、実際のオープンデータを用いて演習課題に取り組む。具体的には、データクレンジング、データ処理、統計解析処理、情報可視化、データストーリーテリング作成までの、データサイエンス・ライフサイクルの上流から下流までのプロセスを理解した演習を通して、データサイエンスとオープンデータの知識と技術を習得する。	
	応用生体計測Ⅰ		世界的にも類を見ないほど急速に高齢化が進んだ本邦では、いかに高齢者の健康寿命を延伸するかが、国の大きな課題となっている。日常生活において連続的にヒトの健康状態を調べる計測技術と異常の兆候を早期発見する検出技術の開発は急務である。本科目では、ヒトの計測に関連する基礎知識と手法を体系的に学習すると共に、応用事例を学ぶことで生体を計測するための思考力を養成する。	
	応用生体計測Ⅱ		世界的にも類を見ないほど急速に高齢化が進んだ本邦では、いかに高齢者の健康寿命を延伸するかが、国の大きな課題となっている。日常生活において連続的にヒトの健康状態を調べる計測技術と異常の兆候を早期発見する検出技術の開発は急務である。本科目では、ヒトの計測に関連する基礎知識と手法を学習・記憶すると共に、具体的な応用事例を学ぶことで生体を計測するための思考力を養成する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
専門 教育 科目 （応用 分野）	人間情報系科目 視覚認知の感性と科学Ⅰ		製品や環境におけるユーザビリティを考える上で、人間の視覚特性を考慮することは重要である。本科目では、人間の眼に入った情報がどのように処理され、どのように感じるのか、という視覚のメカニズムと感性に関する基礎知識を習得することを目的とする。具体的には、人間の眼の構造、色覚、色や明るさに関する視覚特性と感情、色覚多様性、アクセシブルデザインなどについて学ぶ。また、映像表示機器および映像記録機器の仕組みについても学び、人間の視覚との類似点・相違点を理解する。	
	視覚認知の感性と科学Ⅱ		製品や環境におけるユーザビリティを考える上で、人間の視覚特性を考慮することは重要である。本科目では、人間の眼に入った情報がどのように処理され、どのように感じるのか、という視覚のメカニズムと感性に関する基礎知識を習得することを目的とする。具体的には、人間の視覚における時間的・空間的分解能、映像が心理と身体に与える影響、動きと奥行きを知覚する仕組み、眼球運動の種類と視線計測技術の概要、人間の成長と顔の認知の関連、について学ぶ。	
	信号解析学		今日では、音楽、電話、テレビなど我々の身の回りにある情報・データの多くがディジタル化されている。音声信号などのアナログ信号をコンピュータで処理するため、信号をサンプリングし、離散時間信号であるディジタル信号に変換している。本科目では、信号をコンピュータに取り込むときに重要なサンプリング定理、離散時間信号を周波数解析するときに使用する離散フーリエ変換など、コンピュータを利用して信号解析するときに必要な事項を学習する。	
	音響AI学		我々は、様々な音に囲まれて生活しており、その音から多くの情報・データを得ている。情報処理機器では、音（音響信号）がディジタル化され、離散フーリエ変換やディジタルフィルタリングによる様々な処理が行われている。本科目では、音をコンピュータに取り込んで処理するための基礎を学ぶ。はじめに、音波の物性・基本的特性、聴覚の基本的性質などについて理解を深める。そして、音響信号を処理するためのディジタルフィルタとその設計方法、機械学習に用いるための特徴抽出方法などを学習する。	
知能 ロボ ティク ス系 科目	コンピュータ制御の基礎Ⅰ		コンピュータを用いてロボットを制御するためには、その基礎学問である制御工学に関する知識を身に付ける必要がある。本科目では、制御の考え方を理解し、伝達関数によるモデル表現に必要となる数学「ラプラス変換」について講義を行った上で、システム表現である伝達関数表現や、ブロック線図を用いたシステム表現、さらにシステムのふるまいを時間応答で表すために必要となる、過渡応答計算の仕方や応答の評価の仕方等について学習することを目的とする。	
	コンピュータ制御の基礎Ⅱ		コンピュータを用いてロボットを制御するためには、その基礎学問である制御工学に関する知識を身に付ける必要がある。本科目では、コンピュータ制御の基礎Ⅰで学んだラプラス変換やブロック線図等を基礎とし、周波数応答の求め方や活用の仕方の基礎事項に加え、フィードバック制御系の定常特性や安定性を評価する方法について講義する。さらに、産業界で最も広く導入されているPID制御の基礎として、比例、微分、積分の各要素が制御系に与える効果や、位相遅れ・進み補償の考え方等についても学習することを目的とする。	
	コンピュータ制御工学		ロボットは、コンピュータにより制御されるが、これを行うためにはディジタル制御に関する知識を身に付ける必要がある。本科目では、コンピュータ制御の基礎Ⅰ・Ⅱで学んだ制御工学を基礎とし、これをディジタル制御系へ展開するため、アナログ・ディジタルの信号変換や離散時間モデル表現に必要な「z変換」に関する講義を行った後、ホールド回路とパルス伝達関数、離散時間システムの過渡応答の計算、極・ゼロ点配置と過渡応答の関係、ディジタルPID制御等について学習することを目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
専門 教育 科目 （応用 分野）	知能ロボット デバイス 系科目		ロボットを開発するためには、ロボットの運動学や動力学に加え、センサやアクチュエータ等に関する知識を身に付け、ロボットが使用される場面に適した仕様を決定し、機構の設計、アクチュエータの選定、機構部品や電子部品の選定等が必要になる。本講義では、実際にロボットを動作させるために必要な力やトルクの力学計算、アクチュエータやセンサの選定、ロボット制御に必要な電子回路等、ロボット設計に必要な基礎的事項について概説する。	
	基礎ダイナミクス		力学は、ロボティクスや地震・防災等の工学において基礎となる学問の1つである。本科目では、質点の運動と力について、ベクトルと微積分を用いた基礎的な取り扱い方と基本的な法則を学び、さらに質点の回転運動の他、エネルギーに関する原理的法則や考え方について理解し、それらを利用できる能力を養うことを目的とする。なお、授業では、実例を活用しながらそれらのイメージが明確になるように解説する。また、授業の到達目標が達成できるように適宜、演習問題や小テストの解答提出を求め、到達度の確認を行う。	
	ロボット運動学		コンピュータ技術の発達に伴い、ロボットは産業界のオートメーション化のみならず、医療や福祉、介護現場等における人間を支援する場面でも活用されてきている。本科目では、ロボットが活躍する場面を紹介した後、ロボットの機構や運動学について概説する。特に、マニピュレータの運動学は、ロボットを制御するためにも重要であり、物体座標系や回転行列、同次変換行列、リンクパラメータ、順運動学と逆運動学、ヤコビ行列に加え、静力学についても説明する。	
	ロボット動力学		コンピュータ技術の発達に伴い、ロボットは産業界のオートメーション化のみならず、医療や福祉、介護現場等における人間を支援する場面でも活用されてきている。本科目は、ロボット運動学の運動学に続く科目として、ロボットの動力学と運動制御について概説する。特に、マニピュレータの動力学は、ロボットを制御するためにも重要であり、その運動方程式の導出、順動力学と逆動力学、また、運動制御として、位置制御、関節サーボ系、力制御について説明する。	
	コンピュータ支援設計学		人間を支援するロボットを開発するためには、ロボットに求められる機能や仕様を策定し、その動作を実現するための機構設計や部品選定、加工・組立等のプロセスが必要となる。本実習では、3次元CAD（Computer Aided Design）を活用してロボット設計の基礎を習得し、実際にロボットの設計とそのアニメーション化、構造の力学解析等を通じて、実践的な知識と技能を修得することを目的とする。	
	生体力学シミュレーション		人間を支援するロボットやリハビリテーションを支える機器等を設計するためには、生体の構造や運動等を力学領域から解明したり、その結果を技術開発に応用できることが必要である。本講義では、生体の構造や運動等の基本的な内容に加え、構造解析や運動解析等の基礎、さらに、コンピュータを活用してシミュレーションを行う等の基礎的な内容について概説する。	
	生体情報と医療機器		ICTとデータサイエンスを活用し、新しい付加価値のある医療・介護機器を研究開発していく上では、現存の医療・看護の場面で使用されている機器として、生体情報を測定する原理、医療機器の構成と機能等について学ぶ必要がある。本科目では、運動等の生体情報を計測する機器、内視鏡やCT、MRI等の体内を診断する機器、電気メスや医療ロボット等の病気を治療する機器、救急医療で必要とされる機器の他、最新のウェアラブルデバイス等について概説する。	
	生体運動計測とデータサイエンス I		本科目では、医療・福祉工学関連で活躍できるエンジニアに必要な医学的知識やリハビリテーション技術を習得する。はじめに主な運動障害と疫学・データサイエンスについて学び、人の成長・発達と老化、それに伴う心と身体の変化など、フレイル予防等に関する内容についても講義する。そして、人間の日常生活をロボティクスやICTの観点から支援する機器を開発するために必要な、医療福祉機器の役割と課題について考える。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
専門 教育 科目 （応用分野）	知能ロボティクス系科目 生体運動計測とデータサイエンスⅡ		身体運動の計測は、身体各部の相対位置と角度に注目する運動学的計測、その運動の原因あるいは結果としての力の作用に注目する力学的計測、運動および力の統合と維持に注目する生理学的計測の3つに大別される。本科目では、身体運動の運動学と力学の解析基礎を学び、モーションキャプチャ装置と床反力計による計測データを利用して運動解析を実践する。	
	防災・エネルギー情報系科目 防災情報概論Ⅰ		わが国は地理的、地形的、気象の諸条件から地震、台風、豪雨、豪雪、洪水、土砂災害などの自然災害が発生しやすい国土となっている。特に、日本は世界有数の地震国であり、これまでたびたび大きな地震にみまわれ、多大な損害を被ってきた。地震による損害を最小限に抑えるためには、地震災害を減らすための基本的な考え方を身につける必要がある。本科目では、これまでに発生した代表的な地震災害を取り上げながら、過去の地震被害から得られた教訓、国・地方自治体の地震被害想定、また、被害を軽減し人間の生命、財産を守るための情報技術、都市防災の基礎となる諸方策や防災システムについて学ぶ。	
	防災情報概論Ⅱ		我が国では、自然災害の発生頻度は増加しており、これまで数多くの被害を経験してきた。特に、気象災害、風水害および土砂災害の影響は増大しており、それらの防災情報の重要性は増している。そこで本科目では、まず台風、ゲリラ豪雨など気象災害、風水害および土砂災害のメカニズムを学習する。次に、各種災害の警報・注意報・予報など防災情報を学習し、防災情報を正しく活用できるようになることを目的とする。なお、本科目では、地震災害、津波災害は扱わないので、「防災情報概論Ⅰ」とあわせて履修すること。	
	防災計画		都市が発展する過程には、居住する人々が災害と向き合い、その対策を実施してきた歴史が存在し、また科学技術の進歩とともに人と災害との関係も変遷してきた。本科目では、災害の特徴を分析した上で、都市における各種災害の発生・拡大メカニズム、防災まちづくりについて事例を踏まえて示し、これらの防災対策および都市防災計画の基礎知識を学ぶ。また、自然災害の被害軽減と地域強靱化を目指す減災科学と人材育成、減災科学をベースとしたレジリエンスな社会と先進科学技術による未来社会を学ぶ。	
	防災・減災とデータサイエンス		我が国では、自然災害の発生頻度は増加しており、これまで数多くの被害を経験してきた。防災・減災分野においても、近年のデータサイエンス関連技術を活用した事例が報告されている。例えば、発災時に地図データ、衛星画像、SNSデータといった多様なデータを統合・活用してリアルタイムで被災状況を推定し、共有する取組である。本科目では、防災・減災分野におけるデータサイエンスの活用事例を学習することを目的とする。	
	時空間情報学		オープンデータなど様々な情報を活用できる現代において、その中から有効な情報を見だし、各分野で活用することは重要である。例えば、位置と紐づいている情報は、地図上に統合して表現することが可能である。そこで本科目では、まずGIS（Geographic Information System：地理情報システム）の基礎知識と活用事例を学習する。次に、GISソフトウェアの一種であるQGISの基礎的な解析方法を学習し、QGISを正しく活用できるようになることを目的とする。なお、本科目は「時空間情報演習」と続く内容となるため、あわせて履修すること。	
	時空間情報学演習		オープンデータなど様々な情報を活用できる現代において、その中から有効な情報を見だし、各分野で活用することは重要である。そこで本科目では、まずGIS（Geographic Information System：地理情報システム）の活用事例を学習する。次に、GISソフトウェアの一種であるQGISの応用解析方法を学習し、QGISを研究等で活用できるようになることを目的とする。なお、本科目は「時空間情報」から続く内容となるため、あわせて履修すること。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目（応用分野）	防災・エネルギー情報系科目 都市災害シミュレーションⅠ		災害の多くは広域で発生する自然現象であるため全体像を掴むことは難しい。そのため、現在の災害研究においてはシミュレーションが重要な手法となっている。また、災害調査・観測から得られた貴重なデータを有効活用するためにもシミュレーションは不可欠である。本科目では、災害の特徴を分析した上で、都市における各種災害の発生・拡大メカニズムについて事例を踏まえて示し、災害に対するシミュレーションおよびリスク評価に関する基礎知識を学ぶ。	
	都市災害シミュレーションⅡ		災害の多くは広域で発生する自然現象であるため全体像を掴むことは難しい。そのため、現在の災害研究においてはシミュレーションが重要な手法となっている。また、災害調査・観測から得られた貴重なデータを有効活用するためにもシミュレーションは不可欠である。本科目では、地震によって発生する災害を対象として、災害発生の素因と誘因を把握する手法について解説した上で、得られた結果をマルチエージェント手法を用いてシミュレーションを行うGIS防災への応用技術を学ぶ。	
	エネルギーとデータサイエンスⅠ		エネルギー問題の解決には多様な視点が不可欠であり、多くの場合においてトレードオフが存在する。本科目ではエネルギーと技術、環境、経済との関連について理解することを目的として、エネルギー分析について講義する。エネルギーのコストや価格、CO2排出量、各需要部門の需要量について概説し、エネルギーの基礎知識を学ぶ。日本のエネルギー需給構造を表すエネルギーバランス表を元に、エネルギーと経済の関連について解説して、環境性と経済性の両立するエネルギー需給構造の最適化手法を習得する。	
	エネルギーとデータサイエンスⅡ		地理情報システム（GIS）を用いて、多様なデータからなるレイヤー構造の空間情報分析について学ぶことを目的とする。人口や産業構造から、市町村別のエネルギー消費量を推計して可視化する。また、再生可能エネルギーの賦存量分布を可視化して、2つの異なるデータをGISにてマッピングすることで、エネルギー需給の偏在性を示す。現状の道路網や電力網などのインフラについて説明して、持続可能な社会に求められるエネルギーのサプライチェーンについて学ぶ。	
	エネルギーマネジメントⅠ		エネルギーは需要と供給が一致することが原則であり、特に電力は貯蔵することが容易ではないため常に需給の一致が求められている。そのため、多様な資源や技術を組み合わせ、需給バランスを保つためのエネルギーマネジメントが重要となる。本科目では、国レベルの詳細なエネルギー需給構造の現状と、化石燃料や再生可能エネルギーの特徴、現在のエネルギー政策などについて解説して、これまでのエネルギー需給構造の変遷を理解するとともに持続可能な社会に向けてどのようなエネルギー需給が求められるかを考察することを目的とする。	
	エネルギーマネジメントⅡ		地域のエネルギー需給について考える場合、気候やインフラなど、国とは異なる地域独自の特性を考慮しなければならない。本科目では、地域に求められるエネルギーマネジメントについて考察することを目的として、都道府県単位のエネルギー需給構造やエネルギーインフラ、再生可能エネルギーの偏在性を示し、地域でのエネルギー供給事業やエネルギーマネジメント事例について解説する。また、建物単位について解説することで、身の回りのエネルギーマネジメントについて考察する。	
自由科目	入門科目 入門数学Ⅰ		<授業の目的> 専門分野を学修する上で必須となる「ツールとしての数学」を学ぶ（特に、三角関数、指数・対数関数と微積分に重きを置く）。高校数学の理解・習熟の不足を補い、理工系で必要となる数学の学習につなげる。 <授業の概要> 「理工学のための数学（ミニマム）」と割り切り、①定義や公式に基づく正しく推論する態度、②三角関数の徹底理解、③指数・対数関数の徹底理解、④微分・積分計算とその意味を重点的に取りあげる。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
自由 科目 教 職 科 目	入門数学Ⅱ		＜授業の目的＞ 本科目は入門数学Ⅰに続く科目である。 専門分野を学修する上で必須となる「ツールとしての数学」を学ぶ（特に、三角関数、指数・対数関数と微積分に重きを置く）。高校数学の理解・習熟の不足を補い、理工系で必要となる数学の学習につなげる。 ＜授業の概要＞ 「理工学のための数学（ミニマム）」と割り切り、①定義や公式に基づく正しく推論する態度、②三角関数の徹底理解、③指数・対数関数の徹底理解、④微分・積分計算とその意味を重点的に取りあげる。	
	人間形成論Ⅳ		【授業の目的】 授業の前半では、教育の理念並びに教育についての基本的な概念及びその背景にある教育の思想について、各種法令や教育観をふまえながら明らかにする。授業の後半では、学校教育の成り立ちや日本における教育制度・課程の歴史をたどりながら、現在の学校教育の意義を理解する。 【授業の概要】 授業の前半では、近代公教育制度の成立の過程および日本の学校教育の成立と展開をたどることにより、現在の学校教育の歴史的背景について概観する。また、現代における様々な教育問題を取り上げ、その社会的、歴史的背景について学習する。そのことをふまえて、現代における様々な教育課題について、討議・検討していく。 授業の後半では、教育基本法や学校教育法などの諸法令にあらわれた教育の目的、目標を取り上げるとともに、その背景にある教育の思想や概念及び教育観について社会、政治、文化等から学習する。また、それに基づいて、教育の理念に関わる様々な教育課題について、どのように理解するか、対処していくのかを、講義するとともに、全体で討議する。	共同
	教育原論		教育思想・哲学の源流、および教育史を学び、教育の普遍的原理について学習する。次に現代の教育制度の「ゆらぎ」、「ゆがみ」や学校の果たす社会的機能の変化を確実にとらえ、教育の普遍的原理が脈々と受け継がれながらも、社会変動（変容）に翻弄される避けたい矛盾と葛藤が、学習者自らの被教育体験から導かれる教育感性の中にも、矛盾あるいは葛藤として見いだされることを実感させる。そのことにより、現代の教育問題や教育課題が学習者自らの内面にも投影されていることへの「気づき」を促し、公教育における教育理念に関する感性を涵養し、教育問題や教育課題への未来志向的な思考の萌芽を紡ぐ。	
	教職入門Ⅱ		教職の意義、教員の役割、職務内容に関する理解を深めさせることで、幼稚園・小学校等の教員を志願する者に教職に対する自らの適性を考察させ、教職への意欲や一体感の形成を促す。 (1) 教員を志願する者に理想とする教員像が明確になる。 (2) その実現のための履修計画を立てることができる。 (3) 教職に就くことについて多角的に考察することができる。 (4) 教職の実体験の機会を通じて、教職への意欲・適性等を熟考し、進路選択を行うことができる。	共同
	教職概論		教職の意義、教員の役割、職務内容に関する理解を理解するための科目である。学校、教育について概説し、教員を志願する者がこれからの履修計画を立てることを目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
自由 科目 教 職 科 目	教育経営論Ⅱ		【授業の目的】 教育に関わる条約や憲法、各種法令・答申・政策を踏まえて、明治期から現在までの教育経営の歴史的変遷、現状と課題、学校と地域との連携や種々の学校安全・危機管理について学生が理解する。 【授業の概要】 学校や中央・地方の教育行政機関の機構や機能、財政、職員について取り上げながら、その背景にある社会・政治・経済状況との関わりについて学習する。そのことを踏まえて、教育の経営に関わる様々な教育課題について、どのような理解し、解決していくのか、調査・討議・発表などを交えて学生が学習する。	
	教育社会学		本科目では、現代社会を特徴づける社会的な営みである教育について、その制度や役割、教育を取り巻くさまざまな事象を取り扱い、これらを読み解くために必要な教育社会学の基本概念・理論を学ぶ。また、教育問題や現象について、あるべき理想像を考えるのではなく、その構造やメカニズムを解明する学問であるという教育社会学の性質に照らし、これまでの「常識」を疑う姿勢を持ち、多面的・客観的に論じられるようになることを目指す。その際、学んだ知識に加え、データや資料の適切な分析・解釈を通じた経験科学的な議論ができるようになることも重視する。 よって講義内では、基本的な知識の獲得だけでなく、昨今の教育問題・教育現象について、ディスカッションやグループワークを通じ、議論の中で考察を深めていく。	
	教授・学習の心理学（学習・言語心理学）Ⅱ		授業の目的について形式陶冶と実質陶冶という古典的な議論をふまえ、授業を通して知識を体系化し獲得する意義とその過程について学ぶとともに、近年、学校現場でも導入が進められている問題解決型授業について考える。後半では、児童・生徒の学力について、教育心理学の基礎的知識と近年行われた諸種の調査データから学ぶ。最後に、本科目をモデルとして教育評価の手続きを演習形式で修得する	

授 業 科 目 の 概 要				
(情報データ科学部 情報データ科学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
自由 科目 教職 科目	特別な教育的ニーズの理解とその支援Ⅱ		以下の授業計画に従って、我が国の障害児教育の歴史、インクルーシブ教育が推進されるに至った背景や国内外の動向、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性および支援の内容・方法について学び、その学びをもとに特別支援学校や特別支援学級、通級による指導の教育課程や具体的な支援について学ぶ。また、これらをもとに、今後共生社会の形成に向け、学校教育の果たす役割と内容について学びまとめとする。 *授業計画（オムニバス：全15回） (担当：54 藤井慶博) 第1回：特別支援教育の理念とインクルーシブ教育システムの構築 第2回：障害者差別解消法と学校教育の諸問題の理解・対応（母国語や貧困等の教育的ニーズを含む） (担当：77 鈴木徹) 第3回：特別の支援を必要とする児童等の障害の特性と支援の内容・方法（1）LD、ADHD 第4回：特別の支援を必要とする児童等の障害の特性と支援の内容・方法（2）ASD、軽度知的障害 第5回：特別の支援を必要とする児童等の障害の特性と支援の内容・方法（3）知的障害 第6回：特別の支援を必要とする児童等の障害の特性と支援の内容・方法（4）肢体不自由 (担当：53 藤井慶博) 第7回：特別の支援を必要とする児童等の障害の特性と支援の内容・方法（5）病弱・身体虚弱 第8回：特別の支援を必要とする児童等の障害の特性と支援の内容・方法（6）視覚障害 第9回：特別の支援を必要とする児童等の障害の特性と支援の内容・方法（7）聴覚障害 第10回：特別支援学校における教育課程と支援 第11回：特別支援学級及び通級による指導における教育課程と支援 第12回：通常の学級における支援と配慮（授業のユニバーサルデザイン含む） 第13回：交流及び共同学習の推進と心のバリアフリー 第14回：特別支援教育を推進するための支援体制整備と関係機関との連携 第15回：共生社会の形成に向けた学校教育の果たす役割と内容	オムニバス
	教育課程論Ⅱ		教育課程と学習指導要領についての理解し、自分でカリキュラムのデザインとマネジメントができるようになることが本科目の目的である。到達目標は、以下の3点である。 (1) 中学校と高校の教育課程の意義について理解する。 (2) 学習指導要領と教育課程の編成の方法を理解する。 (3) 各学校の実情に合わせたカリキュラム・マネジメントを行うことの必要性を理解する。	
	総合的な学習の時間Ⅱ		総合的な学習の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す。各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。	
	特別活動論Ⅱ		総合的な学習の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す。各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
自由 科目 教職 科目	教育方法技術論Ⅱ		授業を設計・実施・評価するために必要な知識や技術を習得することを目的とし、わかりやすい授業を設計する方法論、とりわけ小学校段階における授業内のコミュニケーションを支援する環境や方法（ティームティーチングや習熟度別学習等）、学力向上に向けた取り組み、教育メディア等に関する国内外の諸理論や実践記録を検討することを通して、教えるための方法や技術について考える。また、学習指導案の作成及び模擬授業を行い、教師として授業を行う基礎的な知識や技術を習得する。	
	ICT活用教育実践論Ⅱ		本科目では、子どもの学びを促し深めるためにICTがどのように活用できるのか、そして子どもたちの情報活用能力を伸ばす実践とはどのようなものかについて考えていく。 子どもの学びを促し深める様々なツールが存在する中で、ICTならではのメリットはどこにあるのか。 また情報は、知識や判断、決定と関わりがある。これからの時代を生きていく上で必要な情報活用能力を育むために、どのような授業デザインが可能か、考えていく。	
	生徒・進路指導の理論と方法Ⅱ		近年、子どもを取り巻く社会環境の急激な変化とともに、学校教育現場では、かつて体験しなかった様々な問題に直面し、新たな対応を求められることとなった。そこで、青年期に関する発達心理学および臨床心理学の基本的知識の理解を深め、さらに学校と家庭、学校と地域社会をはじめとした社会における学校教育の果たす役割、とりわけ「生きる力」との関連において生徒指導の教育的意義を検討する。	
	生徒・進路指導論		学校教育現場における心理臨床について概説する。授業では、臨床心理学と教育の両方の視点を重視し、これらがどのように関係するのかを考えていく。さらに、現在の教育現場で生じるさまざまな事象（「不登校」や「いじめ」）を題材にして、その理解と対応の仕方について学ぶ。	
	教育相談の理論と方法（健康・医療心理学）Ⅱ		学校教育現場における心理臨床について概説する。授業では、臨床心理学と教育の両方の視点を重視し、これらがどのように関係するのかを考えていく。さらに、現在の教育現場で生じるさまざまな事象（「不登校」や「いじめ」）を題材にして、その理解と対応の仕方について考える。さらに、スクールカウンセラーを含む関係機関及び保護者との協働の在り方についても考察する。	
	教育実習事前事後指導		教育実習の事前において、まず教育実習の目的を自己再認識するために、「教育実習の目標」をテーマとする小論文を作成し、自己課題を明確化する。次に「教育実習の心得」はもとより、「教育実習記録」の記載方法を理解し、実習目的が、自己の教職専門者としての資質能力の把握と自己課題化にあることを認識する。そして、各教科教育等で修得した教科教育に関する専門的理論と知識、特別活動の意義を踏まえた学級経営理論と知識等を確認し、教員養成段階に求められる理論と知識、技能の自己理解度を模擬授業（マイクロティーチング）実践することで確認する。	
	高等学校教育実習		教育実習で求められる「教員としての資質能力」及び実践的指導力を発揮し、自己省察し、自分の教職への適性を見極め、現象の自分の課題を明確化する。 教職課程を担当する教員が、実習校を訪問して巡回指導する。 ・教育実習での服装や態度に関する事項 ・「教育実習の手引き」に基づいた「教育実習記録」の記載の方法 ・「履修カルテ」の活用方法 ・模擬授業 ・「麻疹の抗体保有証明書」の発行と提出の方法 ・「誓約書」の提出方法	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報データ科学部 情報データ科学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
自由 科目 教職 科目	教職実践演習（中・高）		教育実習を終えた学生を対象にして、教職課程全体の履修を通じて、「教員としての資質能力」を確実に身につけることを目的とする。以下の到達目標を設定している。 (1) 「教師に求められる資質能力」を理解できる。 (2) 「教師に求められる資質能力」として、使命感や責任観、教育的愛情はもちろん、①地球的視野に立って行動するための資質能力、②変化の時代を生きる社会人に求められる資質能力、③教員の職務から必然に求められる資質能力等を理解できる。 (3) 「実践的指導力」を身につけることができる	
	情報科教育法Ⅰ		情報教育では科学的な視点と社会と情報とのかかわりに関する視点をはぐくむ必要がある。本科目では、「情報Ⅰ」について詳細に解説、検討し、それを実際の授業でどのように教えるのかについて実践的に学ぶものである。特に学校現場で問題になっている情報モラルについて中心的に扱い、教科の指導だけでなく、生徒指導にも生かせるようにする。	
	情報科教育法Ⅱ		本科目では学習指導要領で示されている「主体的・対話的で深い学び」について理解を深めると同時に、ICT活用授業やアクティブ・ラーニングにより教科「情報」、とりわけ「プログラミング」に関して、深い学びをいかに作っていくかを受講生と議論しながら考えていく。	